

147

50

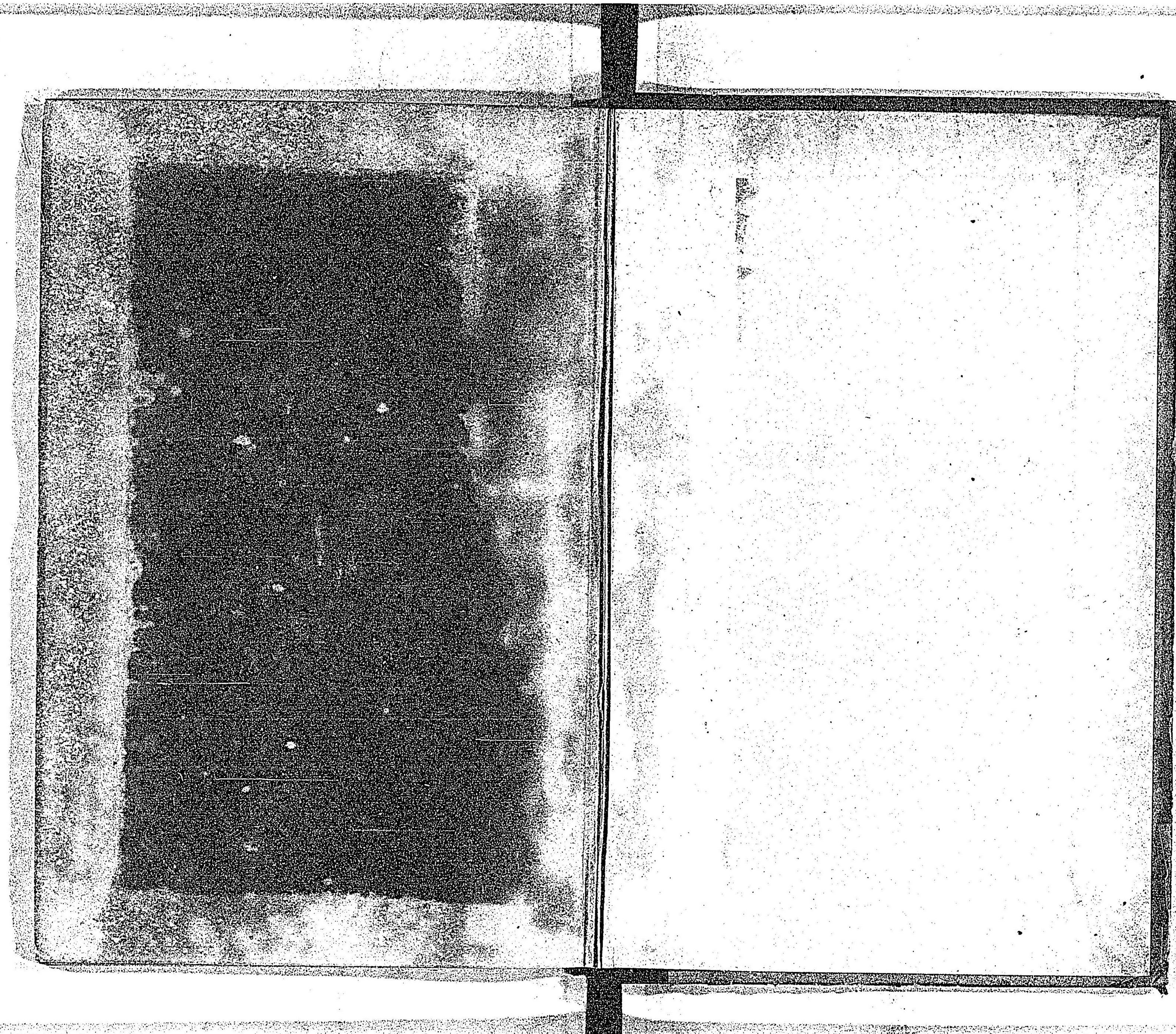
司法省藏版

佛國行政訴訟論

第四

明治十九年四月印行







佛心

佛法  
省藏版

佛心  
正言  
論

明治十九年四月印行





ルセリニ 行政訴訟論第四卷

目次

丁數

○第二卷 行政裁判官タル宰相

一

○第一章 宰相ハ其判決權ヲ固有スルヤ及ヒ該判決

權ノ性質如何

一

○第二章 行政訴訟ニ關スル宰相判決ノ部類ニ入ル

可キ文書

二三

○第三章 豫審ノ程式行政訴訟ニ係ル宰相判決書ノ

控訴手續及ヒ其執行手續

八八

○第三卷 行政訴訟裁判官タル州長郡長及ヒ邑長

一二三

○第一章 州長

一二三

○第二章 郡長

一八二



- 第三章 邑長 一九四
- 第四卷 會計法院 二二〇
- 第一章 會計法院ノ原因及ヒ組織 二二二
- 第二章 會計法院ノ職掌 二二九
- 第三章 控訴ノ手續方法 二五七
- 第五卷 徵兵及ヒ護郷兵ニ關スル訴件ノ審司及ヒ海軍徵募ニ關スル訴件 二八四
- 第一章 徵兵ニ關スル訴件 同
- 第二章 護郷兵ニ關スル審事 三二〇
- 第三章 海兵徵募ニ關スル行政訴訟 三五三
- 第六卷 學區會○學務州會○大學議會及ヒ文部宰相 三七〇
- 第一章 學區會及ヒ學務州會 同

- 第一款 學區會 三七一
- 第二款 學務州會 三九七
- 第二章 大學議會 四〇四
- 第一款 大學議會ノ組織 同
- 第二款 大學議會ノ職掌 四一三
- 第三款 大學議會ニ於テ聽訟スルノ方法及ヒ其判決ニ對スル控訴 四三七
- 第三章 文部宰相 四四七
- 第七卷 工事委員及ヒ其爭訟ノ判決者タル行政委員 四六二
- 第一章 工事委員及ヒ工事委員會 同
- 第二章 沼澤乾涸及ヒ其他公ケノ工事ニ關スル特別委員 五一二



四

○第三章 前陳ノ者ヨリ他ノ委員及ヒ特ニ外交上ノ  
條約ヲ執行スル爲メニ設置スル委員ノ事 五六一

○第八卷 アルジエリ―藩屬地及ヒ諸殖民地ニ起ル争  
訟 五八二

○第一章 アルジエリ―ニ起ル訴訟 五八四

○第二章 殖民地ニ起ル争訟 六〇〇

○提要類別 六一五

目次畢

訟論第四卷

田中耕造 譯



行政裁判官タル宰相  
提要第百八十七 事項ノ區別

第一宰相ハ行政事件ヲ判決スルノ權ヲ固有スルヤ其權ノ性質ハ如何  
且ツ宰相ヲ屬スル始審判決ノ權ハ參議院ニ屬スル判決權ト相殊別ス  
第ニ宰相ハ行政事件ノ判決權ニ屬ス可キ首タル事項ハ何者ソヤ如何シテ此  
首タル事項ヲ知ルヲ得ルヤ第三宰相ノ判決ニ附ス可キ行政事件豫審  
ノ程式其効驗及ヒ改正ノ方法ハ如何余ハ本篇ニ於テ是等ノ問題ヲ講  
究セントス

第一章 宰相ハ其判決權ヲ固有スルヤ及ヒ該判決權ノ性質如何



(提要) 第千二百八十八 宰相ノ職務ニ二類アリ

第千二百八十九 宰相ニ屬スル行政訴件判決權ノ駁論

第千二百九十 續○千八百九十年前ノ法律

第千二百九十一 宰相ノ判決權ハ參議院ノ判決及ヒ諸著者ノ

共ニ認ムル所ナリ

第千二百九十二 該問題ノ至難ナル事○宰相ニ固有ノ判決權

アルノ説ヲ生セシメタル所ノ法令

第千二百九十三 結果○宰相ハ參議院ニ咨詢決定スル皇帝ニ

屬スル判決權ニ異ナレル權ヲ有ス

第千二百九十四 宰相ハ時トシテ純然タル行政務ヲ行ヒ時ト

シテハ行政聽訟務ヲ行フ

第千二百九十五 宰相ノ判決權ハ立憲政府ノ主義ニ適合ス

第千二百八十八

第千二百九十六 宰相ノ判決權ヨリ生スル利益

宰相ノ職トスル所ニアリ即チ國長ノ意欲ニ出テタル決定書ニ副署ス

ル一ナリ國長ノ干涉ヲ待タスシテ自カテ其本務ヲ行フニナリ此第一

種ノ事項ニ關シテハ宰相ニ屬スル判決權ノ問題ヲ生スル無シ何トナ

レハ此時ニ當リ宰相ヲ以テ其固有ノ權ヲ行フ者トセスシテ唯國長ヨ

リ出タル文書ノ公正ナルヲ保證スル者トスレハナリ故ニ此場合ニ

於テ宰相ノ副署ヲ得テ憲法ニ因テ有スル所ノ特權ヲ使用スル者ハ國

長ニ在ルナリ

第千二百八十九

國長ノ干涉ヲ待タスシテ宰相ヨリ發出スル文書ハ悉ク純然タル行政

務ノ部類ニ入レサル可カラサルカ如シ何トナレハ宰相ハ元ト行政官

ニシテ裁判官ニ非サレハナリ宰相ニ固有ノ判決權ナシトスル論者ノ

言ニ曰ク夫レ宰相ノ職ハ變遷定マリナキ者ナリ故ニ之ニ附スルニ裁



判ノ權ヲ以テスルハ大ニ道理ニ背ケリ且ツ宰相ノ行ヘル豫審ト其判決トハ眞ノ裁判宣告及ヒ訴訟上ノ程式ニ係ル主義ト竝ヒ行ハル可カラサル者ナリ若シ夫レ大革命間及ヒ千八百年前ノ宰相ニ於テ裁判權ヲ固有スルアルモ共和曆第八年霜月二十二日ノ國憲及ヒ同年雪月五日ノ條例出テヨリ以來ハ宰相ヲ以テ此權ヲ失ヒタル者トセサル可カラス抑該國憲及ヒ條例ハ始メテ參議院ナル者ヲ設立シテ其權限ヲ定メタル者ナリ而シテ該國憲第五十二條ニ因リ參議院ニ任スルニ行政務ニ就テ起レル所ノ爭訟ヲ判決スルノ權ヲ以テセリ又該條例第十一條ハ參議院ヲ以テ舊來宰相ノ判決權ニ屬セシ所ノ訴件ヲ判決ス可シトセリ是等ノ條規ヲ執行センカ爲メニ千八百六年六月十一日ノ詔書第十四條ニハ參議院ニ於テ左ノ爭訟ヲ判決ス可シト命セリ即チ宰相若シハ宮内長若シハ是等ノ代理者ト取結ヒタル請負契約ニ關スル訴

四

件當該宰相局若クハ帝室ニ關スル工事若クハ供給ニ關スル訴件是レナリ加之ナラス前ニ徵引セル法令中ニ總テノ行政訴件ヲ以テ參議院ノ直轄ニ屬ス可シトスルノ主義ヲ明示セリ然レモ未ダ嘗テ宰相ノ固有スル判決權ナル者ヲ確認スル者アルヲ見ス是ニ因テ之ヲ推セハ以上ノ法令ハ先キニ宰相ニ屬セシ所ノ判決權ヲ廢絶シテ更ニ之ヲ參議院ニ移セシヤ昭々タリト  
論者又曰ク前ニ論辯スル所ノ者ハ獨リ引用セシ法律ノ明文ニ於テ徵ス可キノミナラス尙ホ且ツ之カ精神ヲ考ヘテ又其然ラサル可カラサルヲ知ル請フ之ヲ辯セン夫レ千七百九十二年ヨリ千八百年ニ至ルマテハ大ニ行政權ヲ擴張セリ是レ蓋シ舊（パールマン）等（昔時ノ上ニ對スル）反動力ト當時革命ノ變ノ爲メニ我政府ヲシテ内憂外患ニ遇ハシメタルトニ因テ之ヲ致セシノミ是故ニ千八百年ニ至リ輿論頻リニ行政權

五



ノ專横ヲ制スルノ法制ヲ希望シ殊ニ行政訴件ノ爲メニ之レヲ求ムル  
 一尤モ甚ダシトス是レ其參議院參事院ノ兩者ヲ新設シテ始審終審ノ  
 制ヲ立テ以テ行政訴件ヲ判決セシメシ所以ナリ然ラハ則チ爾後先キ  
 ニ宰相ニ屬セシ行政訴件判決ノ權ヲ以テ參議院ニ移セシ一猶ホ先キ  
 ニ州知事及ヒ州中央行政會ノ行ヘル行政訴訟判決ノ權ヲ以テ參事院  
 ニ移セシカコトシナル可キ一當時ノ形勢ニ考ヘテ尤モ當チ得タル者  
 トス可キナリ請フ共和曆第八年ノ國憲及ヒ次テ發スル諸法律ノ精神  
 如何ヲ究メン其先キニ同一人ノ掌有スル所ノ者即チ純然タル行政ト  
 行政訴訟判決權トチ分テ分掌セシメントセシヤ明ナリ蓋シ千八百年  
 前ニ此兩者ヲ以テ郡及ヒ州行政長ノ併有スル者ト爲シ次テ州中央行  
 政官及ヒ宰相ノ併有スル者トセリ然レモ千八百年以後ハ每州ニ州長  
 ナル者ヲ置テ普通行政務ヲ掌ラシメ行政聽訟務ニ至リテハ之ヲ參事

院ニ任シタリ其上ニ宰相ヲ置テ全國ノ行政務ニ任シ參議院ヲシテ其  
 行政訴件ヲ判決セシメタリ是ニ因テ之ヲ見レハ前ニ引キタル法令ニ  
 徴スルモ又當時ノ形勢ニ考フルモ宰相ヲシテ行政訴件判決ノ權ヲ固  
 有セシメントスルノ意ナキヲ知ル可シ是ヨリ後千八百十四年ノ國憲  
 及ヒ千八百三十年ノ國憲ヲ定ムルカ爲メニ曾テ舊時ノ事態ヲ變セス  
 唯、此二國憲ニ因リ行政ノ全權及ヒ法律ヲ執行スルカ爲メニ命令ヲ發  
 スルノ權ヲ以テ國王一人ニ與フルヲ見ルノ第十二條是ニ因リ該行  
 政權ノ分派タル行政訴訟判決ノ權モ亦國王ニ在ルナリ而シテ宰相ニ  
 至リテハ右ノ兩國憲ニ因リ國王ヨリ發出セル文書ニ就キ責任アル者  
 トスルニ止マリ未ダ嘗テ之ニ認ムルニ行政訴訟判決權ヲ以テセシ一  
 有ラサルナリト第十二條第四十  
六條第四十七條  
 然レモ爾後某々ノ場合及ヒ極メテ緊要ナル事項ニ關スル行政訴件ノ



裁判官タル性質ヲ以テ宰相ニ屬スルヲ訓致セリ即チ參議院ノ公判  
 諸學士ノ論說及ヒ法令等ニ於テ定ムル者是ナリ蓋シ參議院ノ公判中  
 宰相ヲ以テ行政訴訟ノ判決權アリトスル者極メテ多ク殆ト屈指スル  
 ニ堪ヘス千八百十七年二月二十六日タバレ一件千八百二十三年二月  
 二十六日ムト一件千八百二十五年八月十七日ボワイエ  
 件千八百三十八年五月二十八日シユブリエ一件同年十二月十九日  
 ランゲユヌ件千八百三十九年八月二十二日ジユブラン件判決等ヲ看  
 ヲ學士ノ論說ニ關シテハ宜シクマカレル氏著行政裁判原論第一卷第  
 三十二葉以下同氏著行政裁判所論第二百二十八葉及ヒド、コルムナン  
 氏著行政法第五版第一卷第七十八葉以下ヲ參看ス可シ是等學士ノ  
 所見ニ從ヘハ宰相ニ屬スル行政訴訟判決權ナル者ハ尤モ理ニ合シテ  
 明確動カス可カラサル者ナリ故ニ之ヲ主張セシカ爲メニ其論據ヲ求  
 メ或ハ說ヲ立テ之ヲ駁撃スルハ共ニ無用ニ屬セリ  
 余ハ此問題ヲ以テ行政法中尤モ至難ノ者ト云ハント欲ス請フ先ツ續

發スル法令ノ明文如何ヲ考ヘ次キニ或ル場合ニ於テ宰相ニ行政訴訟  
 判決ノ權ヲ與ヘタリトスル說ヲ定メシム可キ論據ヲ示サン夫レ大藏  
 宰相ハ共和曆第八年風月十八日ノ布令ニ因リ同年釀月十二日及ヒ霜  
 月十三日ノ法律ニ定ムル場合ニ於テ主計吏發企人供給者下請負人及  
 ヒ官ニ負債アル吏員ニ向テ必要トスル判決ヲ下シ且ツ其假執行ヲ命  
 スルヲ許サレタリ  
 共和曆第八年芽月六日ノ布令第六條ニ曰ク凡ソ政府ニ屬スル軍艦ニ  
 因テ鹵掠セル物件ノ清算ニ關スル訴訟ハ海軍宰相ニ對シテ起ス可シ  
 ト其第八條ニ曰ク政府ノ軍艦ト搶掠船免狀ヲ得タル者ト協同シテ鹵  
 掠シタル物件ノ清算及ヒ之ヲ分有スルニ就テ起リタル爭訟ハ第十六  
 條ニ定メタル者ニ準シテ判決ス可シト即チ海軍宰相ニ於テ判決スル  
 ノ謂ナリ抑是等ノ訴訟ハ其行政訴件タルヲ論チ待タス何トナレハ搶



掠船免狀ヲ得タル者ノミニ因テ行フタル鹵掠物件ノ清算及ヒ其清算  
 ニ就テ起レル所ノ争訟ハ普通ノ程式ニ從テ判決シ前ニ定ムル所ノ者  
 ノ如クナラサレハナリ第十七條第十八條第二節及ヒ共和曆第十一年  
 收月二日ノ布令第九十四條第九十九條第一百條  
 ヲ看

諸法律及ヒ政府ノ布令ニ因リ或ル場合ニ於テ宰相ノ判決ヲ以テ參議  
 院ニ控訴スルノ制ヲ定メタリ故ニ千八百八年一月二十一日ノ參議院  
 意見書ニハ其婦若クハ其子ニ對シテ民法第一卷第五篇第五章第六章  
 ニ定メタル義務ヲ行ハサル軍人ヲ罰シテ其退老金三分一以下ヲ扣除  
 スルノ權ヲ以テ陸軍宰相ニ與ヘ該軍人ニ於テ該宰相ノ判決ニ不服ナ  
 ル場合ニ於テハ之ヲ參議院ノ行政聽訟部ニ控訴ス可シトセリ  
 法律ノ効力ヲ有スル千八百八年七月二十日參議院意見書第六節ニ又  
 曰ク凡ソ利子ノ請求其他理財上ノ總テノ事項ニ關シ行政官ト之ニ附

屬スル吏員トノ間ニ起レル争訟ハ大藏宰相ノ判決ヲ仰ク可シ之ニ不  
 服ナル者ハ參議院ニ控訴ス可シト

千八百十一年二月二十三日ノ詔書第三條ニハ行政訴件ノ性質ヲ有ス  
 ル所ノ國領ニ關スル大藏宰相ノ判決ヲ以テ參議院ニ控訴スルヲ許セ  
 リ

共和曆第十二年暖月十六日及ヒ千八百十二年三月二十四日參議院意  
 見書モ亦宰相其他ノ行政官ニ判決權アルヲ明示セリ右ノ共和曆第  
 十二年ノ意見書ニ曰ク法律ニ因テ其管理スル事務ニ關シ判決ヲ命シ  
 若クハ督促狀ヲ發スルノ權ヲ有スル行政官ハ眞ノ裁判官ナリ故ニ其  
 發出スル判決書ハ普通裁判所ノ裁判宣告書ト同一ノ効驗ヲ生シ且ツ  
 同一ノ執行力ヲ得可シ而シテ該行政官決定書ヲ以テ普通裁判所ニ訴  
 フルヲ得ス之ニ違フ時ハ國憲ニ因テ保障スル行政官ノ獨立權ヲ害ス



ル者タルヲ熟考シ本院ニ於テ意見ヲ下ス左ノ如シ曰ク凡ソ行政官タル者其權限内ノ事項ニ關シ發出スル判決書及ヒ督促狀ハ司法官ヨリ發出スル同一文書ト同一ノ方法及ヒ同一ノ約款ニ從ヒ書入質ノ權ヲ生スト

是ニ因テ之ヲ見レハ宰相ハ或ル場合ニ於テ自カラ判決ヲ行フノ權アルヲ知ル而シテ其判決ハ參事院ノ判決ト同シク參議院ニ控訴スルヲ得且ツ宰相ノ下セル判決ハ參事院ノ判決ト同一方法ニ從テ執行ノ力ヲ有シ及ヒ書入質ノ權ヲ生ス然ラハ則チ焉ソ宰相ノ決定書ヲ以テ參事院ノ決定書ノ如ク行政訴件判決書ノ性質ヲ有セスト云フヲ得ンヤ千八百四十年九月四日ブリコク事件判決

千八百十六年四月二十八日ノ法律第二十二條ハ飲料輸入税ヲ邑ニ科シ若クハ該税ニ就キ人口ニ準シテ該邑ノ部類ヲ定ムル事項ニ關スル

爭訟判決ノ權ヲ以テ大藏宰相ニ與ヘ其判決ニ不服ナル者ハ行政訴訟ノ程式ニ從ヒ參議院ニ控訴ス可シトセリ抑右ノ條規ハ十五年毎ニ邑ノ人口ヲ調査スルノ法ヲ立テヨリ以來廢止ニ屬セサルハ勿論千八百四十四年八月四日ノ法律第四條ニ因リ更ニ之ヲ擴張シテ邑ノ人口ヲ以テ租税ノ課率トスル場合ニ適施セリ

州收税官ハ本州内各郡收税官ノ處務ニ關シ責任アリ千八百二十六年王勅第一條及ヒ千八百三十六年五月十一日ノ王勅第三十條及ヒ千八百二十六年五月十一日ノ王勅第三十條及ヒ千八百二十六年五月十一日ノ王勅第三十條及ヒ千八百二十六年五月十一日ノ王勅第三十條又郡收税官ハ邑收税官ノ處務ニ關シ責任アリ千八百二十六年五月十一日ノ王勅第三十條及ヒ千八百二十六年五月十一日ノ王勅第三十條凡ソ州收税官及ヒ郡收税官ニ於テ已ムヲ得サル事情アリテ其收税額ノ不足ヲ生スル時ハ其自カラ責任トスル所ノ者ヲ免カル、ヲ得而シテ此場合ニ係ル訴求ヲ判決スルノ權ハ大藏宰相ニ屬ス但シ該宰相ノ判決ヲ以テ行政訴訟裁判官タル參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラサルナリ同上



ノ王勅第二條及ヒ同上ノ詔書第二十一條第三百二十九條第三百五十一條第五百四十六條ヲ看ヨ  
 千八百三十八年四月二十七日ノ法律ハ宰相ニ屬スル行政訴訟判決ノ權及ヒ其性質ヲ定ムルヲ尤モ明白ナリトス即チ其第一條ニハ礦坑ノ受許與者ニ命シ自費ニテ坑中ノ溢水ヲ滄ムルニ必要トスル工事ヲ行ハシムルノ權ヲ以テ政府ニ與ヘタリ而シテ該礦坑ノ各所有主ニ於テ負擔ス可キ右ノ費用ヲ辨償セサル時ハ隨テ掘礦許與ノ王勅ニ掲クル契約ヲ取消スノ原因トナル可シ是レ民法第千八百八十四條ニ掲クル義務ノ契約消滅ノ主義ニ從ヘル者ナリ是故ニ同上ノ法律第六條ニ因リ宰相ハ礦坑所有主ニ於テ二ヶ月内ニ右ノ費用ヲ辨償セサル場合ニ際シ掘礦許與狀ノ收取ヲ命スルヲ得可シ但シ行政訴訟手續ニ從ヒ參議院ニ咨詢決定スル國王ニ控訴スルハ此限ニ在ラス  
 千八百三十八年二月十二日ノ條約ヲ執行スル爲メアイチー國政府ヨ

リ注納ス可キ金額ノ配當ニ關スル千八百四十年五月十八日ノ法律中ニ左ノ一條ヲ載ス即チ其第十三條ニ曰ク大藏宰相ハ千八百二十六年四月三十日ノ法律ノ執行ニ就テ起レル訴訟ヲ判決スルヲ得但シ該宰相ノ判決ヲ得テ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト  
 巴里府ノ大道路ヲ開設スル爲メ政府ト、巴里府トノ間ニ結ヘル契約トシテ千八百五十八年五月二十八日ノ法律ニ附添スル者ニハ左ノ一條ヲ載ス曰ク政府若クハ、巴里府ニ於テ道路建築委員ノ工事ニ就テ承認セサル事項アル場合ニ於テハ決算ニ關シテ起レル爭訟ヲ以テ當該宰相ノ判決ニ附ス可シ但シ爲メニ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト  
 地中海郵便事務ニ關スル千八百五十一年七月八日ノ法律第十七條ニハ左ノ規則ヲ定ム曰ク凡ソ此契約書ノ執行若クハ釋明ニ關シ爭論ヲ



生スル時ハ行政上ノ手續ヲ以テ大藏宰相之ヲ判決ス可シ但シ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト

移住ニ關スル千八百六十年七月十八日ノ法律第九條ニ曰ク移住係官吏ニ於テ出帆ノ後移住人ニ對シテ其約束ヲ履行セサル場合ニ於テハ農商務兼工部宰相ニ於テ其償金ヲ決定ス可シ但シ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラス又該償金ノ取立ハ大藏宰相ノ請求ニ因テ行フ可シト是等行政上ノ手續ニ因テ判決ス可キ爭訟ハ參議院ニ於テ別ニ費用ヲ要セスシテ其判決ヲ行フ可シ然ラスンハ之ヲ以テ行政官ノ判決權ニ屬スルモ爲メニ移住者ニ利スル所アラサル可キナリ

以上臚記スル所ノ法令ノ明文ニ就テ之ヲ推セハ或ル行政訴件ニ關シ宰相ニ許スニ其判決ノ權ヲ以テシ之ニ不服ナル者ハ參議院ニ對シテ控訴手續ヲ行フ可キヲ知ル然ラハ則チ宰相ノ判決權ナル者ハ參議院

第三千九百三十九

ノ判決權ト相區別シ宰相ハ眞ノ始審判決ヲ行ヒ參議院ハ其控訴ヲ受ケテ終審ノ判決ヲ行フナリ是故ニ宰相ノ判決控訴ヲ受理スル場合ニ於テ參議院ハ控訴スルニ當リテ新ニ訴求スル所アルヲ禁スル訴訟法第四百六十四條ノ規則ヲ適施シ始メニ宰相ニ向テ訴求セサル所ノ條件ヲ具申スル者ヲ受理スルヲ許サス千八百三十八年十二月十九日ドランシヌ件判決ヲ看ヨ

之ニ反シ王勅若クハ詔書ニ關シ參議院ニ出訴スル者アル時ハ該院ニ於テ控訴裁判所トシテ其判決ヲ行ハス此時該院ハ普通ノ故障申述若クハ外人ノ故障申述手續ニ因リ該王勅若クハ詔書ヲ廢棄ス本書第三項以下蓋シ本節ニ掲グル場合ニ於テハ方ニ其事由ヲ領認セル國長ニ對シ始メニ誤解シテ詔勅ヲ下セル國長ヲ訴フルナリ而シテ前節ニ掲クル場合ニ於テハ下等官衙ニ於テ決定スル所ノ者ヲ以テ上等官衙ニ控訴スル者トス是レ其彼此相區別スル所以ナリ



宰相ハ行政官ニシテ司法官ヲラサルヲ固ヨリ疑テ容レズ然レモ其發出スル所ノ文書ニ二種ノ別アリ其一ハ純然タル行政務ニ屬シ參議院ニ於テ之ヲ勘査スルヲ許サス其二ハ普通裁判所ノ裁判宣告書若クハ參事院ノ行政訴訟判決書ニ關シテ許シタル控訴ニ均シキ方法ニ從テ之ヲ勘査スルヲ許セリ參議院ハ此第二種ノ文書ニ關シ參事院ノ判決書ト同一ノ處分ヲ爲スヲ得是ニ因テ之ヲ見レハ宰相ニ於テ行政訴訟判決權ヲ行フヲ許セシ所以知ル可キナリ

宰相ヨリ發出スル文書ニシテ行政訴訟判決書ノ部類ニ入ル可キ者ハ人民ノ權利ヲ侵セシ所ノ文書ニ在リテ唯其利益ヲ害スル所ノ者ニ非サルノ謂ハ已ニ本書第二十九項ニ掲論セリ夫レ前項ニ臚記セル者ハ皆テ行政官ニ屬スル公益ト人民ノ私權ト相抵觸スル所ノ訴件ニ關ス故ニ是等ノ訴件ニ就テ宰相ノ下セル判決ハ行政訴訟判決ノ性質ヲ有

ス請フ之ヲ例セン今王勅ニ掲クル約款ヲ執行セサルニ因テ行政官ニ於テ掘礦許與狀ノ收取ヲ宣告スルトセヨ是レ眞ノ裁判宣告ヲ爲スニ非スヤ普通裁判所ニ對シテ此ノ如キノ爭訟ヲ起シ若クハ此ノ如キノ爭訟判決權ヲ以テ參事院ノ管轄ニ屬セハ誰レカ敢テ爲メニ下セル判決ヲ以テ行政訴訟判決ノ性質ヲ有セリトスル者ヲ駁議スルヲ得ンヤ固ヨリ宰相ニ於テ始審判決ヲ行ヒ參議院ニ於テ終審判決ヲ行フカ爲メニ訴訟ノ性質ヲ變更スルノ理アル可カラサルナリ抑法律上掘礦免許ヲ王勅ニ掲クル雙務ノ契約ヲ判定スル所ノ該爭訟判決ノ權ヲ以テ始メニ宰相ニ屬シ次キニ參議院ニ屬セシハ固ヨリ論ナケレモ爲メニ其爭訟ノ性質并ニ其判決ノ性質ヲ變セントスルハ大ニ法律ノ精神ニ背ケリ是故ニ宰相ハ或ル場合ニ於テ行政訴訟判決ノ權ヲ行フテ參事院ヨリ發出スル者ト同一ナル判決ヲ下スヲ得且ツ其判決權ナル者



第五千九百五十九

ハ參議院ニ咨詢決定スル皇帝ニ屬スル判決權ト相同シカラスト云ハ  
 サル可カラス所謂ル宰相ニ固有ノ判決權アルコト此ニ始メテ明白ナリ  
 所謂ル宰相ノ判決權ナル者ハ二三ノ學士ノ云ヘル如ク千八百六年六  
 月十一日ノ詔書第十四條第二項ニ因テ始マルニ非ス夫レ此判決權ノ制  
 ハ共和曆第八年霜月二十二日ノ國憲及ヒ同年雪月五日ノ條例ノ明文  
 ト精神トニ違ヘル者ノ如シ然レニ熟テ之レヲ考フンハ却テ其立憲政  
 府ノ主義ニ適ヒ且ツ共和曆第八年千八百十五年及ヒ千八百五十二年  
 ノ國憲ノ主義ニ背カサルヲ知ル蓋シ共和曆第八年ノ國憲第三十九條  
 第五十二條第五十四條及ヒ第五十五條ハ行政府ト參議院トヲ以テ宰  
 相ノ上ニ置キタレニ其責任ニ至リテハ行政者若クハ參議院ノ僚員ニ  
 負ハシメスシテ之ヲ宰相ニ歸セリ同上ノ憲法第六十條及第七十二條又今日ニ至リテ  
 ハ行政ノ全權ヲ以テ皇帝一人ニ屬シ其責任ノ如キモ亦皇帝一人ニ歸

シテ宰相ニ負ハシメス千八百五十二年ノ國憲第五條及ヒ第十二條是ニ因テ之レヲ見レハ  
 宰相ノ判決ヲ以テ其頭領タル皇帝ニ控訴スルヲ許スハ理ノ正ニ然ル  
 ヘキ者ナリ蓋シ宰相ハ國長ノ名ヲ以テ其權ヲ行フ者ナリ隨テ凡ソ其  
 施爲スル所ノ者ヲ以テ國長ノ自カラ施爲スル者トナシテ可ナルカ如  
 シ此ノ如ク觀察シ去レハ參議院ニ咨詢決定スル國長ニ屬スル判決權  
 ハ行政訴訟ニ關スル一種特別ノ判決權ニシテ宰相ノ判決ニ係ル控訴  
 ヲ判決スルノ權トス可カラサルニ似タリ然レニ本邦ノ法律及ヒ參議  
 院ノ公判ニ於テ我カ公法ノ主義ヲ解釋スルコト未ダ嘗テ此ノ如キアラ  
 サルナリ  
 宰相ノ判決ヲ國長ニ訴フルコトハ宰相ノ決定ヲ皇帝ニ控訴スルヲ許セ  
 ル羅馬法ノ條規ニ從テ主持スルヲ得可シ羅馬法ニ於テ終審判決ノ權  
 ヲ有スル宰相ハ唯一人アルニ即チプレフニシユフレトワル是レナリ



皇帝ハ該宰相ニ對シ破毀法院ノ職ヲ行ヘリ余カ著羅馬公法及ヒ行政  
七十九項 是故ニ行政訴訟ニ關シ宰相ノ判決スル者ヲ以テ國長ニ控訴  
スルノ制ハ尤モ其當ヲ得タル者トス

第六千九百六十九

宰相ニ與フルニ行政訴訟判決ノ權ヲ以テスル者ハ唯、其理論ニ合ス  
ルノミナラス尙ホ且ツ實際上ニ於テ大ニ利益ヲ生ス夫レ宰相ノ判決  
ヲ受クル者ハ出訴ノ程式ヲ履マス且ツ費用ヲ要セスシテ爭訟ヲ結了  
スルカ故ニ參議院ヲシテ空シク其時ヲ失ハサラシム可シ又宰相ノ判  
決ニ服セスシテ參議院ニ控訴スル訴件ノ如キハ豫メ宰相ニ於テ其豫  
審ヲ行ヒタルカ故ニ該院ニ於テ之カ調査判決ヲ爲ス、甚タ容易ナリ  
且ツ宰相ハ何レノ場合ヲ論セス決シテ終審ノ判決ヲ行ハサルヲ以テ  
宰相ニ判決權アルカ爲メニ常ニ訴者ヲシテ參議院ニ出訴スルヲ得ル  
ノ保障ヲ失ハシムルヲ無シ此數利アリト雖モ宰相ノ判決ノ中ニ就キ

其純然タル行政務ニ係ル者ト其行政訴訟務ニ係ル者トヲ判別スルハ  
獨リ難シトスル所ナリ然レモ此弊ヤ假令ヒ行政訴訟判決ノ權ヲ以テ  
全ク宰相ニ拒ムモ遂ニ之ヲ去ル能ハサル可シ請フ以下第二章ニ於テ漸  
ク宰相判決權ノ性質ヲ詳論セン

第二章 行政訴訟ニ關スル宰相判決ノ部類ニ入ル可キ文書

(提要第千二百九十七) 行政訴訟ニ係ル宰相判決ノ部類ニ入ル可キ

文書ヲ講究スルノ利○宰相ノ發出スル文書ニ二種アリ○其

區別

第千二百九十八 此二種ヲ區別スルノ規則○參照

第千二百九十九 宰相ハ行政訴訟判決ノ全權ヲ有ス

第千三百 諸般ノ場合ニ適施スル事○輸入税ヲ拂フ可キ邑○

收稅長吏ノ責任



第一千三百一 其他ノ例○掘礦免許若クハ鹽製造所ノ許可ノ消滅

第一千三百二 續○文武官吏ノ退老金

第一千三百三 公債ノ清算○該權限ノ基礎

第一千三百四 該件ニ關シ行政司法ノ兩判決權ヲ區別スルノ主義

第一千三百五 適施○宰相ノ權限ニ屬スル事項

第一千三百六 宰相ハ下請負人ノ訴求ヲ判決ス

第一千三百七 續○控訴ス可カラサル力ヲ有スル判決アリタル後ニ至リテモ失權ノ法ヲ適施スルヲ得ルヤ

第一千三百八 參議院ノ公判ニ因テ許セル區別

第一千三百九 宰相ニ於テ失權ノ訴ヲ判決スルノ權アリトスル

規則ノ結果

第一千三百十 失權後ニ生スル費用ニモ亦該失權ノ法ヲ適施ス

第一千三百十一 供給物ノ請負契約ヨリ生スル爭訟ニ關シ宰相ノ權限

第一千三百十二 該訴件ヲ以テ普通裁判所ノ判決權ニ屬セシク七百九十三年三月四日ノ法律○成文

第一千三百十三 該法律ニ因テ生スル不良ノ結果

第一千三百十四 共和曆第三年ノ國憲ニ因テ確認シタル行政訴訟判決權○該判決權ヲ組織シタル共和曆第八年釀月十二日ノ法律

第一千三百十五 主計吏供給者及ヒ官ニ負債アル吏員ニ向テ判決ヲ行フヲ大藏宰相ニ許セル共和曆第八年風月十八日ノ



布令

第一千三百十六 該件ニ關シ參議院ノ最上判決權○共和曆第八年ノ國憲

第一千三百十七 結果○普通裁判所ハ全ク該件ニ關スル判決權ヲ失ヒタリ

第一千三百十八 請負契約ノ件ニ關シ宰相ニ屬スル判決權ノ基礎

第一千三百十九 宰相ノ判決權ニ屬セサル請負契約ノ種類

第一千三百二十 公ケノ工事ニ係ル請負契約

第一千三百二十一 供給物請負契約ニ關スル行政判決權ノ辯解

第一千三百二十二 該判決權ヲ以テ參事院ニ屬セサル所以

第一千三百二十三 供給者ノ保證人ト行政官トノ間ニ起レル爭

訟ニ關シ宰相ノ權限

第一千三百二十四 官林ニ關スル工事請負契約ハ如何

第一千三百二十五 州ニ關スル供給物請負契約ハ如何

第一千三百二十六 供給物請負契約ハ宰相ニ於テ認可ス可シ

第一千三百二十七 各課長其他宰相ニ附屬スル官吏ハ行政訴訟

判決ノ權ヲ有セス

第一千三百二十八 軍務會計監督ニ適施スル事

第一千三百二十九 共和曆第九年暖月十九日ノ布令○該布令ニ

因リ州長ニ與ヘタル權限

第一千三百三十 勳賞局長ハ行政訴訟判決ノ權ヲ有スルヤ○各宰相局ノ大輔ハ如何

第一千三百三十一 行政訴訟ニ係ル宰相判決書ヲ解釋スルノ權



ハ誰ニ屬スルヤ

第一千三百三十二 皇室ニ關スル請負契約〇參照

第一千三百三十三 查理第十若クハ路易非理布ニ屬スル皇室入

費ニ關シテハ如何

本章ニ於テ余カ講究セントスル所ノ者ハ決シテ架空ノ論ニ非ス大ニ之ヲ實際ニ要スル者アリ何トナレハ所謂ル宰相ノ判決書ハ行政訴訟ノ判決ト看做スト看做サ、ルトニ因テ之ヲ參議院ニ控訴スルヲ許否シ且ツ該判決書送達ノ後三ヶ月ヲ過クレハ之ヲ以テ控訴ス可カラサル裁判ノ力ヲ有スル者トシ又ハ有セサル者トスルノ別ヲ生ス可ケレハナリ千八百六十六年七月二十二日  
詔書第十一條ヲ看ヨ

是故ニ宰相ヨリ發出スル文書ノ中ニ就キ明ニ之ヲ區別スル所ノ者アラサル可カラス其文書ノ種類凡ソニアリーハ則チ純然タル行政務ニ

第七千九百二千第

係ル者ニシテ其數最モ多シ何トナレハ宰相ハ主タル行政官ニシテ裁判官ニ非サレハナリ其二ハ則チ行政訴訟ニ關スル文書ニシテ之ヲ發出スル場合甚タ少ナシ是レ宰相ニ於テ此ノ如キノ文書ヲ發スルハ特例ニ出ツルトスルニ因ル凡ソ第一種ニ屬スル文書ハ何時ニテモ之ヲ發出セル宰相ニ因テ取消スヲ得然レモ爲メニ人民ニ於テ已ニ得タル所ノ權利ヲ害ス可カラス此文書ハ行政訴訟ノ手續ニ因テ參議院ニ控訴スルヲ得ス若シ之ヲ以テ該院ニ控訴シテ勘査改正セラル、ト有リトスル時ハ行政官ヲシテ毎事障礙ヲ受ケ遂ニ自カラ事ヲ執ル能ハサルニ至ラシム可シ是ヲ以テ宰相ハ第一種ノ文書ニ屬スル者ニ就テハ自カラ全權ヲ有シテ之ヲ行ヒ唯、國長ノミニ對シテ責任アル者トス可キノミ千八百五十二年  
國憲第十三條

第二種ノ文書ニ屬スル者ハ宰相責任ノ法ニ因テ之ヲ保障スルノミナ



ラス其送達ヲ得タル者ヨリ三ヶ月内ニ參議院ニ控訴スルアレハ該院ニ於テ之ヲ勘査改正スルコト有ル可シ是ニ因リ本邦ノ法制ニ於テ宰相ヨリ發出スル或ル文書ニ就キ人民ニ對シ宰相責任法ノ外更ニ特別ノ保護ヲ與フル者アルヲ知ル此文書ハ第一種ノ文書ノ如ク宰相ニ於テ隨意ニ取消スヲ得ル者ニ非ス故ニ之ヲ參議院ニ控訴スルノ期限滿盡ノ後ハ其確固換フ可カラサルコト猶ホ普通裁判所ノ裁判宣告書ニ於ケルカコトシ是レ之ヲ以テ眞ノ裁判宣告書ト同視シ且ツ宰相ニ普通裁判所ト同一ノ判決權アリトスル所以ナリ然レモ宰相ノ判決權ニ屬スル行政訴件ヲ以テ司法上ノ訴件トスルニ非ス唯其判決書ヲ以テ司法上訴件ノ裁判宣告書ト同一ノ性質ヲ假有シ且ツ司法上訴件ト同一ノ程式ニ從テ之ヲ控訴シ及ヒ之ト同一ノ効驗ヲ生スルヲ得ルノミ之ヲ約言スレハ宰相ノ判決書ハ普通裁判所ノ裁判宣告書ノ外形ヲ備フル者

八十九百二千第

ナリ然ラハ則チ宰相ヲ以テ或ル場合ニ於テハ參事院等ノ如キ始審行政裁判官ト同一ノ判決權ヲ行フト云フテ可ナリ  
 第一種ノ文書ト第二種ノ文書トハ因テ生スル効驗ヲ異ニスルコト前ニ論述スル所ノ如シ故ニ此二者ノ性質如何ヲ區別スルハ極メテ緊要ナル者ナリ凡ツ宰相ノ判決書ニシテ人民ノ利益ヲ害スルニ非スシテ其權利ヲ害スル者ハ行政訴訟上ノ部類ニ入レ之ニ反シ人民ノ權利ヲ害セスシテ唯其利益ヲ害スル者ハ純然タル普通行政務上ノ者ニ屬スルノ故ハ余已ニ之ヲ論セリ今又本書第二十八項以下ニ揭論スル所ノ者ヲ斟酌シテ此原則ヲ此ニ適施セサル可カラス  
 余ハ前ノ第五百二項以下ニ於テ説明スル所ノ者ヲ以テ此ニ再出ス可シ曰ク宰相ハ中央政府ノ行政ニ關スル事項ニ關シ普通ノ行政訴訟判決權ヲ有ス故ニ參事院若クハ其他ノ行政官ノ判決權ニ屬セサル事項

九十九百二千第



ハ皆ナ宰相ノ判決權ニ屬ス然ル所以ノ道理ハ極メテ了解シ易キ者ナリ  
 請フ之ヲ辯セン凡ソ行政權ノ一分派タル行政官ノ權ニ屬スル者ハ悉  
 シ行政ノ全權ヲ有スル所ノ皇帝ニ統ヘサルハナシ國憲第六條而シテ宰相  
 ハ最モ皇帝ニ直隸スル官吏ニシテ其之ニ屬スル普通行政務ト行政訴  
 訟判決權トヲ行フノ機關トナル者ナリ是故ニ宰相ハ他ノ行政官ニ明  
 許シ若クハ暗許セサル所ノ行政訴訟判決ノ權ヲ全有ス加之ナラス行  
 政事件ハ政府ニ屬スル貸與權若クハ政府ノ負ヒタル貸與權ヲ清算ス  
 ルニ因テ結了スル者多シ此負債清算ノ權ハ亦宰相ニ屬スルヲ之ヲ後  
 段ニ論スルカ如シ

トロレー氏著書第五卷第二千三百三十九項ニ曰ク參事院ハ始審裁判所  
 トシテ行政判決權ヲ全有ストス可カラズ該院ハ唯共和曆第八年雨月  
 二十八日ノ法律及ヒ其後年ニ發スル法律ニ據テ明許セラレタル事項

る

ニ限リテ其權アルノミ若シ此明許ナキ者ハ之ヲ以テ參議院ノ管轄ニ  
 屬ス可シト余ハ氏ノ説ヲ以テ未タ精確ナラスト思惟ス何トナレハ氏  
 ノ言ノ如ク參議院ヲ以テ始審判決ノ權アリトスルノ理ナケレハナリ  
 若シ夫レ終審判決ノ權ハ固ヨリ該院ニ屬スルヲ殆ト論ヲ待タス  
 余ハ前ニ論スル所ノ主義ヲ以テ諸般ノ場合ニ適施シ以テ宰相ノ判決  
 權ナル者ヲ知ラシメント欲ス請フ先ツ前章ニ引用セル場合ヲ論セン  
 千八百十六年四月二十八日ノ法律第二十二條ニ因リ大藏宰相ニ於テ  
 不當ニ輸入税ヲ科セラレタリトシ若クハ本邑ノ人口ニ超過スル等級  
 ニ入レラレタリトスル邑ノ訴訟ヲ判決スル時ハ邑ヨリ具申スル所ノ  
 憑據ト直稅係官吏ヨリ具申スル所ノ憑據トヲ合セ聽キテ以テ判決ヲ  
 下ス可シ若シ此判決ヲシテ法定ノ人口ニ比率セスシテ定メシメハ爲  
 メニ科稅セラレ可カラサル邑ニ向テ之ヲ科シ本邑ノ權利ヲ害スルコ



至ラシ故ニ此場合ニ於テ大藏宰相ハ裁判宣告書ニ類似セル判決ヲ爲シタル者トシ爲メニ參議院ニ控訴セラル、一有ル可シ之ヲ宰相ニ屬スル行政訴訟判決權ノ一例トス已下尙ホ其數例ヲ示サン

收稅長吏郡收稅吏若クハ其他ノ主計吏ニ於テ其管理スル官金ノ不足ヲ以テ己レノ過失ニ入レヌシテ不慮ノ時機ニ遇セリト主張シ以テ其責任トスル所ノ者ヲ免カレントスルニ當リテハ大藏宰相ヲシテ其訴求スル所ノ者ヲ調査シテ以テ判決ヲ行ハシム此場合ニ於テ該宰相ハ法例ノ明文ニ依準シ國庫ト計吏トノ間ニ關スル利益ヲ判定シ爲メニ計吏ノ權利ヲ害スルコト有ル可シ是故ニ千八百六十二年五月三十一日ノ詔書第二十一條第三百二十九條第三百五十一條及ヒ第五百四十五條ニ於テ該計吏ノ爲メニ參議院ニ控訴スルノ道ヲ開ケリ即チ該詔書ノ條款中ニ云ヘルアリ曰ク大藏宰相ハ計吏ニ於テ其責任ヲ免カレントス

ルノ訴求ヲ判決ス但シ行政訴訟ヲ判決ス可キ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト第二千二百九十項ヲ看ヨ

收稅長吏及ヒ郡收稅吏ノ責任ノ有無ヲ判決スルカ爲メニ大藏宰相ニ與ヘタル權ハ千八百三十二年十二月八日ノ王勅ニ因リ該宰相ニ屬スル總テノ計吏ニ對シテ行フ可キ者ノ一例タルニ過キス故ニ該詔書第四條末節ニ曰ク大藏宰相ハ總テ計吏ノ責任ニ關スル問題ヲ判定ス可シ但シ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト

千八百三十八年四月二十七日ノ法律第六條ニ因リ掘礦免狀ノ廢棄ヲ命スルコトヲ許サレタル宰相ニ屬スル職務ニ於テ所謂ル行政訴訟判決權ナル者アルハ余已ニ之ヲ明示セリ此條規ハ併セテ鹽坑鹹井ニ關スル免狀ノ廢棄ニ適施ス可シ千八百四十年三月七又同一ノ法律ニシテ宰相ニ屬スル行政訴訟判決權ノ二例ヲ示セル者アリ即チ千八百三十



八年四月二十七日ノ法律第二條ニ從ヘハ宰相ハ實地検査ニ因リ溢水  
 シ若シハ溢水ノ懼シアル礦坑乾涸ノ工事ニ關スル費用ヲ判決シ隨テ  
 受許與者ノ負擔ス可カラサル工事ヲ以テ之ニ命シ以テ該受許與者ノ  
 權利ヲ害スルコト有ル可シ故ニ該宰相ノ判決ハ行政訴訟ニ關スル者ナ  
 ルヲ以テ同條第二節ニ因リ之ヲ參議院ニ控訴スルヲ許セリ且ツ同上  
 ノ法律第七條ニ從ヘハ數人若シハ一會社ニ於テ掘礦免狀ヲ有スル場  
 合ニ於テ該受許與者若クハ會社ハ某ノ義務ヲ命セラルレモ之ヲ履行  
 セサルニ因テ其工事ノ中止ヲ州長ヨリ命セラル、コト有ル可シ其州長  
 ノ命令ニ不服ナル者ハ宰相ニ控訴シ尙ホ時アリテ行政訴訟手續ニ因  
 テ參議院ニ控訴スルヲ得

千八百四十一年三月七日ノ王勅ハ鹽製造所ノ設立ニ關スル許可ニ就  
 キ同一ノ條規ヲ定ム即チ其第二十九條ニ曰ク鹽製造所設立ノ許可ヲ

第二百三十三條

得タル者ニ於テ其命セラレタル約款ヲ履行セサル時ハ工部宰相ノ判  
 決書ニ因リ其免狀ヲ廢棄スルヲ得可シ但シ該判決書ハ控訴ニ係ハラ  
 ス假ニ執行スルヲ得可シト

アルゼリーノ土地受許與者ニ向テ失權ノ法ヲ定メタル千八百四十五  
 年七月二十一日ノ王勅第八條ニ左ノ一節ヲ加ヘタリ曰ク此失權ハ陸  
 軍宰相ニ於テ命令ス可シ但シ行政訴訟ノ手續ニ因リ參議院ニ咨詢決  
 定スル國王ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト

凡ソ文武官ノ退老金ヲ算定シ若シハ之ヲ請求スル者ヲ非拒スルカ爲  
 メコト下セル宰相ノ判決書ハ行政訴訟上ノ判決ニ屬ス何トナレハ因テ  
 以テ法例ニ從テ定メタル文武官ノ權利ヲ害スルニ至ル可ケレハナリ  
 故ニ該判決書ハ行政訴訟上ノ手續ニ因リ參議院ニ控訴スルヲ得  
 千八百四十一年四月十五日  
 ノ法律第二十五條



退老金ヲ算定ス可キ宰相及ヒ大藏宰相ニ屬スル相互ノ職務ハ千八百十五年六月二十八日サビヤ件<sup>ド</sup>、セグル、ヂユベールン件<sup>ド</sup>、ソンドン、ド、リシブール件等ニ係ル參議院判決及ヒ參議院判決録第四百七十二葉ニ於テ該サビヤ件ニ關スル政府目代ノ意見書ヲ參看ス可シ  
以上ノ判決ニ因リ左ノ結果ヲ生ス

第一 退老ス可キ官吏ノ隸屬スル宰相ノ報告ニ因テ下シタル詔書ヲ以テ退老金ヲ算定賜與シタル時ニ當リ法律ニ據リ總テノ退老金ヲ登簿セシムルノ職ニ任スル大藏宰相ハ先キニ清算スルニ臨ミテ事實ヲ誤マリタリトシテ更ニ特別ノ詔書ヲ行下セラレシトテ請フ者ヲ拒ムヲ得ス

第二 大藏宰相ハ法律ニ因リ定メタル程式ニ從ハスシテ與ヘタル退老金ノ登簿ヲ拒ムヲ得例セハ退老金ノ清算ニ關シ豫メ該宰相

ノ意見ヲ問フ可シトスル定則ニ從ハサルノ類是レナリ

第三 大藏宰相ハ兩職兼務ニ關スル法律ヲ適施スルノ任ニ居ルカ

故ニ法禁ノ兩職ヲ兼スル者ニ與フル退老金ノ登簿ヲ拒ムヲ得是ニ因テ之ヲ見レハ退老金ヲ得ルノ權ハ法律ニ依準スルニ非サル外、宰相ノ決定書ニ因テ猥リニ與奪スルヲ得サルノ權ナリ是故ニ千八百三十年十二月十三日ノ法律ニ因リ退老金ヲ得タル同年七月ノ軍入ニシテ他日禁堡ノ刑ヲ蒙リ準死ノ刑人トナリタル時大藏宰相ハ退老金ヲ得ルノ權ヲ有スル該軍人ヲ以テ準死ノ刑ヲ受クルニ因リテ其退老金ヲ得ルノ權ヲ消失セリトスル判決ヲ下セシニ參議院ハ養老金ノ性質ハ本人ヲ救養スル者ナルカ故ニ民事上ノ諸權利ト共ニ消滅ス可カラストスル主意ニ因テ右ノ宰相判決書ヲ取消シタリ  
千八百三十五年八月七日  
ヤンヌ凡ソ是等ノ場合ニ係ル宰相ノ判決ハ已得ノ權利ヲ損害シタル  
件判決



者トス

參議院ノ公判ハ國債清算ノ件ニ關シ宰相ニ特別ノ判決權アルヲ認  
 メ其判決書ヲ以テ行政上ノ始審判決書ニシテ參議院ニ控訴セラル可  
 キ者トセリ 共和曆第六年霜月二十四日ノ法律第二十五條千八百三十  
 ヲシヤトリニ五年八月二十六日クランマンザンツ件同年十月二十一日シ  
 一件判決等 是故ニ失權ニ關スル法律若クハ詔書ヲ適施スルニ因テ  
 其貸與權ヲ拒マレ若シハ其貸與權ヲ減シテ其請求スル金額ニ滿タサ  
 ル者トセラレタル者ハ該宰相ノ判決書ヲ以テ參議院ニ控訴スルヲ得  
 千八百三十八年五月二十八日シユブリエー件同年八月二十三日ル  
 ン件千八百三十九年五月二十七日レール件同年十月二十九日ドブナ  
 ンクニル件同年十二月十九日マシユ一件判決等ヲ看ヨ  
 該件ヲ以テ行政官ノ管轄ニ屬スルノ理由ハ共和曆第五年芽月二日ノ  
 布令ニ明辯スルヲ左ノ如シ

第一 千七百九十年八月十六日議決二十四日公布ノ法律第二篇第

十三條ニ於テ司法官ノ職務ハ常ニ行政官ノ職務ニ相殊別ス可シ  
 ト定メタリ又共和曆第三年菓月十六日ノ法律ニ因リ何レノ場合  
 ナ論セス司法裁判所ニ於テ行政官ノ處務ヲ審理判決スルヲ嚴禁  
 セリ

第二 千七百九十年十一月五日及ヒ共和曆第四年雪月十九日ノ法  
 律ニ因リ政府ニ納ム可キ金額若クハ政府ヨリ拂フ可キ金額ノ辨  
 償ニ關スル訴訟ハ中央行政政府ノ目代(州長ヲ指ス)ヲ以テ其原告  
 ト爲ス可シ而シテ普通裁判所ハ行政官ニ於テ該訴訟ヲ調査シタ  
 ル後ニ非サレハ之ヲ審理スルヲ得ス

第三 凡ソ政府ニ直隸スル官吏ニ因テ國庫ノ資金ヲ處分スル者ハ  
 皆テ行政務ノ部類ニ屬ス

第四 是等ノ行政務ニ關スル辨償ノ訴其他之ヨリ生スル爭訟ヲ以



テ普通裁判所ノ管轄ニ屬スル時ハ則チ左ノ結果ヲ生ス可シ曰ク  
 第一ニ專ラ政府ノ命令ニ因テ事ヲ處シ其一身上ニ係ル義務ナキ  
 所ノ官吏ヲシテ私ノ負債辨償ヲ命セラル、ト同一ノ處分ヲ受ケ  
 シムルニ至ル可シ第二ニ凡ソ裁判所ヨリ發出スル裁判宣告書ハ  
 其執行ノ効ヲ併セ生スルカ故ニ必ス左ノ結果ヲ見ル可シ即チ司  
 法上ノ財産差押へ手續ニ因リ政府官吏ノ財産ヲ收奪スルニ非サ  
 レハ則チ政府ノ財産ハ政府ニ對スル債主ノ爲メニ左右セラレ遂  
 ニ政府ニ屬スル物品ヲ以テ當然ノ所用ニ充ツルヲ得スシテ國庫  
 ノ財産ヲシテ自由ニ差押へシムルヲ得ルニ至ラン之ヲ約言スレ  
 ハ唯、ニ國家ノ公務ヲ妨礙スルノミナラス全ク之ヲ絶滅スルニ至  
 ル可シ第三ニ普通裁判所ニシテ此ノ如キノ金額ヲ定メテ其辨償  
 チ政府ニ命スルヲ得ルトスル時ハ是レ之ヲシテ政府ニ向テ貸

與權ヲ定立スルノ權ヲ有セシムル者ニシテ最モ道理ニ背ク者ト  
 ス何トナレハ凡ソ政府ニ使役スル者ニ與フ可キ金額ハ行政官ノ  
 特權ニ屬スル所ノ清算ヲ行フテ定ムル者ナレハナリ第四ニ政府  
 ノ官吏ヲシテ其一身上ニ係ル者ト均シキ訴ヲ受ケシムル時ハ則  
 チ該官吏ニ許スニ更ニ其上長官ニ向ヒ其辨償ヲ命セラレタル金  
 額ヲ訴求スルノ權ヲ以テスルナリ果シテ此ノ如クナル時ハ其弊  
 害ヲ生スルヤ蓋シ少小ニ非サルナリ

右ノ諸理由アルニ因リ中央政府ハ左ノ如ク決定ス

第一條 ス略

第二條 普通裁判所ニ屬スル行政官ノ目代官檢察ハ官吏タルノ名義ヲ  
 以テ歸結シタル約束ニ關シ國庫ヨリ拂フ可キ期限ヲ怠ルニ因テ該  
 官吏等ニ於テ負擔ス可シトスル償金ニ關シ政府官吏ヲ被告トシテ







ルノ權ナシ 千八百三十七年二月二十六日ド、タンブル  
 八百四十二年二月二十四日ランブル  
 府件判決等  
 ヲ 政府ノ債主ニ向テ法律ニ因テ定メタル失權規則ヲ適施スル  
 モ亦參事院ノ權ニ非ス 千八百四十二年十一月二十五日プロサル  
 百五十八年二月四日ユベ  
 件千八百五十六年一月十日チブ  
 件千八百  
 十二年五月二十八日ル  
 ーマ  
 グ  
 ー  
 件判決  
 第二 宰相ハ獨リ保證預納金ノ利子ヲ以テ五年ノ期限満盡ノ後  
 ニ至テ失權ニ屬ス可キヤ否ヤノ問題ヲ判決スルノ權ヲ有ス 千八  
 十八年五月二十八日 民法第二千二百七十七條ハ其勳位アル  
 シニ  
 ヲ  
 プ  
 リ  
 エ  
 ー  
 件判決  
 認メス且ツ之ニ附帶スル俸給ヲ請求セシテ五ヶ年以上ヲ經過  
 スル所ノ有勳者ニ適施ス可キヤ否ヤノ問題ヲ決シ 千八百四十  
 一  
 年  
 二  
 月  
 五  
 日  
 モ  
 判決  
 及ヒ政府ノ爲メニ定メタル失權ノ問題ヲ判決スルモ亦宰  
 相一人ノ權ニ屬ス司法官ニ於テ之ニ關與スルヲ得ス 千八百四十  
 一  
 年  
 二  
 月  
 一  
 日  
 ヲ  
 シ  
 ヲ  
 判  
 決  
 千八百五十七年二月五日シ  
 ヲ  
 判  
 決  
 千八百五十四年八月十二日レ  
 ー  
 件

第三 普通裁判所ハ千八百三十五年六月十二日ノ法律ニ因テ禁止

シタル贗造烟草ノ製造及ヒ販賣等ノ如キ法禁ノ工業廢止ニ係ル  
 損害要償ノ訴ヲ判決スルノ權ナシ蓋シ千八百四十一年五月三日  
 ノ法律ニ因リ公利益ノ爲メニスル收没ヲ以テ司法官ノ管轄ニ屬  
 スレトモ其目的トスル所ノ者ハ特ニ不動産ノ沒收ニ關セリ之ヲ推  
 擴シテ此ニ揭クル損害要償ニ適施ス可カラス故ニ此損害要償ノ  
 訴訟ハ宰相ニ對シテ起ス可シ 千八百三十五年八月二十六日クラ  
 マ  
 ン  
 件  
 同  
 年  
 十  
 月  
 二  
 十  
 一  
 日  
 シ  
 ヲ  
 判  
 決  
 ヤ  
 ト  
 リ  
 エ  
 ー  
 件  
 判  
 決

第四 郵便書中ニ封金アルヲ郵便局ニ告知スル場合ニ於テ千八

百五十九年六月四日ノ法律第三條ニ因リ普通裁判所ニ與ヘタル  
 判決權ハ之ヲ推擴シテ郵稅ヲ拂ハサル書中ニ封入スル金額ヲ失  
 フタル場合ニ適施ス可カラス何トナレハ此千八百五十九年ノ法



六百三千第

律ハ政府ノ負債ヲ以テ行政官ノ判決權ニ屬ス可シトスル通則ニ背キテ一ノ特例ヲ定メタル者ナレバナリ千八百六十一年八月六日ド、ケーステ、件判決

第五 政府ヲ以テ責任者ナリトスル不慮ノ災ニ罹リテ死シタル者ノ代人ヨリ政府ニ向テ求メタル損害要償ノ訴モ亦宰相ノ判決權ニ屬ス不慮ノ災トハ軍人ノ引率シタル軍馬ニ因リ蹴倒セラレテ毀傷スルノ類是レナリ千八百四十七年八月二十日ボーズモン件判決

第六 有權者ニ還附スルカ爲メニ共和曆第十一年花月十日及ヒ千八百三十一年七月四日ノ條約ニ因リ米國政府ヨリ佛國政府ニ其使用ヲ委任シタル金額ニ關シ米國ノ債主ニ於テ有セリトスル權利ノ有無實否ヲ確認スルノ權ハ大藏宰相ニ屬ス千八百四十八年一月二十七日ス

政府ニ屬スル負債ノ清算及ヒ拂渡シノ命令ニ係ル宰相判決ニ就キ前

クハエーラ  
ゼ、件判決

七百三千第

論述スル所ノ者ハ亦千八百六十六年十二月十五日ノ詔書ニ因リ下請負人ヨリ訴求スル金額及ヒ直ニ主タル請負人ニ拂フ可キ金額ニ適施ス可シ以上兩箇ノ場合ヲ區別スルノ道理アラズ是故ニ普通裁判所ハ大藏宰相局ニ屬スル官吏ニ對シ下請負人ヨリ起セル是等ノ訴訟ヲ判決スルノ權ナシ千八百四十三年十二月六日クロイーエ件判決

參議院モ亦前ニ言フ所ノ者ニ因リ政府ノ爲メニ定メタル失權ノ法律ハ控訴ス可カラサル力ヲ有スル裁判宣告書ヲ發スルノ後ト雖モ尙ホ宰相ニ因テ之ヲ適施スルヲ得可シトセリ千八百二十二年七月三日バ

八日	リ	シ	ブル	同	年	五月	二十四	日	ペ	ル	チ	エ	一	日	千	八百	三	十	七	
年	四	月	二	十	三	日	ア	ル	ク	邑	件	千	八百	三	十	八	年	四	月	十
八	百	三	十	九	年	五	月	二	十	七	日	レ	一	日	千	八百	三	十	九	
八	百	四	十	五	年	六	月	二	十	六	日	ボ	レ	ツ	邑	件	千	八百	五	
八	百	四	十	五	年	六	月	二	十	六	日	ボ	レ	ツ	邑	件	千	八百	五	
八	百	四	十	五	年	六	月	二	十	六	日	ボ	レ	ツ	邑	件	千	八百	五	
八	百	四	十	五	年	六	月	二	十	六	日	ボ	レ	ツ	邑	件	千	八百	五	
八	百	四	十	五	年	六	月	二	十	六	日	ボ	レ	ツ	邑	件	千	八百	五	
八	百	四	十	五	年	六	月	二	十	六	日	ボ	レ	ツ	邑	件	千	八百	五	
八	百	四	十	五	年	六	月	二	十	六	日	ボ	レ	ツ	邑	件	千	八百	五	
八	百	四	十	五	年	六	月	二	十	六	日	ボ	レ	ツ	邑	件	千	八百	五	

權ヲ認メタル者ニ過キストスルニ因ル故ニ該判決書アルカ爲メニ宰



相チシテ其貸與權ノ原因ヲ探究シテ之ニ失權ノ法律ヲ適施セシムル  
 ノ妨礙ヲ爲サス是時ニ當リ宰相ハ政府ノ負債ノ存在スルヲ取消ス  
 ニ非ス隨テ裁判所ヨリ下セル裁判宣告書ヲ以テ不當ノ者トスルニ非  
 ス唯、政府ヲ負債者トスル裁判宣告ノ爲メニ貸與權ニ關スル舊證券ノ  
 性質ヲ變更スルヲ得スト判決スルノミ而シテ失權ノ法ニ因テ生スル  
 特例ヲ以テ裁判宣告ノ後ニ施行スル所謂ル互消法ナル者ニ同一視セ  
 リ蓋シ此互消法ナル者ハ裁判ヲ執行スルノ一方法ニシテ裁判ニ因テ命  
 セラレタル條規ニ背反セル者ニ非サルナリ以上ノ見解ハ唯、參議院ノ  
 公判ニ因テ確認セラル、ノミナラス尙ホ上議院ニ於テモ亦此說ヲ主  
 張セリ千八百四十一年二月二十四日ノ會議ニ於テ  
 レミ氏ノ請願書ニ關スル討論筆記ヲ看ヨ  
 右ノ參議院公判ヲ推擴シテ參事院ノ判決ニ適施スルヲ得該院ノ判決  
 ニ於テ其政府ノ負債ト認メタル者ト雖モ大藏宰相ニ於テ之ニ失權ノ

法ヲ適施スルモ之ヲ妨礙スル能ハス千八百五十一年三月八日  
 リブロン件判決是故ニ此ニ  
 註記セル參議院判決ハ左ノ如キ考案ヲ下セリ曰ク參事院ニ於テ出訴  
 ノ日ヨリ五年前ニ係ル損害ノ要償ヲ命スル判決ヲ下セル場合ニ於テ  
 工部宰相ハ參議院ニ控訴スルモ其無用ニ屬スルノ故ヲ以テ受理セラ  
 レサル可シ何トナレハ大藏宰相ニ於テ失權ノ法律ニ依準シ常ニ該判  
 決ノ公權ヲ消滅スルヲ得該判決ノ爲メニ損害ヲ政府ニ蒙ラシムル有  
 ラサレハナリト  
 然レモ右ノ公判ニ關シ頗ル着實ナル難問ヲ生セリ之ヲ難スル者ノ言  
 ニ曰ク所謂ル失權トハ政府ノ爲メニ定メタル特別ノ期滿免除法ナリ  
 抑、期滿免除法ナル者ハ訴訟判決ノ確定セサル場合ニ於テ之ヲ主張ス  
 ルヲ得レモ一タヒ控訴ス可カラサル力ヲ有スル判決アリタル後ハ又  
 之ニ依據スルヲ得ス民法第二十四條ノ論據是故ニ已ニ失權ニ屬スル貸與ノ



辨償ニ關シ普通裁判所ニ訴ヘラレタル政府ヨリ該裁判所ニ於テ之ヲ判決スルノ權ナシトシ若クハ該貸與ヲ以テ已ニ失權ニ屬セリトスルノ旨ヲ主張スルコト無クシテ其確定裁判ヲ受ケタル時ハ隨テ普通裁判所ノ管轄外ナリトスルノ訴訟ヲ起シ且ツ失權ノ法ニ依據スルヲ得ス今夫レ法律ノ原理ニ從ヒ政府ニ於テ普通裁判所ノ管轄外ナリトシ及ヒ失權ニ屬セリトスルノ旨ヲ裁判所ニ對シテ陳疏セサル時スラモ以上論スル所ノ如クナル可シトスル時ハ政府ニ於テ是等ノ陳疏ヲ該裁判所ニ爲セヒ其非拒スル所トナリタル時モ亦同様ノ判斷ヲ下サ、ル可カラサルコト固ヨリ論ヲ待タス假令ヒ宰相ニ於テ是等ノ事件ヲ勘査スルハ特ニ己レノ權ニ屬シ普通裁判所ニ於テ關涉スルヲ得サル者コト非スト辯論スルモ遂ニ其効ナカル可シ但シ確定ノ裁判アラサル間ハ政府ハ州長若クハ檢事ニ依リ普通裁判所ノ管轄外ナリトスルノ訴訟

ヲ起スハ勿論、必要トスル場合ニ於テハ更ニ權限抵觸ノ訴訟ヲ起シテ之ヲ判決スルノ權アリ法律上ニ於テ政府ニ與フル權力ノ大ナルコト夫レ此ノ如シ然レモ一タヒ確定ノ裁判ニ因テ敗訴スルニ及テハ假令ヒ政府ト雖モ之ヲ踐守ス可キコト曾テ人民ニ異ナル無カル可シ破毀法院ハ千八百三十九年十二月七日ノ判決ニ因リ此難題ヲ判決シテ左ノ區別ヲ立テタリ曰ク普通裁判所ニ於テ失權ノ訴訟ヲ起サ、ルカ爲メニ行政官ニ對シテ該訴訟ヲ起スヲ妨ケス何トナレハ此點ニ關シ所謂ル控訴ス可カラサル裁判ノ力ナル者アラサレハナリ然レモ確定ノ裁判宣告ニ因テ失權ノ訴訟ヲ拒非セラレタル時ハ之ニ反ス何トナレハ普通裁判所ヲ以テ該訴訟ヲ判決スルノ權ナシトスルモ其確定裁判ノ力ハ直ニ失權ノ訴訟ニ及ホスヲ得テ決シテ動カス可カラサル者ナレハナリト此區別ハベテコト係ル千八百五十五年五月十七日ノ參議院



判決ニ因テ亦採用スル所トナリ大ニ該院舊判決ノ甚々嚴ニ過クルノ弊ヲ救ヒタリト

參議院ハ宰相ノミチ以テ國庫ノ爲メニ定メタル失權ノ法ヲ適施スルノ權アリトスルノ主義ヲ推シ普通裁判所ニ此權アル可カラスト論決セリ千八百四十四年八月二十二日ナボレラン件故ニ政府ノ名ヲ以テ同年同月二十八日ドサンフリエスト件判決裁判所ニ對シ失權ノ訴訟ヲ起セル場合ニ於テ該裁判所ハ宰相ヲシテ其判決ヲ行ハシメ唯貸與權ノ存スルヤ否ヤト其金額及ヒ其原因トヲ定ムルニ止ム可シ蓋シ純然タル司法上ノ訴件ニ關シテハ豫審ニ屬スル事項ヲ以テ本案判決ノ前ニ調査判決スルヲ通則トスレモ茲ニ論述スル場合ニ於テハ豫審ノ事項ニ屬スル失權ノ訴訟ヲ先ツ判決スルヲ必要トセス因テ普通裁判所ハ直ニ本案ノ裁判ニ從事スルヲ得行政官ニ於テ先ツ失權ニ關スル事項ヲ判決スルヲ待タズ是故ニ州長ハ普通

裁判所ノ本案判決ヲ行フノ前ニ失權ニ屬ス可キヤ否ヤヲ辨知センカ爲メニ訴訟ヲ起スヲ得ス千八百四十四年七月二日是ニ由テ之ヲ觀レハ大藏宰相ニ於テ已ニ失權ニ屬セシ負債ノ辨償ヲ政府ニ命シタル普通裁判所ノ裁判宣告アルニ拘ラス往々自カラ處分スル所アル所以ノ者ハ其責ヲ以テ己レ一身ニ歸シ隨テ之ヲ辨償シ將タ辨償セサルヲ判決スルノ權モ亦其一身ニ屬セリト思惟シテ司法官ニ於テ失權ニ係ル問題ヲ調査スルノ權アル可カラストスルニ由レリ千八百四十二年八月十八日ホンターヌ邑件千八百四十四年七月二十五日ルノ一件千八百四十五年十二月十三日グレミリー邑件判決右ノ推測法ハ反證アル場合即チ前項ニ揭論セシ如ク司法官ニ於テ其權限外ニ拘ラス失權ノ訴訟ニ關シ確定ノ判決ヲ行フタル場合ノ外常ニ之ヲ適施ス可シ

宰相ニ於テ政府ニ關スル貸與權ヲ以テ已ニ失權ニ屬シタリト判決スル時ハ併セテ該失權ノ期限後其貸與權ニ關シ債主ノ支辨シタル費用



一十百三千第

コ對シ又失權ノ法ヲ適施ス可シ千八百三十七年六月二日ヘレチエ  
シラ件千八百五十五年二月八日ブレ  
 タン邑 若シ然セサル時ハ國庫ヲシテ已ニ消滅ニ屬スル貸與權ノ爲メ  
 件判決ニ非常ノ金額ヲ支辨スルヲ危險ニ遇ハシメ而シテ其債主ハ其費用ノ  
 政府ノ負擔ニ係ルノ故ヲ以テ苟モ憚ル所ナクシテ頻リニ司法上ノ訴  
 訟ヲ起スニ至ル可シ或ハ云ハシ該費用ニ關スル負債ハ政府ニ對スル  
 債主ニ於テ其貸與權ヲ消失スル後ニ至リテ出訴シテ得タル所ノ判決  
 ニ因テ生シタル者ナリト然レハ此場合ハ負債主ニ於テ其債主ニ向テ  
 期滿得免ノ權ヲ主張スル場合ト異ナル無シ故ニ其費用ヲ以テ悉ク該  
 債主ニ負ハシム可シ  
 宰相ハ其當該局ノ用務ノ爲メニ其請負人ト取結ヒタル供給請負契約  
 ヨリ生スル訴訟ヲ判決スルノ權アリ但シ參議院ニ控訴スルハ此限ニ  
 在ラス蓋シ此例則ハ參議院ノ公判ニ基ケル者ナレハ實際上法律ニ明

二十百三千第

記スル者ト同一ノ効力ヲ有ス參議院判決錄表中ニ揭然レハ該公判ヲ  
供給ノ條ヲ看ヨ  
 支持ス可キ法律ノ明文ヲ究索セントスレハ較其難キヲ覺ユ  
 千七百九十三年三月四日ノ法律ハ同條ノ爭訟判決ノ權ヲ以テ普通裁  
 判所ニ屬ス可キヲ確認セリ即チ其第一條ニ曰ク宰相若クハ其他ノ政  
 府官吏ト請負契約ヲ結ヒタル請負人商工及ヒ供給者ニシテ其約束ヲ  
 履行セサル者ハ本人住所ノ裁判所ニ告訴セラレ可シト其第二條ニ曰  
 ク宰相ハ右ノ告訴ヲ爲スカ爲メニ履行セサル請負契約書及ヒ請負人  
 供給者等ニ交附シタル前借金ヨリ生スル要償金額表ヲ國庫委員ニ送  
 附ス可シ該國庫委員ハ是等ノ書類ヲ請負人ノ住居スル州ノ目代長ニ  
 遞送ス該目代長ハ請負人及ヒ其保證人ニ對シ必要トスル告訴ヲ行ヒ  
 其始末ヲ國庫委員ニ報道スルノ責メ有ル可シト又其第三條ニ曰ク私  
 ノ署名ヲ以テ取結ヒタル契約書ニ係ル場合ト雖モ政府ハ其供給者并



三千百三千第

四十百三千第

ニ其保證人ニ屬スル不動産ニ就キ宰相ニ於テ該請負契約書ヲ認可スル日ヨリ以後書入質ノ權ヲ有ス可シト

右ノ法律ノ明文ニ因テ觀察スレハ宰相ト取結ヒタル供給請負契約書ニ關シ普通裁判所ニ其判決權アルトト之ヲ執行スルカ爲メニ遵守ス可キ訴訟手續トハ甚タ明確ニシテ疑フ可カラズ然レモ此ノ如キ條規アルカ爲メニ大ニ供給者ヲシテ官金ヲ掠取スルノ心ヲ感起セシメタリ現ニ國賊ヲ處斷スルカ爲メニ設置スル革命裁判所ニ關スル共和曆第二年四月二十二日ノ法律ハ不正ノ供給者ヲ以テ國安ヲ害スル者ト認メ之ヲ以テ所謂國賊ノ部類ニ列スルニ至レリ該法律第六條第九節此ノ如キノ法律及ヒ其他革命ノ際ニ制定シタル諸嚴法アルニ拘ハラズ當時請負契約書ニ因テ姦ヲ行フ者ノ盛ナルハ世人ノ皆ヲ認知スル所ナリ

共和曆第三年ノ國憲第三百二十二條ハ中央政府ノ理財委員ニ任スル

ニ各種ノ決算表及ヒ諸證書ニ依據シテ編成シタル國庫歲出入總決算表ヲ査定スルノ權ヲ以テスルニ因リ暗ニ行政官ヲシテ請負契約書ヲ査定セシムルノ權ヲ認メタリ

右ノ條規ヲ執行シ且ツ供給者等ノ不正ヲ制止センカ爲メニ共和曆第三年八月十二日ノ法律ヲ制定セリ該法律ノ理由書ニ曰ク共和曆第三年ノ國憲第三百二十二條ヲ速行シテ官金ヲ掠取スルノ惡弊ヲ防制スルノ急務ナルトヲ熟考シ且ツ不正ノ供給者ヲ處罰シテ以テ其公正ナル者ヲシテ之カ爲メニ冤ヲ蒙ルルノ患ヲ去ラシメンコトヲ熟考シ云々ト是等ノ理由ニ基キ右ノ法律第一條ニハ總テノ請負人供給者等ニ命ジテ定期内ニ其擔任スル用務ニ關スル決算表ニ證書ヲ添テ當該宰相ニ呈出セシメタリ又其第四條ニ因レハ宰相ハ主計吏ヨリ呈出スル決算表ヲ領收セシ日ヨリ三ヶ月内ニ於テ之ヲ規定シ證書ヲ添テ更ニ大



五千三百五十五

藏宰相局ニ送移ス可シ但シ該宰相ハ調査上ニ於テ必要トスノ請負契約書及ヒ判決書ノ副本ヲ併セ送ル可シ

共和曆第八年霜月十三日ノ法律ハ同年釀月十二日ノ法律ヲ確行シテ主計吏カ政府ニ負ヘル所ノ金額ヲ徵集センカ爲メニ國庫委員ニ許スニ該主計吏ノ負債徵集ニ必要トスル決定書ヲ下スヲ以テセリ而シテ該決定書ハ決算書調査ニ關シ財務委員ノ下シタル決定書ト同一ノ方法ニ從テ之ヲ執行スルノ力アリトセリ第一條同上ノ法律ニ因リ亦負債ノ全償ヲ命シ若クハ共和曆第八年釀月十二日ノ法律第二第四條ニ因リ大藏宰相局ニ藏置ス可キ決算表ヨリ生スル負債ノ追徵ヲ命スルカ爲メ共和曆第三年ノ國憲頒布後ニ拜命スル官吏及ヒ請負人供給者等ニ向テ假執行ノ力ヲ有スル判決ヲ下スノ權ヲ以テ國庫委員ニ與ヘタル第四條

第六千三百六十

共和曆第八年雨月一日ノ布令ニ因リ國庫委員ノ官ハ廢止ニ屬シ其職務ヲ以テ大藏宰相ニ與ヘタル第一條第三條因テ該宰相ハ同年風月十八日ノ布令ニ因リ先キニ國庫委員ニ屬セシ判決權ヲ得タリ即チ其第一條ニ曰ク國庫ノ財務ニ特任スル大藏宰相ハ共和曆第八年釀月十二日霜月十三日ノ法律ニ揭クル場合ニ於テ政府ニ負債アル主計吏請負人供給者等ニ向テ假執行ノ力ヲ有スル判決書ヲ下スヲ得ル同上ノ二法律ニ因リ先キノ國庫委員ニ任スル所ノ者ト同シカル可シト

共和曆第八年ノ國憲ニ因リ再ヒ參議院ヲ設置シ之ニ任スルニ行政上ノ事項ニ係ル爭訟ヲ判決スルノ權ヲ以テセリ第五十條故ニ供給請負契約書ニ關スル宰相判決書ニ對スル控訴ヲ判決スルノ權ハ該院ニ屬ス共和曆第八年雪月五日ノ條例ハ先キニ判決ノ權ヲ宰相ニ與ヘタル行政訴件ヲ以テ更ニ參議院ノ判決權ニ屬スルニ因リ爾後總テノ判決權



ヲ宰相ニ奪ヘル者ノ如シ第十條然レモ後發スル所ノ同年風月十八日ノ  
布令即チ前項ニ徵引スル所ノ布令ニ因テ之ヲ推セハ大藏宰相ハ尙ホ  
供給者ニ向テ假執行ノ力アル決定書ヲ下スノ權ヲ有スルヲ舊ノ如ク  
ナル可シ但シ該件ニ係リ參議院ニ屬スル終審判決ノ權ハ共和曆第八  
年雨月九日ノ布令及ヒ同シク第十年霧月二十三日ノ布令第二十二及  
ヒ第二十四條ニ因テ之ヲ確認セリ、

第七百三十條

以上論述スル所ニ因テ觀察スレハ今ノ普通裁判所ハ千七百九十三年  
三月四日ノ法律ニ因リ宰相ト取結ヒタル請負契約書ニ關スル訴訟ノ  
判決權ヲ失ヒ更ニ該權ヲ以テ行政官ニ移與シ參議院ヲ其終審裁判所  
トセシメ殆ト疑ヲ容レヌ獨リ該請負契約書ニ關スル始審判決ノ權ヲ  
以テ何レノ官吏ニ屬ス可キヤノ點ニ關シテハ未タ明白ナラサル者ア  
ルカ如シ蓋シ共和曆第八年風月十八日ノ布令ニ因リ大藏宰相ハ負債

第八百三十條

アル供給者及ヒ主計吏等ニ向テ假執行ノ力ヲ有スル判決ヲ下スチ得  
ルト定メシハ各宰相局ノ官吏ニ於テ政府ニ負ヒタル所ノ金額追徴ノ  
方法ヲ固定センカ爲メノニ然レモ是ニ因テ以テ各宰相ニ於テ其取結  
ヒタル請負契約書ヨリ生スル訴訟ニ關シ始審判決ノ權ヲ有セリト判  
斷ス可カラス

或人曰ク該始審判決權ノ在ル所ハ千八百六十六年六月十一日ノ詔書第十四  
條第二項ニ掲舉セリト下コルムナシ氏著行政法然レモ該詔書ハ特ニ  
參議院ノ權限ヲ定ムルニ止マルヲ其明文ニ參照シテ明白ナリ該詔書  
第十四條ハ參議院ノ職掌ト題スル篇中ニ擧ケタリ而シテ其本文ニ曰  
ク參議院ハ宰相若シハ宮内卿若クハ其名義ヲ以テ取結ヒタル請負契  
約書ニ關スル訴訟及ヒ各宰相局若クハ皇室ノ爲メニスル工事若クハ  
供給ニ關スル訴訟ヲ判決ス可シト是ニ因テ之ヲ見レハ該詔書ハ參議



院ノ判決權ヲ擴張シテ皇室ノ爲メニ宮内卿ト取結ヒタル請負契約書ニ關スル争訟ニ及ホシ該契約書ヲ以テ政府ノ爲メニスル請負契約書ト同視スルナリ然レモ該詔書ニ因テ宰相ニ判決權ヲ與ヘンコトヲ據證スルヲ得可カラズ

チエル氏ハ右ノ千八百六年ノ詔書ノ條規ニ就キ説ヲ爲シテ曰ク該條規ハ國庫ニ於テオーステルリツノ役ニ際シウーブラルワンレヘルヂユ及ヒテブレーノ三氏ト取結ヒタル契約ニ因テ蒙ムリタル妨碍ノ再ヒ生スルヲ豫防センカ爲メニ設ケタル者ナリト「コンシユール政及ヒ帝政歴史第六卷ヲ看

ヨ是ニ因テ之ヲ見レハ當時ノ政府ハ供給者ヲシテ行政官ノ判決權ニ屬ス可シト定ムル法律ヲ使用スルノ權アルコトヲ知ラサルコトヲ推知ス可シ參議院モ亦其所見ヲ政府ト相同シクスル者ノ如シ故ニ千八百六年六月十一日ノ詔書第十四條第二項ニ因テ宰相若クハ其代理者ト取

結ヒタル請負契約書ニ關スル宰相ノ權限ヲ定メタリ千八百四十八年八月十日シヤボ

事件判決ヲ看ヨ

シヨールポー氏曰ク該第十四條ハ參議院ノ職掌ヲ規定スルヲ以テ其主眼トセリ故ニ始審判決ノ權ヲ以テ何レノ官ニ屬ス可キヤヲ明言セス然レモ宰相ハ特別ニ規定スル場合ヲ除ク外常ニ行政上ノ普通裁判官タル可シト云ヘル通則ニ基キテ考フレハ始審判決ノ權ヲ以テ宰相ニ與フ可キヲ知ルト氏著行政判決權論第三卷蓋シ宰相ニ始審判決ノ權アルコトヲ明證シテ之ヲ許認セルノ後ニ及ンテハ氏ノ論スル所固ヨリ其當ヲ得ルト雖モ若シ先ツ之ヲ確認セズンハ未ダ判然セサル所ノ問題ヲ證據トシテ以テ其説ヲ立ツルノ譏アルヲ免カレス

然レモ余ハ此點ニ關シ參議院ノ公判ヲ以テ確乎動カス可カラサル者ト明證セリ獨リ其何レヲ基礎トシテ以テ此公判ヲ下セシヤヲ知ラス



因テ請フ卑見ヲ左ニ陳セン蓋シ請負契約書ニ係ル宰相ノ判決權ハ共和曆第八年釀月十二日ノ法律ニ因テ定マル者ナリ該法律第四條ハ當該宰相局ニ屬スル主計吏ヨリ呈出スル決算表ヲ決定シ調査ニ必要トスル決定書ヲ添ヘ之ヲ大藏宰相局ニ送移スルノ權ヲ以テ各宰相ニ與ヘタリ而シテ大藏宰相ハ共和曆第七年霜月十三日ノ法律第一條及ヒ第四條ニ因リ右ノ決定書ヲ執行ス可キカアル者ト宣告スルノ權ヲ附セラル又各宰相ハ附屬官吏若クハ供給者ノ負債ヲ假定スルカ爲メニ始審ノ判決書ヲ作り之ヲ大藏宰相ニ送移シテ執行ノ力ヲ有スル者ト爲サシムルヲ得ルノ謂ハ已ニ前ニ引キタル布令ニ見ヘタリ而シテ大藏宰相ハ前ニ徵引セシ共和曆第八年釀月十二日ノ法律第四條ノ明文ニ從ヒ他ノ宰相ト同一ノ權アルハ勿論猶ホ且ツ同年風月十八日ノ布令ニ因リ行政訴訟判決ノ權ヲ與ヘラレタリ

大藏宰相ノ決定書ニ因リ要徴ノ拘留執行ニ關スル

第九百三十三號

共和曆第十年風月九日  
ノ參議院意見書ヲ看ヨ

論者或ハ千八百十二年四月十二日ノ詔書第二條ニ依據シ參事院ニ於テ政府ノ爲メニスル供給請負契約書ニ關スル爭訟ヲ判決スルノ權アリト云フ者アリ該第二條ニ曰ク聯隊會計部ニ於テ布帛ノ供給ヲ收受ス可シトスレモ參謀局ニ於テ之ニ異議スル時ハ該會計部ニ於テ其布帛ノ全部若クハ一部ノ棄却ヲ命スルヲ得可シ但シ參事院ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト故ニ本條ハ參事院ヲ以テ供給者ト會計部トノ間ニ取結ヒタル聯隊供給品ノ請負契約ニ關スル爭訟ノ裁判官ト定メタルナリ然レモ余ハ此條規ヲ以テ實際ニ施行ス可カラスト信ス蓋シ該詔書ハ軍隊ノ監理ニ關スル千八百四十四年五月十日ノ王勅ノ爲メニ廢セラレ未ダ嘗テ之ヲ實行セシト有ラサルナル可シ

ダレスト氏著行政裁判論第三百二十



行政官ト取結ヒタル請負契約書ノ中ニ就キ因テ生スル争訟ヲ以テ参事院ノ始審判決ニ附シテ宰相ノ所轄ニ屬セサル者アリ例セハ共和曆第八年雨月二十八日ノ法律ニ從ヒ公ケノ工事請負人ト取結ヒタル契約ノ類是レナリ該法律第四條第二節ニ曰ク参事院ハ請負契約書條款ノ意義及ヒ其執行ニ關シ公ケノ工事請負人ト行政官トノ間ニ起レル争訟ヲ判決ス可シト

前ニ陳述スル所ノ者及ヒ本書第三十三項ニ論スル所ノ者即チ宰相ヨリ發出スル文書ニシテ單ニ請求ノ旨ヲ拒非スルニ止マル者ハ純然タル行政上ノ文書ニシテ行政事件ノ判決書トス可カラストスル者トニ因テ之ヲ推セハ参事院ニ於テ公ケノ工事ニ關スル費額ノ辨償ヲ其請負人ヨリ訴求スル場合ニ際シ該訴求ヲ非拒シタル宰相ノ文書アルカ故ニ之ヲ判決スルノ權ナシト宣告スル時ハ自カラ其職權ヲ短縮スル

者ト斷定セサル可カラス 千八百五十五年十二月二十日ルノラソ件判決

供給請負契約書ニ關シ宰相ト参議院トニ其判決權アルコトハ之ヲ實際ニ徴シ且ツ政府ト供給者トノ利益ニ鑑テ宜ク其然ルヘキヲ知ル夫レ普通裁判所ハ千七百九十三年三月四日ノ法律ニ因リ是等請負契約書ニ關スル争訟ヲ判決スルノ權ヲ與ヘラレタルコトハ余已ニ之ヲ辯セリ今古未ダ嘗テ此法律ヲ施行セシ時ノ如ク政務整頓セスシテ供給者屢其供給品ノ辨償ヲ得サル者ハアラス是レ特ニ當時財務ノ困難ナルノミニアラス裁判所ニ於テハ之カ精算ヲ爲スコト甚タ難キニ因レリ何トナレハ裁判所ニ於テ請負契約ニ關スル訴訟ヲ判決セントスルニ臨ミ其證據トス可キ書類ハ大概宰相局ニ藏置セリ故ニ裁判所ニ於テハ自在ニ之ヲ照閱スルヲ得ス且ツ司法上ノ訴訟ハ常ニ多クノ時日ヲ要シ且ツ煩雜ナル程式ヲ要スルカ故ニ之ヲ以テ軍隊ノ供給等ノ如キ極メテ



至急ヲ要スル者ニ應スルヲ得ヌ加之ナラス諸司法上ノ訴訟ノ中ニ就  
 キ計算ニ關スル訴訟ノ如ク多ク時日ヲ要シ且ツ多ク費用ヲ要スル者  
 ハアラス極メテ些細ナル金額ニ關スル人民相互ノ計算上ノ訴訟スラ  
 モ時日ト費用トヲ要スルヲ已ニ此ノ如クナル時ハ金額極メテ廣大ナ  
 ル所ノ政府ト供給者トノ間ニ起レル計算上ノ訴訟ヲ判決スルニ臨ミ  
 殆ト其許多ノ時日ト費用トヲ要スルヲ知ラス是レ其請負契約書ニ關  
 スル訴訟判決ノ權ヲ以テ宰相ト參議院トニ與フルヲ利トシテ普通裁  
 判所ニ屬スルヲ不利トスル所以ナリ

供給請負契約ニ關シ宰相若クハ其代理者ハ唯ニ行政政府ヲ代表スル  
 ノミナニス猶ホ且ツ政府ニ關係アル所有權上ノ普通ノ争訟ニ係ル場  
 合ノ如ク公權タル性質ヲ失フテ一私人ノ性格ヲ有スル所ノ政府ヲ代  
 表スル者トスルヲ得可シ故ニ該請負契約ニ因テ生スル争訟ハ常ニ行政

官ノ集合權ト各箇人ノ權利トノ間ニ關係セリ然ラハ則チ其行政訴訟  
 タルノ性質ヲ有スルヲ明白ナル可シ

凡ソ軍用品ニ關スル主計吏ノ貸與權ヲ算定シタル陸軍宰相ノ判決權  
 ハ確定ノ者トス故ニ該判決ヲ參議院ニ控訴セントスル者ハ其送達ヲ  
 得タル日ヨリ三ヶ月内ニ於テス可シ此期限ヲ經過スレハ其控訴ノ權

ヲ失フ  
千八百五十年一月六日  
 ランダゴロリ一件

飼草供給者ニ於テ其請負契約ヲ執行スルカ爲メニ政府ニ屬スル建物  
 ナ貸與セラル、ノ後火災ニ遇フテ該建物ヲ消失スルニ臨ミ民法第千  
 七百三十三條ニ因リ供給者ヲシテ其責任ヲ負ハシム可キヤ否ヤノ問  
 題ヲ判決スルノ權ハ陸軍宰相ニ屬ス  
千八百五十一年十一月二十九日  
 リエクロザ件千八百五十二年三

月五日「ヘニ」  
 會社件判決  
 宰相若クハ其代理者ト取結ヒタル請負契約書ヨリ生スル争訟ヲ以テ



公ケノ工事請負人ト取結ヒタル請負契約書ヨリ生スル争訟ト均シク  
 參事院ノ判決權ニ屬セサル所以ノ者ハ甲件ハ乙件ヨリモ急施ヲ要ス  
 レハナリ凡ソ宰相ヨリ下セル判決書ハ參事院ヨリ下セル判決書ヨリ  
 モ常ニ神速ナリトス是ヲ以テ行政官ト取結ヒタル請負契約ニ關シテ  
 ハ之ヲ以テ宰相ノ所轄ニ屬スルヲ通則トシ參事院ノ所轄ニ屬スル者  
 ハ則チ其特例ニ係ル共和曆第八年兩月二十八日ノ法律第四條第二節  
 ナ解釋スルニ當リテモ亦此旨ヲ體貼シ參議院ノ公判及ヒ前ニ徵引シ  
 タル諸法例ニ依準シテ以テ宰相ニ屬スル判決權ト參事院ニ屬スル判  
 決權トチシテ並ヒ行ハレテ相戻ラサラシム可シ此一段ニ就テ觀察ス  
 ルモ亦宰相ニ所謂ル行政訴訟判決權ナル者ノ存スルアルヲ知ル何ト  
 ナレハ今假リニ供給請負契約ニ關スル争訟判決ノ權ヲ以テ參事院ニ屬  
 スルヲ猶ホ公ケノ工事請負人ト取結ヒタル請負契約ニ關スル訴訟ニ

於ケルカコトシトセハ該供給請負契約訴訟ニ關スル參事院ノ判決ヲ  
 以テ行政訴訟上ノ始審判決トナサ、ル可カラス然ラハ則チ該訴訟ニ  
 就キ宰相ヨリ下セル判決モ亦同一ノ性質ヲ有ス可キト明白ニシテ疑  
 フ可カラサレハナリ是ニ因テ之ヲ見レハ陸軍卿若クハ其代理者ト取  
 結ヒタル騎兵隊ニ屬スル肥料販賣ノ契約ニ關スル訴訟及ヒ肥料ヲ買  
 フ者ヨリ行政官ニ向テ起セル要償ノ訴訟ニ係ル始審判決ヲ行フノ權  
 ハ陸軍卿ニ屬ス之ヲ以テ參事院ニ與フルヲ得サルナリ千八百四十七年十一月十日  
 件判決  
 政府ノ名ヲ以テ取結ヒタル請負契約ニシテ統計表ノ編製及ヒ測地等  
 ナ目的トスル者ハ共和曆第八年兩月二十八日ノ法律第四條ニ定ムル  
 公ケノ工事請負契約ニ非スシテ供給請負契約ノ部類ニ屬ス故ニ因テ  
 起レル争訟判決ノ權ヲ以テ大藏宰相ニ屬ス可シ但シ參議院ニ控訴ス



第三千二百三十一號

ルハ此限ニ在ラス千八百五十年十二月二  
 凡ソ供給請負契約ノ保證人ニ於テ本人ニ代リ總テノ義務ヲ履行ス可  
 シト契約シタル場合ニ於テハ行政官ト該保證人トノ間ニ起レル争訟  
 判決ノ權ヲ以テ宰相ニ屬ス千八百四十六年三月六 陸軍卿ノ指定スル  
 主計吏ハ勿論陸軍宰相局ノ用務ニ關涉スルニ因テ主計吏ニ均シキ性  
 格ヲ有スル者ヨリ出セル決算表及ヒ其責任ヲ判決スルノ權ハ該宰相  
 ニ屬ス千八百四十九年八月二 戰地ニ於テ執行ス可キ土工請負ハ共和  
 曆第八年雨月二十八日ノ法律ニ據リ參事院ノ所轄ニ屬シ其判決權ヲ  
 以テ宰相ニ委セス故ニ該請負ノ取消ヲ宣告シタル陸軍宰相ノ判決ア  
 ルカ爲メニ該請負人ヨリ參事院ニ訴求スルノ妨碍ヲ爲サス而シテ該  
 宰相ノ判決書ニ對シ請負人ヨリ起セル控訴ハ受理ス可カラス千八百  
一月五日ベナ  
ツク件判決  
六十年

第三千二百四十二號

争訟判決ノ權ヲ以テ大藏宰相ニ屬ス可キヤ將テ參事院ニ屬ス可キヤ  
 ノ疑ヲ生ス可キ場合アリ即チ國有森林ニ於テ執行ス可キ工事はレナ  
 リ此場合ニ於テ宰相ハ千八百六年六月十一日ノ詔書第十四條第二節  
 中ニ其當該宰相局ノ爲メニスル工事若クハ供給ニ關シ云々ノ語アル  
 チ據トシテ森林局ノ爲メニスル供給若クハ工事請負人ト該局トノ間  
 ニ起レル争訟ニ就キ自カラ始審ノ判決ヲ行ヒ之ニ不服ナル者ハ參議  
 院ニ控訴ス可シト主張セリ然レモ此ノ如キノ見解ハ參議院ノ許認ス  
 ル所トナラス該院ハ是等ノ争訟ヲ以テ公ケノ工事請負契約ニ屬スル  
 者トシ共和曆第八年雨月二十八日ノ法律第四條第二節ニ因リ其判決  
 權ヲ以テ參事院ニ屬ス可シト判決セリ千八百五十二年七月三 參議院  
日メルシエー件判決  
 ノ該判決ハ尤モ其當ヲ得タリ若シ該判決書ニ云フ所ノ如クナラサル  
 時ハ遂ニ宰相ヲシテ共和曆第八年雨月二十八日ノ法律ニ因リ公ケノ



工事ニ關スル參事院ノ判決權ヲ侵奪セシムルニ至ル可シ  
 州ノ爲メニスル供給請負契約ニ關スル争訟判決ノ權ハ何レノ官衙ニ  
 屬ス可キヤ此問題ハ極メテ解シ難キ者ニシテ諸家其說ヲ同シクセス  
 或ハ之ヲ以テ普通裁判所ニ屬ス可シトスル者アリシフール氏著書第  
 二版第五卷第六百  
四十五項カワシツト氏著書第  
 三版第五卷第四十八項ヲ看ヨ又或ハ之ヲ以テ參事院ニ屬ス可シトス  
ル者アリドコロムナ氏著書第五版第二卷第三百六葉ト  
 ロレール氏著書第五卷第二千六百二十三項ヲ看ヨ  
 其參事院ニ屬ス可シトスルノ說ハ、ルハセーシユプレシイ件ニ係ル千  
 八百十六年五月二十七日ノ參議院ノ命令ト、シヤンボー件ニ係ル千八  
 百二十一年十月二十四日ノ同院判決及ヒ、セール件ニ係ル千八百三十  
 九年五月三日ノ同院判決ニ依據スル者ナリ但シ該命令ハ法律全書ニ登  
 録セラレタルニ因テ一般ノ定則トナル可キ性格ヲ有スル者ナリ余ハ  
 該判決權ヲ以テ宰相ニ屬セスシテ參事院ニ與フ可シト思惟ス蓋シ各

州ニ關スル供給請負契約ナル者ト政府ト取結ヒタル供給請負契約ト  
 ハ互ニ相同シカラス其政府ト取結ヒタル者ハ宰相ノ判決權ニ屬スレ  
 而各州ニ關スル者ニ至リテハ之ヲ以テ參事院ノ所轄ニ屬ス可シ然レ  
 而之ヲ參議院ニ控訴スルニ當リテハ彼此ノ間ニ區別スル所アラサ全  
 ク之ヲ同一視セリ千八百三十六年十二月四日ノ王勅千八百四十一年  
 一月一日シロ邑ニ關スル供給請負契約ハ前ノ二者ト異ナレリ故ニ因テ生  
 一事件判決  
 スル争訟判決ノ權ヲ以テ普通裁判所ニ屬ス木書第八百  
 五項ヲ看ヨ余竊ニ案スル  
 ニ邑ニ關スル者ト州ニ關スル者トノ間ニ於テ其所轄ノ官衙ヲ異ニス  
 ルハ果シテ何ノ理由アリテ然ルヲ知ラス宜ク邑ニ關スル供給請負契  
 約ヨリ生スル訴訟モ亦タ參事院ノ所轄ニ屬シ以テ此ノ如キ無用ノ區  
 別ヲ廢スヘシ何トナレハ供給請負契約ニ關スル者ヲ以テ行政官ノ判  
 決權ニ屬スルハ工事請負契約ニ關スル者ヲ以テ之ニ屬スルヨリモ更



六十二百三千第

ニ充分ノ道理アル可ケレハナリ但シ邑ニ關スル工事ノ請負契約ハ參事院ノ所轄ニ屬スルヲハ余已ニ之ヲ論セリ本書第六百七十項以下ヲ指シ宰相責任ノ制度ヲ定ムルニ因リ隨テ宰相ノ代理者ト取結ヒタル請負契約ハ常ニ該宰相ノ認可ヲ受ク可シトスルノ規則ヲ生シタリ千七百三十九年三月四日ノ法律第三條千八百三十一日ノ王勅第五十四日ノ王勅第六條千八百三十二年四月八日ノ法律第三十八年五月三十一日ノ王勅第五十五日ノ王勅第六條千八百六十二年五月三十一日ノ詔

七十二百三千第

當該宰相局ノ用務ノ爲メニ取結ヒタル供給請負契約ヨリ生スル爭訟ヲ判決スルノ權ヲ行フ者ハ之ヲ宰相ノミニ限リ各課長若クハ其他ノ官吏ノ之ヲ行フヲ許サストスルモ亦前項ニ定メタル主義ニ基ケル者ナリ凡ソ宰相ニ附屬スル官吏ノ下セル判決書ハ假リノ判決書ト看做セリ故ニ宰相ニ於テ之ヲ認可セシメテ取消ス可キヲ得可シ該附屬官吏ノ判決書ニ不服ナルヲ以テ之ヲ宰相ニ控訴スルノ期限ヲ確定セシメ

八十二百三千第

有ラス是ニ因リ其送達ノ日ヨリ三ヶ月ノ期限ヲ經過スルト雖モ該判決書ヲ以テ控訴ス可カラサル力ヲ有スルヲ宰相判決書ノ如クナリトス可カラス又各課長其他附屬官吏ノ判決書ハ參議院ニ控訴ス可カラス千八百五十一年一月三十日マルグリ一件千八百二十八年四月二十五年七月二十五日千八百三十二年五月二十五日コラニ一件千八百三十四年七月二十五日千八百四十二年六月三十日ルソ一件千八百四十七年三月三十一日右ノ見解ハ陸軍宰相局ノ爲メニスル供給請負契約ヨリ生スル爭訟ニ係ル陸軍會計監督ノ判決書ニ適施ス可シ故ニ該判決書ハ陸軍卿ノ認可ヲ得ルノ後ニ非サレハ行政訴訟判決書ノ性質ヲ具有スル者トス可カラスドコルニナ氏著書第三卷第三百五項ヲ指シ然レモ宣告ヲ得タル日ヨリ三ヶ月内ニ於テ該會計監督ノ判決書ヲ陸軍宰相ニ控訴ス可キ場合アリ即チ軍隊附屬會計會議ノ責任及ヒ該會計會議ノ各員ニ其負債トナレル金額ノ



賦課ニ關シ會計監督ヨリ判決ヲ下シタル者は是レナリ此場合ニ於テ賦課セラレタル各員ハ會計監督ノ判決書送達ノ日ヨリ三ヶ月内ニ於テ之ヲ陸軍宰相若クハ會計總監督ニ控訴スルヲ得然レニ控訴スルニ因テ原判決ノ執行ヲ停止ス可カラス千八百四十四年五月十日ノ王勅第五十三條

千八百二十三年十二月二十一日ニ於テ陸軍宰相ノ發布セル條例ハ會計監督ニ於テ陸軍若クハ水運輜重ノ用務ニ充ツル所ノ急須供給品ニ關スル訴求ニ對シ確定判決ヲ下ス可キ場合ノ一例ヲ示セリ即チ其第百七十二條ニ曰ク供給ノ職ニ當リテ其務メヲ怠リタル者ハ急須請負契約書ニ定メタル價額若クハ地方廳ニテ定メタル價額ニ準シ爲メニ費用スル供給品ノ金額ヲ辨償ス可シ然レニ其地方官ノ定メタル價額ニ就テ不服ナル者ハ旅團附屬ノ會計監督ニ控訴シテ其確定判決ヲ求ムルノ權ヲ有スジュラザル氏著海陸軍宰相ニ關スル文官但シ該條例ヲ看ヨ

例ニ定ムル所ノ者ハ全ク特例ニ係リ急須請負契約書ニ因テ取結ヒタル事項ヲ執行セサル場合ニ限リテ適施ス可キノニ何トナレハ同條例ノ後條ニ於テ其他ノ諸爭訟ヲ以テ悉ク普通ノ規則ニ從ハシメタレハナリ故ニ其第七十四條ニ曰ク凡ソ輜重官吏ハ其職務執行ニ就テ生スル所ノ爭訟ニ關シ公ケノ工事請負人ト同一ノ處分ヲ受ケ行政上ノ手續ヲ以テ裁判セラル可シト且ツ該官吏ハ其職務上ノ事項ニ關シ軍事規則ニ因テ處分セラル可シト又其第七十五條ニ曰ク相互ノ私約ニ關シ輜重官吏等ノ間ニ生スル爭訟ハ普通裁判所ノ所管ニ屬スト前

引キタルジュラザル氏著是等ノ條規明文アルニ拘ハラスジュフール氏并ニドコルムナン氏ハ陸軍會計監督ニ判決ノ權アル可カラスト

シ證據ヲ擧ケテ之ヲ論セシカ願ル其道理アリトスジュフール氏著書第二版第二卷第六百四十九項ヲ



余ハ共和曆第九年暖月十九日ノ布令ヲ解釋スルニ當リテモ亦右二氏ノ説ノ如クナル可シト思惟ス該布令書ニ曰ク政府ノ爲メヨスル供給品ノ辨償ニ就キ行政上ノ手續ニ從テ判決ス可キ者ニ關シ官立ノ局署ト人民トノ間ニ生スル争訟ハ參事院ニ於テ判決セシメテ熟考シテ左ノ條款ヲ定ム第一條政府ノ爲メヨスル供給品ノ辨償ニ關シ政府官吏ト人民トノ間ニ生スル争訟ハ州長ノ所管ニ屬ス可シトドコルムナン氏ハ其著書第二卷第三百三葉ニ於テ右ノ布令ヲ引用シテ左ノ一言ヲ附セリ共和曆第九年暖月十九日ノ布令ハ現今廢止ニ屬スル舊官衙ノ制度ヲ行フノ時ニ非サル外適施スルヲ得可カラストシユフール氏モ亦其著書第二版第五卷第六百四十九項ニ於テドコルムナン氏ノ解説ヲ採用シタレトモ余ハ却テ其正確ナラサルヲ覺ユ蓋シ該布令ハ右ノ舊官衙ニ關係スル請負契約ニ就テ定メタル者ナルカ故ニ其理由書中ニ

云フ所ノ者ニ於テハ固ヨリ該舊官衙ニ關係スル所ナキニ非スト雖モ該布令ノ本文ニ云フ所ノ者ハ一般ニ布及シ余カ前項ニ開陳スル所ノ例則ト全ク相適合スル者ナリ夫レ該條例ハ緊急ノ場合ニ係ルノ故ヲ以テ供給請負契約ニ關スル訴訟ノ判決權ヲ參事院ニ奪フテ之ヲ州長ニ與ヘタリ而シテ該州長ノ職任ハ其宰相ニ隸屬スル官吏トシテ行フ所ノ權力ノ性質ニ依準シテ其解釋ヲ下サ、ル可カラズ前ニ徵引セル布令ノ理由書中ニ於テ是等ノ争訟ハ行政上ノ手續ニ從テ判決ス可シト云ヒシ所以ノ者モ亦此義ニ外ナラサルナリ所謂ル行政上ノ手續ニ從テ判決ス可シトハ先ツ州長ニ於テ判決ヲ行ヒ之ニ不服ナレハ宰相ニ控訴シ又之ニ不服ナレハ更ニ參議院ニ訴出スルノ謂ナリ是ニ因テ之ヲ觀レハ此場合ニ際シ州長ハ殆ト陸軍會計監督ト同一ノ職務ヲ行フ所ト云フヨリモ寧ロ會計監督カ陸軍宰相局ノ請負契約ニ關シテ行フ所



ノ職務ハ州長カ京都ニ隔離スル地方ニ於テ諸宰相ノ取結ヒタル供給  
請負契約ニ關シ行フ所ノ職務ヲ行ヘリト云フヲ可トス而シテ州長ハ  
請負契約ヨリ生スル争訟ニ關シ假リノ判決ヲ下スノ權ヲ委任セラレ  
ルヲ得ルヲ猶ホ陸軍會計監督ニ於ケルカコトシ但シ當該宰相ニ對シ  
該判決ノ控訴ヲ行フ可キハ此限ニ在ラス

シヨ一ボ一氏ハ州長ノ權ハ唯宰相ニ於テ判決ヲ行フカ爲メニ豫審  
ノ事務ヲ行フニ止マレリトセリ氏著行政裁判論第三卷第八百三十  
十六葉第千四百六十四項ヲ參看ス可

第十三百三千第

宰相ニ附屬スル吏員ニ判決ノ權ヲ有セシメサル例則チ以テ勳賞局長  
ニ適施スルヲ得可キヤ蓋シ此問題ハ千八百二十年七月六日ノ法律ニ  
因リ年給ノ下賦ヲ求ムル有勳者ノ出訴ニ對シ該勳賞局長ニ於テ判決  
ヲ下セル場合ニ於テ起レル者ナリ夫レ該局長ハ千八百五十二年三月

十六日ノ詔書第五十二條ニ因リ皇帝ニ直隸シテ事ヲ取ルヲ許サレタ  
リ故ニ其官位極メテ高シト雖モ憲法上ニ於テ責任ヲ有スル者トセラ  
レサルニ因リ之ニ附スルニ判決ノ權ヲ以テス可カラス昔時毎歲議院  
ニ呈出スル勳賞局ノ豫算表ニハ司法宰相ノ名ヲ署シ司法宰相局ノ豫  
算表ニ附添スル者トセシハ是カ爲メナリ現今ニ至リテハ凡ソ勳賞局  
ニ關スル詔書ハ相國ノ副書ヲ要シ之ヲ執行セントスルニ及ンテハ更  
ニ勳賞局長ノ檢署ヲ要ストセリ千八百五十二年三月六日ノ詔書第五  
十一條同年同月十七日ノ詔書ヲ參看ヨ  
是故ニ參議院ハ勳賞局長ノ判決ヲ控訴スル者ヲ受理スルノ前ニ先ツ  
宰相ニ於テ該判決ヲ認可センヲ求ムルヲ例トス千八百四十一年五  
月二十五日コスト  
件同年十一月三十日ブノ一件千八百四十二年一月二十一日ス  
ラン件千八百四十八年九月十五日ガレ一件千八百六十三年十二月二  
十四日マリユドリシ  
ヤル件判決等ヲ看ヨ  
各宰相局ノ大輔ヨリ下セル判決書ハ行政上ノ手續ニ因テ參議院ニ控



一十三百三千第

訴ス可カラス何トナレハ憲法上ニ於テ責任ヲ有スル者ハ獨リ宰相ニ止マリ大輔ハ其最高等ノ屬吏タルニ過キスト定ムルアレハナリ千八百四十二年七月十五日ロカルーセル橋受許與者件判決ヲ看ヨ

宰相ヨリ發出スル行政訴訟ノ判決書ヲ解釋スルノ權ハ該判決書ヲ下シタル宰相若クハ其職ヲ繼ケル宰相ニ屬ス是レ司法裁判所ヨリ宰相ノ下セル判決書ヲ行政官ニ回致シテ其解釋ヲ求メタル場合ニ於テ、シヨリエンス件ニ係ル千八百五十八年十二月二十三日ノ參議院判決書ニ因テ定ムル所ノ者ナリ

解釋ヲ下セル判決書ヲ以テ舊判決書ノ意主ニ戻リ且ツ舊判決書ニ因テ得タル權利ヲ侵害シタリトスル場合ニ於テハ行政訴訟ノ手續ニ因テ解釋ヲ下セル新判決書ヲ參議院ニ控訴スルヲ得該控訴ハ千七百九十年十月七日議決十四日公布ノ法律ニ因リ弄權ニ係ル訴トシテ受

三十三百三千第 二十三百三千第

理セラル可シ前ニ引用セルジユリエンヌ件判決ヲ看ヨ

舊判決書ニ解釋ヲ下セル判決書ハ行政訴訟ノ手續ニ因テ控訴セラル可キ性質ヲ有スル者ナリ何トナレハ該判決ハ常ニ既往ノ事ニ及ホス

ニ因リ元ト行政訴訟ヲ起サテ許サ、ル事項ニ關スル場合ト雖モ爲メニ權利ヲ侵害スルノ有ル可ケレハナリ千八百五十八年十二月二十九日ユーラン件

皇室ノ費用ニ關スル訴訟判決ノ權ハ千八百六年六月十一日ノ詔書第十四條第二項ニ就キ又該件ニ係ル訴訟豫審ノ程式ハ千八百七年七月十二日ノ詔書ニ就テ參照ス可シ

國王シヤール第十及ヒルサ、ヒリツプ、ノ内帑ニ關スル爭訟ヲ判決スルノ權ハ普通裁判所ニ屬スルヤ將タ行政官ニ屬スルヤ普通裁判所ノ判決權ニ屬セリトスルノ說ハ千八百三十五年三月二十八日巴里府件ニ係ル參議院判決書及ヒ千八百五十五年一月八日破毀法院裁決ニ就テ



見ル可シ又行政官ニ判決權アリトスルノ説ハ千八百三十四年八月二十九日サローム件及ヒ千八百三十五年七月十五日ロッシニール件ニ係ル權限抵觸訴訟裁判所ノ判決書ヲ參照ス可シ但シ余ハ寧ロ參議院ノ判決書ヲ以テ法律ニ適セリト思惟スルナリ

第三章 豫審ノ程式行政訴訟ニ係ル宰相判決書ノ控訴手續及ヒ其執行手續

(提要)第千三百三十四 宰相ノ審理ス可キ訴訟豫審ノ程式ナシ

第千三百三十五 宰相ノ審理ス可キ行政訴訟ノ豫審ハ普通行政事務ノ豫審ト異ナラス

第千三百三十六 宰相判決書ノ必須執行ノ力

第千三百三十七 如何シテ宰相ノ判決書ヲ執行セシムルヤ

第千三百三十八 司法官吏ハ宰相ノ所轄ニ屬スル訴訟務ニ與

カラス

第千三百三十九 督促狀ニ關スル法律上ノ通則

第千三百四十 宰相ノ判決書ハ必須執行ノ力ヲ有シ且ツ書入

質ノ權ト要償拘留ヲ命スルノ權トヲ并有ス

第千三百四十一 財務行政官衙ヨリ發出スル督促狀ハ宰相判

決書ト同視ス可キヤ

第千三百四十二 宰相判決書ノ控訴手續○故障申述

第千三百四十三 參議院ノ公判ニ對スル駁議其答議○故障申

述ヲ爲ス時ハ控訴スルヲ得ス

第千三百四十四 是ニ因リ宰相ノ始審判決ノ權ヲ行フヲ證ス

可シ

第千三百四十五 宰相ノ判決ニ對スル普通ノ故障申述ハ外人



ノ故障申述ニ異ナラス

第一千三百四十六 控訴即チ參議院ニ直訴スル事

第一千三百四十七 千八百六年七月二十六日ノ詔書ニ因リ規定

シタル該控訴ノ程式及ヒ期限

第一千三百四十八 訴訟ノ金額ノ多寡ニ關セス凡ソ宰相ノ判決

ヲ以テ越權トナシ及ヒ不當トスルノ控訴ハ皆ナ受理セラレ

可シ

第一千三百四十九 行政上ノ訴訟ニ係ル宰相判決ニ限リテ控訴

スルヲ得

第一千三百五十 何故ニ普通行政務ニ關スル事項ノ爲メニ控訴

スルヲ許サ、ルヤ

第一千三百五十一 敬慎ノ訴〇敬慎ノ訴ヲ起スヲ許サス〇其理

由

第一千三百五十二 行政訴訟ニ係ル宰相判決書ニ關シ參議院ノ

權力

第一千三百五十三 宰相ノ判決ヲ受ケサル可シト定ムル請負契

約書ノ條款ハ無効ニ屬ス

第一千三百五十四 宰相ニ對シ出訴スルノ規則ヲ缺クニ就キビ

ビアン氏ノ駁議

第一千三百四十四

本章ニ論スル所ノ者ヲ了解セント欲セハ先ツ宰相ノ本務トスル所ノ者ヲ領認スルヲ要ス夫レ宰相ハ眞ノ裁判官ニ非スシテ時トシテハ人民ノ私權ヲ侵害スル決定書ヲ下ス有ル可キ行政官ナリ而シテ該決定書ハ司法上ノ控訴手續ニ擬シテ參議院ニ控訴スルヲ許セルカ故ニ人々皆テ該決定書ヲ以テ普通裁判所ノ裁判宣告書ト同視スルヲ駁致セ



リ然レモ之ヲ控訴シ得ルノ故ヲ以テ其豫審ノ程式モ亦訴訟法ニ依準  
 ス可シトス可カラズ蓋シ法律上ニ於テ宰相ノ判決書ヲ參議院ニ控訴  
 スルノ制ヲ定メタル所以ノ者ハ特ニ人民ノ私權ヲ保護セシメカ爲メノ  
 ミ若シ訴訟法ニ定メタル司法上ノ豫審手續ヲ移シテ宰相ノ審理ス可  
 キ訴件ノ豫審ニ適施セントスル時ハ遂ニ行政官ヲシテ事ヲ取ル能ハ  
 サルニ至ラシム可シ故ニ宰相ハ常ニ事ニ臨テ隨意ニ施爲スルノ自由  
 權ヲ有シ惟其責任ノ制ト其決定書ヲ參議院ニ控訴スルヲ許セル法律  
 トニ從フ可シ

五千三百三十五

現今實際上ニ行ハル、所ノ事情ハ概テ前項ニ述フル所ノ如シ何レノ  
 法律モ未ダ嘗テ宰相ニ於テ審理ス可キ行政訴件ノ豫審規則ヲ特定セ  
 ス之レ一ノ缺點ニシテ他日必ス之ヲ補足セサル可カラズ其詳ナルハ  
 請フ之ヲ本章ノ末項ニ論セン凡ソ宰相ノ審理ス可キ行政訴訟ノ豫審

第六千三百三十六

ハ普通行政務ノ豫審ト異ナラス故ニ之ヲ參議院ニ控訴スルヲ許サス  
 又該豫審ハ普通ノ文書ニ就テ之ヲ行ヒ參議院附屬代人ノ之ニ關涉  
 スルヲ必要トセス宰相ハ或ハ其職務ニ因リ或ハ訴者ノ請求ニ因リ或  
 ハ州長ノ如キ行政官吏ノ請ニ因リ或ハ屬吏ノ申報ニ因リテ其判決ヲ  
 下セリ之ヲ約說スレハ宰相ノ審理ス可キ行政訴件ノ豫審并ニ判決ニ  
 關シ必ス踐守ス可キノ定則ナキナリ  
 然レモ宰相ノ判決書ハ普通裁判所ヨリ下セル裁判宣告書ト同一ノ効  
 カヲ有ス何トナレハ行政官ニ於テ法律ノ施行ニ從事スルハ普通裁判  
 官ト曾テ異ナル所ノ者アラサレハナリ夫レ行政官及ヒ司法官ハ各其  
 權限内ニ於テ其命令スル所ノ者ヲ執行セシムルノ權ヲ有セリ而シテ  
 兩者互ニ獨立不羈ナルカ故ニ其自カラ命令スル所ノ者ハ宜ク他ノ力  
 ヲ借ラスシテ必行スルノ力ヲ有セサルヘカラス若シ夫レ然ラスシテ



行政官ノ下セル決定書ニ必行ノ力ヲ得セシメシカ爲メニ司法官ノ助  
 力ヲ求メサル可カラストスル時ハ則チ司法官ヲシテ行政官ヲ凌駕セ  
 シムルニ至ル可シ是故ニ司法行政兩權區別ノ大則ニ從ヒ行政權長ハ  
 其附屬行政官吏ヲシテ直ニ行政上ノ法律ヲ適施セシメ普通裁判所ハ  
 自カラ其權限内ニ屬スル法律ヲ適施ス可シ此ノ如クナラサレハ裁判  
 所ニ全權ヲ附シ行政官ハ有レテ無キカ如クニ至ルヤ必セリ是ヲ以テ  
 凡ソ法律ノ末文ニハ裁判所并ニ州長其他ノ行政官ヲシテ之ヲ保守遵  
 踐セシム可シトスルノ命令ヲ掲録セリ

我國ノ法律ハ以上開陳スル所ノ主義ト全ク相適合セリ故ニ共和曆第  
 八年釀月十二日及ヒ同年霜月十三日ノ法律ト同年風月十八日ノ布令  
 トヲ參看スレハ大藏宰相ハ政府ニ對シテ負債アル主計吏請負人供給  
 者等ニ向テ判決書ヲ下シ假リニ之ヲ執行スルノ權アルヲ知ル本書第  
三百十

七十三百三千第

八十三百三千第

四項以下又當該ノ事務ニ關シテ下セル判決書ヲ執行セシメント欲ス  
 ル各宰相ハ之ヲ共同僚タル大藏宰相ニ送致スルニ當リ大藏宰相ハ乃  
 チ其執行督促狀ヲ行下スルヲ例トス共和曆第八年風月十二日ノ法律  
第四條及ヒ同年風月十八日ノ布  
 令且ツ大藏宰相ノ決定書ヲ執行セシカ爲メニスルノ訴訟ハ國庫ニ屬ス  
 ル訟務官ノ請求ニ因テ之ヲ行フ共和曆第十一年花月二  
十八日ノ布令第二條該訟務官ハ凡  
 ソ政府ニ對スル負債者ニ向テ其負債金額ヲ辨償セシメントカ爲メニ右  
 ノ請求ノ權ヲ行フヲ得共和曆第十年風月九日ノ參議院意見書及ヒ千  
八百四十四年九月三日シヤプリエー件ニ係ル  
參議院判  
決ヲ看ヨ蓋シ此場合ニ於テハ訴訟法第百四十六條及ヒ第五百四十五  
 條ヲ適施ス可カラス此兩條ハ行政官ヨリ下セル判決文書ノ爲メニ定  
 メタル者ニ非サルナリ千八百二十六年二月五日參議院內務部及ヒ聽  
訟部ノ意見書并ニ本書第二百七十八條ヲ看ヨ  
 大藏宰相ノ所轄ニ屬スル行政事件ニ關スル者ハ該宰相一人ニテ之ヲ  
 處分シ國庫ニ屬スル訟務官ノ關涉ヲ須ダス該訟務官ハ千七百九十一



年八月二十七日議決三十一日公布ノ法律ニ因リテ創設スル者ニシテ唯、  
普通裁判所ニ出テ國庫ノ代理者タルノ職ヲ有スルノミ故ニ大概其所  
轄ニ屬スル行政事件ニ係ル始審判決ヲ行ヒ及ヒ參議院ニ出テ國庫ノ  
代理者タルノ權ハ特ニ大藏宰相一人ニ屬スシユムニール氏著大藏宰相  
ノ所轄ニ屬スル行政

訴訟法律論第三十五  
條第四十三項ヲ看ヨ

九十三百三千第

政府ハ其負債者ニ向テ判決執行ノ權ト書入質ノ權トヲ得ルカ爲メニ  
普通裁判所ニ請求スルヲ要セサルハ國法ノ原則トナス故ニ政府ニ於  
テ特ニ行政官吏ヲ置キ之ヲシテ別ニ費用ヲ要セスシテ裁判宣告書ト  
同一ノ効力ヲ生ス可キ督促狀ナル者ヲ發布セシム凡ソ此特例ヲ政府  
ニ與ヘタル所以ノ者ハ無資ナル負債者ノ爲メニスル無用ノ費ヲ省キ  
テ以テ公益ヲ計リタルナリ而シテ該法ヲ立ツルノ日已ニ久シ故ニ千  
五百六十六年六月二日ノ王勅第十一條ニ曰ク政府ニ屬スル權利ニ關

スル者ハ何レノ場合ニ於テモ其負債者ノ財産差押ヘニ從事ス可シト  
又千七百九十一年八月十九日議決九月十二日公布ノ法律第四條ニ因  
リ官有地ノ收入及ヒ政府ニ屬スル權利ノ爲メニ督促狀ヲ下スヲ以テ  
公領指揮官ニ與ヘタリ但シ爲メニ該督促狀ニ檢署セシテ民事裁判  
所長ニ求ム可シトセリ記録稅局ノ官吏ハ其徵集ス可キ租稅及ヒ罰金  
ニ關シ治安裁判官ノ檢署ヲ得テ執行ス可キ者ト爲シタル督促狀ヲ發  
スルヲ得共和憲第七年十一月二十  
二日ノ法律第六十四條海關稅局ノ官吏モ亦治安裁判官ノ檢  
署シタル督促狀ヲ發スルヲ得千七百九十一年八月六日議決二十  
二日ノ法律第三十一條及ヒ第  
三十三條間稅收納ヲ怠リタル者ニ向テモ亦同シ共和憲第十三  
年十一月一日第  
四十四條郡收稅官吏モ均シク直稅ノ徵集ニ關シ督促狀ヲ發スルノ力アリ  
ト雖モ該督促狀ニハ郡長ノ檢署ヲ要シ却テ民事裁判官若クハ治安裁  
判官ノ檢署ヲ要セス但シ是等督促狀ハ皆ナ未ダ真正ノ督促狀トス可カ



ラ余カ若行政法問題爾後大藏宰相ニ與フルニ政府ニ負債アル主計吏請負人供給者等ニ向テ督促狀ヲ下スノ權ヲ以テシ政府ノ權利ヲ全成セリ是ニ因リ之ヲ推セハ現今ニ至リテハ凡ソ政府ニ對スル負債者ニシテ其附屬官吏ヨリ發出スル督促狀ヲ回避スルヲ得ル者ハアラサ

第十四百三千第

ルナリ  
共和曆第七年露月十一日ノ法律及ヒ民法頒布以前ハ書入質權ヲ以テ總テノ公正文書中ニ就キ凡ソ行政官ヨリ發出スル文書ヨリ生スル者トセシカ故ニ所謂ル督促狀ノ効力及ヒ其書入質ノ權ヲ并有スルヤ否ヤノ問題ヲ定ムルヲ亦誰キニ非ス一千七百九十年十月二十八日議決十條ヲ然レト右ノ共和曆第七年露月ノ法律及ヒ民法ヲ頒布スルニ因リテ舊法ヲ變更シ以後ハ右ノ問題ニ就キ頗ル難議ヲ起シ爲メニ參議院ノ判決ヲ仰クニ至レリ該院ノ判決ニ從ヘハ執行ス可キ力アル者トス

第十四百三千第

ル宰相判決書ハ普通裁判所ノ裁判宣告書ト同一ノ効力ヲ生シ且ツ同一ノ執行力ヲ得可シ隨テ普通裁判所ヨリ命スル者ト同一ノ方法及ヒ同一ノ約款ニ從ヒ書入質ノ權ヲ并有ス可シ共和曆第十一年十月十六日千八百一十二年三月二日參議院意見書ニ云ヘルアリ曰ク法律ニ因リ判決ヲ下シ若クハ督促狀ヲ發スルノ權ヲ得タル行政官ハ眞ノ裁判官ナリ故ニ其判決書ニ此効力ヲ與フ可キナリト及ヒ千八百九十七年五月參加之ナラス要償ノ拘留ヲ行フテ宰相ノ判決書ヲ執行セザムルヲ得共和曆第十年風月九日ノ參議院意見書及ヒ千八百四十年然レト行政官四年九月三日シヤブリエー件ニ係ル同院判決ヲ看ヨ  
一タヒ下セル判決書ヲ自カラ變更スルヲ得ス千八百六十三年十二月十四條ヲ看ヨ  
本書第千二百六  
十四條ヲ看ヨ  
余ハ諸會計官吏ヨリ發スル督促狀ニ關シ亦前項ニ掲クル所ノ見解ヲ



下サ、ル可カラスト思惟ス然レモ破毀法院ハ千八百二十八年一月二十八日ノ裁決書ニ因リ記録税局ノ官吏ヨリ發スル督促狀ハ書入質ノ權ヲ并有ス可カラスト爲シテ其理由ヲ述テ曰ク共和曆第十二年暖月十六日ノ參議院意見書ハ行政官ニ於テ裁判官ノ分限ヲ以テ發スル督促狀ニシテ普通裁判所ノ所管ニ屬スル事項ト全ク關係ナキ者ニアラサル外之ヲ適施ス可カラスト抑該裁決ハ此參議院意見書及ヒ千八百十一年十月二十九日ノ同院意見書ノ明文ト精神トニ反背セリ千八百十一年ノ該意見書ハ共和曆第十二年ノ意見書ニ基キテ司法上ノ書入質權ハ特ニ海港税局ヨリ發スル督促狀ヨリ生ス可シトスル者ナリ蓋シ破毀法院ハ普通裁判所ニ對シテ故障申述ヲ爲ス可キ督促狀ト行政官ニ對シテ故障申述ヲ爲ス可キ督促狀トノ間ニ區別ヲ立テント欲セシナリ余ハ之ニ答テ云ハントス此ノ如キノ區別ハ千八百十一年十月

二十九日ノ參議院意見書アリテヨリ以來ハ敢テ之ヲ立ツルヲ得ス何トナレハ該意見書ニ於テ海口税ニ關スル督促狀ニ對スル故障申述ヲ以テ司法官ニ致ス可シト定メタレハナリト是故ニリオン府控訴院ハ千八百二十九年八月七日ノ判決書ニ因リ此ノ如キノ區別ヲ立ツルニ非拒セリ加之ナラス此區別ヲ立ツルハ大ニ道理ニ戾レル者ナリ請フ其故ヲ辯セン蓋シ行政官ニ對シテ故障申述ヲ爲ス可キ督促狀ハ司法官ニ對シテ故障申述ヲ爲ス可キ督促狀ニシテ該司法官ノ之ニ檢署シタル者ノ如ク確的ナリトスルヲ得ス蓋シ民事裁判所所長若クハ治安裁判官ニ於テ督促狀ニ檢署シテ其執行ノ力アルヲ宣告シタル時ハ之ヲ以テ闕席裁判宣告書及ヒ司法上ノ諸文書ニ同視ス可キナリ夫レ民法第二千百十七條及ヒ第二千百二十三條ニ於テ裁判宣告書及ヒ司法上ノ文書ニ司法上書入質ノ權ヲ附シタリ是ニ因テ之ヲ推セハ公領



ニ屬スル權利、記録税、海口税及ヒ間税ニ關スル督促狀ハ所謂ル司法官ノ檢署ヲ經ル者ナルカ故ニ之ヲ以テ司法上書入質ノ權ヲ并有スル者ト看做ス可キヲ殆ト疑テ容レズ獨リ疑フ可キハ大藏宰相ヨリ發スル督促狀ニアルノミ所謂ル共和曆第十二年暖月十六日ノ意見書ヲ發出シ次テ千八百十一年十月二十九日ノ意見書ニ因リ前ノ共和曆第十二年ノ意見書ヲ以テ廣ク解シテ一般ノ場合ニ適施シ得可キヲ保證セシハ專ラ此疑團ヲ氷解セシムルニ在リ且ツ司法官ノ檢署シタル督促狀ニ關シテハ別ニ法律アルヲ要セス唯、民法ノ成文アルヲ以テ已ニ足レリトスルナリ

且ツ夫レ破毀法院ノ裁決書ニ掲クル如キノ區別ヲ立ツル時ハ審ニ同一ノ効力ヲ生ス可キ文書ヲ混雜ス可キノミナラス尙ホ且ツ法律ノ一致ヲ破リ及ヒ會計官ヲシテ其當然ノ權ヲ失ハシムルニ至ル可シ果シテ破毀法院ノ說ノ如クナル時ハ何故ニ大藏宰相ヨリ發スル督促狀ニハ書入質ノ權アリトシ之ニ隸屬スル會計官ヨリ發スル督促狀ニハ却テ其權ナシトスルヤ此區別アル所以ノ者ハ大藏宰相ヨリ發出スル督促狀ニ對スル故障申述ハ行政官ニ致シ會計官ヨリ發スル督促狀ニ對スル故障申述ハ司法官ニ致スニ因レリトセンカ若シ然ラハ却テ會計官ヨリ發出スル督促狀ヲ以テ書入質ノ權アリトシ大藏宰相ヨリ發スル督促狀ヲ以テ此權ナシト謂ハサル可カラス立法者ノ意豈夫レ此ノ如クナランヤ何トナレハ法律上督促狀ヲ發スルノ權ヲ政府ニ與ヘタル所以ノ者ハ之ヲシテ無費ニテ假リニ執行ス可キ判決ヲ行ハシメントスルニ在レハナリ且ツ此ニ注意ス可キノ要件アリ所謂ル書入質ナル者ハ負債者ノ財産滅亡ニ至ルヲ豫防スルノ一方法タルニ過キス若シ政府ニ對シ負債アリトセラル、者ニシテ果シテ其負債タルノ實ナキ



時ハ何時ニテモ其書入質トナリタル者ヲ取消サシムルヲ得又其書入質トナリタル財産ヲ以テ其負債ノ額ヨリ非常ニ過度ナリトスル時ハ常ニ之ヲ滅スルヲ得ル者ナリ而シテ此書入質權ナル者ハ政府ノ得可キ權利ヲ鞏固ニスルニ尤モ必要ナル者トス故ニ若シ會計官ノ發スル督促狀ヲ以テ司法上書入質權ヲ得可カラサル者トスル時ハ遂ニ特別法律ノ目的ヲ達スル能ハス政府ヲシテ其書入質權ヲ得ンカ爲メニ普通裁判所ニ出訴シ非常ノ裁判費用ヲ要セシムルニ至ル可キナリ

普通裁判所ハ大藏宰相ニ於テ政府ニ對シ負債アルニ因リテ之ヲ辨償ス可シト命スル者ニ下セル督促狀ノ適否ヲ勘査スルノ權ナシ千八百四十五年六月五日ハンサン件千八百四十七年一月二十一日アムラン件判決

行政訴件ニ係ル宰相判決書ニ不服ナル者ハ普通ノ故障申述若クハ外人ノ故障申述及ヒ控訴ヲ爲スヲ得所謂ル故障申述ナル者ハ何レノ

訴者ヲ論セズ闕席判決ヲ受ケタル場合ニ於テ原判決ノ取消ヲ求ムルカ爲メニ行フヲ得可キ所ノ方法ナリ何レノ法令モ未タ嘗テ故障申述ヲ爲ス可キ訴訟手續ヲ定メシ者アラスト雖モ凡ソ宰相ノ判決書ニ向テ故障申述ヲ爲ス者ハ悉ク受理セラル可キナリ次ノ第千三百四十三項ニ掲クル反對説ヲ參看但シ法律上故障申述ヲ行フ可キ期限ヲ定メサルカ故ニ原判決執行ノ日マテハ常ニ之ヲ行フヲ得ルナリ第千二百四十七項ヲ看ヨ參議院ハ其判決ニ因リ參事院ノ闕席判決書ノ故障申述ヲ爲ス可キ期限間ハ宰相闕席判決書ニ對スル控訴ヲ受理スルヲ拒メリ千八百十七年二月六日タルバレン件千八百三十四年二月七日是故ニ宰相ヨリ下セル闕席判決ニ對シ現ニ故障申述ヲ爲シタル場合ニ於テハ該故障申述ノ判決ヲ終ルノ前ニ參議院ニ控訴スルヲ得可カラサルヲ固ヨリ論

ヲ待タス千八百三十九年八月二十一日シブラン件判決



宰相ヨリ下セル闕席判決ニ對シテ故障申述ヲ行フヲ得ルコト前項ニ論  
 スル如ク夫レ確ナリト雖モ「フランセ」シユ、ヒルトラーシユ會社件ニ  
 係ル千八百五十二年五月二十一日ノ判決書ニ於テハ却テ其故障申述  
 ナ爲ス可カラストセリ當時ノ政府目代ノ說ニ曰ク宰相ハ法律上何レ  
 ノ訴訟手續規則ニ依準スルヲ要セス故ニ其職權ニ因テ判決ヲ下スナ  
 得而シテ該判決ニ對シテ故障申述ヲ行フヲ得可カラスト此場合ニ際  
 シ參議院ハ宰相ノ判決書ニ對シテ故障申述ヲ行フヲ得ルヤ否ヤノ問題  
 ナ判定セシメ無シ而シテ同院判決書ノ理由書ニ就テ之ヲ考フレハ「ヒ  
 ルトラーシユ會社」ヨリ宰相ノ判決ヲ以テ闕席ノ判決ナリト出訴スル  
 者ヲ否認シテ該判決ヲ以テ對理ノ判決ト斷定セシメ知ル是ヨリ後參  
 議院ヨリ下セル公判ハ皆テ宰相ノ闕席判決ニ對シテ故障申述ヲ行フヲ  
 得ルトスルコト之ヲ前項ニ註記スル同院ノ諸判決書中ニ見ル所ノ如シ

宰相ノ闕席判決ニ對シテ故障申述ヲ行フヲ得ルトスル參議院判決ハ果  
 シテ眞ノ主義ニ合スルヤ將テ千八百五十二年ニ於テ政府ノ目代ノ主  
 張ヒシ反對說ヲ取リテ該公判ヲ非トス可キヤ蓋シテ故障申述ヲ行フ可  
 シトスル參議院公判ニ從フ時ハ大ニ不便ヲ生スル有ル可シ其故ハ法  
 律上該故障申述ヲ行フノ期限ヲ定ムル無キニ因リ原判決執行ノ日マ  
 テ之ヲ行フヲ得ル者トセサル可カラス果シテ然ラハ凡ソ宰相ニ於テ  
 其職權ニ因リ判決ヲ下スニ當リ之ヲ執行スルノ日ニ至ルマテハ許多  
 ノ月日ヲ經ルトモ其故障申述ヲ行フヲ得ルトセサルヲ得ス此ノ如ク  
 ナル時ハ大ニ政府ノ利益ヲ害スルニ至ルヤ必セリ何トナレハ爲メニ  
 宰相ヨリ下セル判決ヲシテ久シク確定ノ者タラシムルヲ得サラシム  
 レハナリ且ツ千八百六十六年七月二十二日ノ詔書第十一條ニ因レハ參議  
 院ニ對シテ控訴セントスル者ハ原判決ノ送達ヲ得タル日ヨリ三ヶ月



間ニ於テスルニ非サレハ受理セラル可カラサルヲ例トス然ルニ今此  
 ニ掲クル參議院公判ノ主意ニ從ヒ宰相ノ判決ヲ執行スルニ至ルマテ  
 常ニ故障申述ヲ行フヲ得ルトスル時ハ極メテ奇怪ナル判斷ヲ下サ、  
 ルヲ得サルニ至ラン即チ原判決宣告ノ日ヨリ三ヶ月後ニ至レハ參議  
 院ニ控訴スルヲ得スシテ却テ宰相ニ對シテ故障申述ヲ行フヲ得ル是  
 ナリ更ニ又敗訟者ノ身上ニ關スルノ事項ニ非サルノ故ヲ以テ直ニ宰  
 相判決書ヲ執行セリト假定セヨ此場合ニ當リテハ該敗訟者ヲ以テ宰  
 相判決書ノ旨ヲ承認シタル者トスルヲ得ス故ニ該敗訟者ハ普通法ニ  
 依準シ爾後三ヶ月間控訴スルノ權ヲ有ス可シ訴訟法第四百五十八條是ニ  
 因リ宰相ノ闕席判決執行ノ後三ヶ月間ニ之ヲ參議院ニ控訴スル時ハ  
 其受理スル所トナル可シ若シ然リトセサレハ參事院ノ闕席判決ニ對  
 シ某ノ學士カ論スル所ノ如ク宰相ノ闕席判決ニ就キ參議院ニ控訴ス

ルヲ得ス控訴シ得ル者ハ獨リ對理ノ宰相判決ニ限ルト云ハサル可カ  
ラ本書第千二百五十六項ヲ看ヨ竊ニ案スルニ宰相ノ闕席判決ヲ以テ其執行後三  
 月間ニ控訴シ得ルトスルノ說并ニ宰相ノ闕席判決ヲ以テ斷シテ參議  
 院ニ控訴ス可カラストスルノ說ハ共ニ大不便ヲ生スルナキ能ハス蓋  
 シ甲說ハ其執行セントスル事實ノ爲メニ妨害ヲ生ス可シ而シテ本說  
 ニ從フ時ハ參議院ニ控訴ス可キ三ヶ月ノ期限ヲ以テ原判決送達ノ日  
 ヨリ起算ス可シトスル千八百六年七月二十二日ノ詔書第十一條ノ明  
 文ニ違フ可シ又乙說ハ故障申述ノ期限滿盡ノ後控訴スルヲ許セル訴  
 訟法第四百四十三條ノ通則ニ背クノミナラス尙ホ且ツ參事院ノ闕席  
 判決ニ關シ余カ本書第二百五十六項ニ論述スル所ノ主意ニ背反セリ  
 故ニ其自家撞着ニ陷ルナカランヲ欲セハ宰相ノ闕席判決ニ對シ故障  
 申述ヲ行フヲ非拒シ唯之ヲ控訴スルヲ得ルノミトスルノ考案ヲ下ス



ノ外又他ニ求ム可キノ説ナキ者ノ如シ

然レ此説ニ反對スル者ハ左ニ開列セル諸理由ヲ示セリ

第一 凡ソ法律上特例ヲ明記セル場合ヲ除ク外故障申述ハ行政官  
并ニ司法官ヨリ下セル總テノ闕席判決ニ就キ行フヲ得可キ當然  
ノ手續ナリ

第二 此故ニ宰相并ニ參事院ノ闕席判決ニ就キ常ニ故障申述ヲ行  
フヲ得可シ斷シテ之ヲ甲ノ官衙ニ許シテ乙ノ官衙ニ拒ムノ理由  
アル可カラズ

以上ノ道理ニ因リテ之ヲ推セハ余ハ前項ニ掲出セル見解ヲ守テ苟モ  
變更スルヲ得サルナリ

本書第一千二百五十一項ニ論セシ如ク行政官衙ニ於テハ原告ニ對シ闕  
席判決ヲ行フノ例ナキカ故ニ凡ソ原告ニ對スル判決ハ皆テ對理判決ト

第四千四百四十四

看做サ、ル可カラス隨テ該原告ハ控訴スルノ權アルノミニシテ故障

申述ヲ行フヲ得ス千八百六十四年二月十八日ト判決ヲ發ヨ

以上論述スル所ニ因リ宰相ハ行政訴件ニ關シ始審判決ノ權ヲ行フノ  
實愈益明白ナリトス若シ宰相ヲ以テ其他人ノ權利ヲ害スルニ當リテ

ハ爲メニ參議院ニ出訴セラル可キ所ノ行政務ヲ行フニ止マル者トシ  
行政上ノ始審并ニ終審判決ノ權ハ特ニ該參議院ニ屬シテ更ニ宰相ノ  
有スルヲ得ル者ニ非ストスル時ハ凡ソ宰相判決ノ改正ヲ得ントスル  
者ヲ以テ常ニ參議院ニ出訴シ得ルト斷定セサル可カラス之ニ反シ凡  
ソ參議院ニ控訴セントスル者ハ必ス先ツ宰相ノ對理判決ヲ得ルヲ要  
ストスルヲ逐項漸ク論シ來リシ如クナリトスレハ宰相ヲ以テ始審判  
決ノ權ヲ有スル者トナシ未タ宰相ノ始審判決ヲ得サル者ハ之カ終審  
裁判官タル參議院ニ控訴スルヲ得可カラサルナリ



五千四百四十五第

參事院ニ於テハ法定ノ召喚ヲ行フヲ無クシテ判決ヲ下スヲ得ルカ故  
ニ該院ニ對スル外人ノ故障申述ハ其程式上往々普通ノ故障申述ト混  
合スルノ謂ハ余之ヲ本書第千二百七十項ニ述ヘタリ宰相ニ對スル外  
人ノ故障申述モ亦之ト同シキ者アリトス何トナレハ宰相ハ司法上ノ  
訴訟程式ノ爲メニ制限セラル、ト更ニ參事院ヨリモ少ナクシテ隨意  
ニ判決ヲ行フヲ得レハナリ

三千四百六十六第

行政訴件ニ係ル宰相判決ニ因リテ生スル損害ハ故障申述ニ因リテ回  
復スルヲ得ルヲ前數項ニ論スルカ如クナレトモ更ニ又參議院ニ控訴シ  
テ以テ之ヲ回復スルノ手段ヲ行フヲ得諸王勅ニ因リ參議院ニ對シテ  
覆審ヲ求ムル者ヲ以テ控訴ト稱セシ所以ノ者ハ因リテ生スル効驗ヲ  
以テ普通始審裁判所ノ判決ニ對スル控訴ト相同シトスルカ故ナリ  
第千二百九十  
二項ヲ看ヨ

三千四百七十七第

宰相判決書ヲ以テ參議院ニ控訴スルノ期限及ヒ程式ハ千八百六年七  
月二十二日ノ詔書第一條及ヒ第十一條ニ因リテ之ヲ定メタリ凡ソ控  
訴ハ原判決書送達ノ日ヨリ三ヶ月内ニ非サレハ受理セラル可カラス  
此控訴期限ヲ經過セシメンカ爲メニ原判決書送達ノ方法ニ關シ  
テハ宜ク政府官吏カ行政上ノ手續ヲ以ラスル送達ト人民ノ名ヲ以テ  
使吏ノ行ヘル送達トニ區別スル所アル可シ本書第千二百五十一行  
政訴件ニ關スル宰相判決書送達ノ日ヨリ以後三ヶ月ノ期限滿盡スル  
時ハ該判決書ヲ以テ常ニ控訴ス可カラサル判決ノ力ヲ有スル者ト爲

三千四百八十四第

ス千八百五十五年三月二十三日原判決ヲ以テ越權弄權若クハ不當トシテ參議院ニ控訴スル者ハ皆ナ  
受理セラル可シ凡ソ訴訟ニ關スル金額ノ多少ヲ論セス宰相ハ決シテ  
終審判決ヲ下スヲ得ス故ニ宰相ノ判決書ニシテ人民ノ權利ヲ害スル



者ハ其事件ノ大少ヲ論セス皆ナ參議院ニ控訴セラル可シ  
 宰相ノ判決シタル訴件ニ關スル金額ノ多少ニ拘ハラス總テ之ヲ參議  
 院ニ控訴スルヲ許セトモ其判決書ノ性質ニ從テ其控訴ヲ許スト許サ  
 サル者トノ別アリ故ニ尤モ緊要ノ事件ニ係ル場合ト雖モ其行政訴件  
 ニ關セスシテ純然タル行政務ニ屬スル判決書ナル時ハ之ヲ參議院ニ  
 控訴スルヲ許サス敢テ該院ヲシテ總テノ行政務ヲ改正スルノ權アラ  
 シメントスルハ大ニ其設立ノ主意ヲ誤マル者ナリ

純然タル行政務ニ關スル宰相判決書モ亦之ヲ國長ニ控訴シ得可キ者  
 ノ如シ故ニ某ノ論者云ヘルアリ曰ク夫レ皇帝ハ國憲ニ因リ行政ノ全  
 權ヲ有シ宰相ノ上ニ立テ自カラ該權ノ一部ヲ行フ者ナリ法律上已ニ  
 皇帝ニ屬スル宰相若クハ州長ニ與フルニ其發出スル文書ヲ取消スノ  
 權ヲ以テセリ然ラハ則チ之ガ上長官タル皇帝ニ於テ宰相ヨリ下セル

文書ヲ取消スノ權アルト固ヨリ論辯ヲ待タサル可シ是ニ因リ純然タ  
 ル行政務ニ關スル宰相判決書ハ之ヲ國長ニ控訴スルヲ得可キナリト  
 余ハ之ニ答テ云ハン論理上ニ於テハ以上ノ説ヲ以テ或ハ正トスルヲ  
 得ルモ實際上之ヲ適施ス可カラサルノ理アリテ存ス何トナレハ則チ  
 國長ハ各宰相ノ下セル文書ヲ以テ一々自カラ調査改正スルヲ得可カ  
 ラス且ツ國長ハ責任宰相ノ副署ナクシテ詔勅ヲ下スヲ得サルノ制ナ  
 ルカ故ニ先ニ宰相ノ下セル文書ヲ改正セントスルニ當リテモ亦他ノ  
 宰相ヲシテ其改正ヲ命スル詔書ニ副署セシメサル可カラス此ノ如ク  
 ナル時ハ甲宰相ヲシテ乙宰相ノ職務ニ關涉セシメ遂ニ各宰相局分擔  
 ノ大則チ破ルニ至ル可シ

純然タル行政務ニ係ル宰相ノ文書ニ因リ其權利ヲ害セラレサレ其  
 利益ヲ害セラレタル者ヨリシテ請願手續ヲ履ミ國長ニ上書シテ該文



書ノ取消シテ求ムルハ決シテ國憲ニ戻レル所爲ニ非ス此時皇帝ヨリ該請願書ヲ宰相ニ下シテ其再調査ヲ命シ請願スル所果シテ至當ナレハ其先キニ發スル文書ヲ取消サシムルモ亦法律ノ許セル所ナリ加之ナラス皇帝ハ國憲ニ因リ更ニ宰相ノ副署セル詔書ヲ發シ宰相ノ先キニ發スル文書ヲ取消スノ權ヲ有セリ然レモ此ノ如キ手續ハ立憲君主國ニ於テ政務ヲ施行スルノ定則ニ非ス故ニ假令ヒ法律上ニ於テ明許スル所ナラサルモ實際上ニ於テハ常ニ各宰相ニ委任スル事務ヲ確定スルノ權ヲ以テ該責任宰相ニ屬ス可シ行政訴件ニ係リ參議院ニ控訴スルノ制ヲ定メタル所以ノ者モ亦同上ノ主意ニ基ク者ナリ蓋シ人民ノ私權ニ關スル宰相判決書ハ其事極メテ重緊ナルヲ以テ皇帝ヲシテ該宰相判決書ヲ提督スルノ便ヲ得セシメンガ爲メニ參議院ナル評議官ヲ其傍ラニ置ノ法律ヲ定立シタルナリ千八百五十二年十二月十八

第一千五百一十一

日ノ詔書ニ因リ更ニ皇帝ニ請願スルノ制ヲ定メ愈純然タル行政務ニ係ル宰相文書ニ就キ訴求スルノ便利ヲ人民ニ與ヘタリ本書第三百六十四項ヲ指ス行政訴件ニ係ル宰相判決書ニ向テ敬慎ノ訴ヲ起スヲ許サス其故ハ先キニ參事院ノ判決ニ就テ論セシ如ク本書第七十三項敬慎ノ訴ハ特ニ終審ノ判決ニ就テ之ヲ許セル者ナリ訴訟法第四百八十八條然ルニ宰相ハ始審ノ判決ヲ下スヲ得ルノミ隨テ之ニ向テ敬慎ノ訴ヲ起スヲ得ス千八百三十一年十二月二十

第一千五百二十二

四〇〇サレニ件千八百三十五年五月四日ミシユレニ件判決參議院ハ宰相ノ判決ニ對シ時トシテハ之ヲ改正シテ以テ控訴裁判所ノ職ヲ行ヒ時トシテハ弄權ニ係ル宰相判決書ヲ取消シテ以テ破毀法院ノ職ヲ行フ又時トシテハ唯宰相ノ判決書ヲ取消スノミニシテ兩造ヲ該宰相ノ前ニ廻致シ之レヲシテ其定ムル所ノ主意ニ基キ更ニ判決ヲ下サンメ或ハ該院ニ於テ直ニ判決ヲ下シテ以テ宰相ノ舊判決ニ代



第三千五百三十三號

ユルコアリ

宰相ヲ以テ其當該ノ事項ニ關シ判決權アリトスル時ハ供給品請負契約等ノ如キ該宰相ニ屬スル諸契約書中ニ於テ該判決權ニ背戾スル條款ヲ登錄シ他日因テ生ス可キ爭訟ヲ以テ普通裁判所若クハ參議院ニ對シテ起ス可シト豫定スルヲ得ス參議院ハ其判決ニ因リ更ニ一步ヲ進メテ供給品請負契約書中ニ他日因テ生ス可キ爭訟ヲ以テ私判人ノ判決ニ附ス可シトスル條款ヲ掲グルモ無効ナル可シトセリ千八百二十一年八月十七日ウイブラル件千八百二十年八月十七日ボワイエー件判決其故如何トナレハ訴訟法第千三百條及ヒ第千四條ニ因リ兩造ハ唯其隨意ニ處分スルヲ得ル所ノ權利ニ關シテ私ニ私判人ニ依頼スルコトヲ約定スル所アルヲ得レハ法律上檢察官ニ通照スルコトヲ必要トスル訴訟ニ關シテハ宜ク此權アルヘカラストスレハナリ夫レ訴訟法第八十三條ニ從ヘハ政府ニ關スル訴訟

第三千五百四十四號

ハ所謂ル檢察官ニ通照スルコトヲ必要トスルノ部類ニ屬ス而シテ請負契約ヲ取り結ヘル所ノ宰相若クハ之ニ附屬スル官吏ハ僅ニ政府ニ屬スル行政者タルニ過キス故ニ自カラ私判人ニ就テ判決ヲ受クル等ノコトヲ約定スルノ權ナシ民法第千九百八十九條及ヒ本書第百三項ヲ看ヨ且ツ他日起ル可キ爭訟ニ關シ豫メ其判決ヲ爲ス可キ者ヲ約定セル條款ハ假令ヒ公ケノ秩序ニ關係セサル私利上ノ事項ニ關スル者ト雖モ亦無効タル可シ訴訟法第千六百八十二條及ヒ破毀法院裁判

ビヴァン氏ハ宰相局ニ對スル訴訟手續規則ナキヲ駁シテ曰ク夫レ宰相ハ時ニ判決ヲ下シテ之ヲ送達ス可キノ任アル者ナリ然レハ法律上未タ嘗テ之ニ關スル規則ヲ確定セスシテ宰相ノ隨意處分ニ任セリ是故ニ宰相ノ判決ヲ下スニ當リテヤ其程式甚タ區々ニシテ定マラス時トシテハ屬吏ノ申報書ヲ一閱シテ宰相直ニ之ニ署名認可シ時トシテ



ハ宰相ニ於テ僅ニ片言單語ヲ述テ人民ノ訴求スル所ノ者ヲ却下セリ而シテ其判決ノ旨ヲ訴者ニ通知スルニ及ンテ或ハ屬吏ヲシテ之ヲセシメ或ハ直ニ書ヲ送リテ訴求ヲ受理セサルノ旨ヲ通告シ普通裁判所ノ裁判宣告書ノ如ク之ヲ判決スルノ理由等ヲ明示スルヲ無シ又同一ナル程式ノ文書ニシテ或ハ判決書ノ性質ヲ有スル者アリ或ハ金額ノ拂渡シヲ拒ムニ過キサル者アリ故ニ公ケノ工事ノ企作ニ關スル争訟等ノ如キ參事院ノ所轄ニ屬ス可キ争訟ニ關シ請求スル所アル者ヲ非拒スル宰相ノ文書ハ其裁判官トシテ判決ヲ下セル文書ト程式ヲ同シクシ相區別スル所アラス之カ爲メニ人民ヲシテ兩種ノ文書ヲ混雜セシメ大ニ之カ不平等ヲ惹キ起セリ唯之ノミナラス代言人等ハ宰相判決書ニ控訴ス可カラサル効力ヲ有セサラシメント欲シテ自カラ無用ト信スル控訴ヲ行ハシムルヲ有リ又訴者ノ内ニハ宰相ヨリ回致セル

判決送達書ノ甚ダ簡略ニ過クルヲ以テ之ヲ眞ノ送達書ト思惟セスシテ空シク控訴期限ヲ經過セシメ或ハ更ニ宰相ニ送書シテ一層綿密ナル送達書ヲ請求スル者アリ此際ニ於テ期限已ニ滿盡シテ控訴ノ權ヲ失フ者極メテ多シ宰相ニ對スル出訴手續規則ナキノ弊害夫レ此ノ如ク大ナリ參議院モ亦其判決書ニ因リテ是等不規則ノ弊ヲ據憑スルニ因リ更ニ一定ノ程式ヲ立テ、宿弊ヲ改ム可シトスルノ說頻リニ起リ稍之カ改正ヲ試ミタリ是ニ因リ現今ニ及ンテハ諸宰相局中往々其判決書ヲ下スニ當リテ普通裁判所ヨリ下セル裁判宣告書ノ程式ヲ採用シ且ツ訴者ニ判決書ノ送達ヲ爲スニ當リ之ニ其控訴ス可キ期限ヲ明示スル者アレモ未タ悉ク然ル能ハサルナリ故ニ余以爲ク宜ク布令ヲ下シテ宰相ニ對スル出訴ノ諸程式ヲ確定シテ其出訴期限及ヒ方法等ヲ明示セサル可カラス之ヲ約言スレハ此ノ如キ特設裁判所ニ於テハ



務メテ其規則ヲ明瞭ニシ以テ人民ヲシテ惑誤セサラルムルヲ計ラサル可カラス是レ獨リ行政官ノ體面ニ關係スルノミナラス尤モ貴重ナル人民ノ權理ニ關係スル者トス苟モ人民ノ私權ヲ害セラレタル時ハ併セテ公共ノ自由權ヲ害セラル可シトスルノ說ヲ認ムル者ハ是等行政法上ノ缺點ニ注意シ以テ之ヲ救醫スルノ方法ヲ講究セサル可カラスト氏著行政法講義第三版第三百四十三項ヲ看ヨ

第三卷 行政訴訟裁判官タル州長郡長及ヒ邑長

第一章 州長

(提要) 第一千三百五十五 州長ニ委任スル職掌ノ性質

第一千三百五十六 同上ノ職掌ニ關シ國憲上ノ主義

第一千三百五十七 州長ハ或ル場合ニ於テ行政訴訟判決ノ權ヲ行フノ權ヲ有スルヤ

第一千三百五十八 州長ハ行政訴訟判決ノ權ヲ獨行シ或ハ參事院ニ咨詢シテ之ヲ行フ

第一千三百五十九 州長ノミニ委任シタル判決ノ類例○第一、競馬ノ褒賞

第一千三百六十 第二、鐵坑ノ開掘

第一千三百六十一 第三、健康ニ害アル第一級及ヒ第二級建物

第一千三百六十二 第四、行政官ニ於テ徵收ヲ行フカ爲メニ督促狀ヲ發布スルノ權

第一千三百六十三 第五、州ニ屬スル貸與權ニ關シ督促狀ヲ發スルノ權

第一千三百六十四 第六、政府ニ屬スル財産入札者ノ失權

第一千三百六十五 第七、政府ノ爲メニスル供給品ノ辨償ニ關ス



ル争訟

第千三百六十六 第八、海口税局線路内ニ設置スル水車ノ制禁

第千三百六十七 第九、鑛坑若クハ鹽製造所ノ工業停止

第千三百六十八 参事院ニ咨詢スルノ後州長ニ於テ決定ス可

キ行政訴訟上ノ職務

第千三百六十九 類例○第一、物品入邑税ニ關スル争訟

第千三百七十 第二、飲料税ニ關スル争訟千八百十六年四月二十九日ノ法律第四十

九條第七十條及  
七十八條

第千三百七十一 左ニ掲クル者ハ右ニ開列セル職掌ノ部類ニ

入ル可カラス○第一、邑并ニ救濟舎ニ屬スル主計吏決算表ノ

判定

第千三百七十二 第二、測地表ニ關スル争訟○其他ノ例

第千三百七十三 行政訴訟ニ關シ州長ノ行フ可キ權ノ性質ヲ

定ム

第千三百七十四 州長ノ判決ス可キ行政事件ノ爲メニ豫審ノ

程式ヲ命ゼス○参事院ニ咨詢スルノ後ニ下セル州長判決書

ニ關スル特例

第千三百七十五 州長判決書ニ對シ控訴スルノ手續○第一、原

判決者タル州長ニ出訴スル事即チ故障申述ヲ行フ事

第千三百七十六 州長ニ於テ其下セル判決書ヲ廢改スルヲ得

サル場合

第千三百七十七 法律上州長ニ對シ出訴ス可キノ期限ヲ定メ

ス

第千三百七十八 州長判決書ノ主義ヲ解釋スルノ權ハ誰レニ



屬スルヤ

第一千三百七十九 州長ハ昔時ノ知事若シハ州行政官ノ判決書ヲ取消スヲ得ルヤ

第一千三百八十 第二宰相ニ控訴スル事〇何レノ場合ニ於テ宰相ニ控訴スルヲ得ルヤ

第一千三百八十一 千八百三十六年五月二十一日ノ法律ニ因リ制定シタル規則ハ如何〇エルマン氏ノ説ヲ駁ス

第一千三百八十二 法律上宰相ニ控訴ス可キ期限ヲ定メス

第一千三百八十三 宰相ニ控訴スルカ爲メニ原判決ノ執行ヲ停止セス

第一千三百八十四 必要ナル場合ニ於テハ宰相ノ判決書ヲ以テ更ニ參議院ニ覆訴スルヲ得

第一千三百八十五 州長ノ判決書ヲ以テ直ニ參議院ニ控訴スルヲ得ス

第一千三百八十六 第三州長判決書ヲ以テ弄權ノ者トシテ出訴スル場合ニ係ル特例

第一千三百八十七 同上ノ場合ニ於テハ三ヶ月内ニ控訴ス可キヤ

第一千三百八十八 州長ニ向テ訴訟入費ノ支辨ヲ命スルヲ無シ

第一千三百八十九 法律ニ因リ州長決定書ヲ以テ參議院ニ控訴ス可シト定ムル場合ニ於テ豫メ之ヲ宰相ニ控訴スルヲ得ルヤ

第一千三百九十 右ノ如ク宰相ニ控訴シタル時ハ參議院ニ控訴スルノ權ヲ失フヤ否ヤノ問題ニ就キ議論紛々

第一千三百九十一 第四參事院ニ控訴スル事



第五千三百五十五第

第一千三百九十二 州長ノ判決權ト宰相ノ判決權トノ比較

州長ハ之ヲ創設シタル共和曆第八年雨月二十八日ノ法律第二條及ヒ第三條ニ因リ行政官タルヲ以テ其本務ト爲ス該第二條ニ曰ク每州ニ州長參事院及ヒ州會ヲ置ク可シ是等ノ官吏ハ現時州行政官并ニ州委員ニ屬スル職務ヲ行フ可シト次キノ數條ニ於テ是等官吏ノ職掌ヲ指示シ州長ハ特ニ行政務ニ任ス可シトセリ第三條而シテ行政訴訟判決ノ權ヲ以テ參事院ニ與ヘタリ第四條

第六千三百五十六第

州長ハ全國ノ行政官長タル皇帝ノ指揮監督ヲ受ケテ一切ノ行政務ノ中ニ就キ特ニ千七百八十九年十二月二十二日議決千七百九十年一月十日公布ノ法律第三款第二條ニ開列スル務メニ服ス凡ソ行政權ハ國王ヨリ州長ニ分與シ州長ハ之ヲ以テ郡長ニ分與シ郡長ハ更ニ其職ヲ割キテ邑長ニ分任ス故ニ邑長モ亦全國ニ關係スル行政務ノ一部ヲ委

第七千三百五十七第

任セラレハ有ルヲ以テ行政權分任ノ制ヲ定メタル國憲上ノ大主義ト爲ス是ニ因リ州長ハ恰モ中央政府ニ在ル所ノ國長ヨリ分與スル行政權ヲ以テ隔遠ナル地方ノ人民ニ轉移スル脈管ニ似タリ而シテ每州ニ在ル州長ハ行政官吏中ノ尤モ貴重ナル者ニシテ猶ホ衆多ノ鑲ヲ以テ組成セル鏈鎖ノコトニ故ニ其管轄州内ニ於テ普通行政務ヲ行フテ命令文書ヲ頒行ス之ヲ州長ノ本分トス可キ職掌トナス  
州長ハ或ル場合ニ於テハ普通行政務ノ外ニ尙ホ行政訴訟判決ノ權ヲ行フヲ得ルヤ蓋シ共和曆第八年雨月二十八日ノ法律ノミニ就テ考案ヲ下セハ州長ヲシテ專ラ普通行政務ニ任セシメ行政訴訟判決ノ權ハ一切之ヲ參事院ニ屬ス可キヲ得テ疑フ可カラサル者ノ如シ然レモ其他ノ諸法律ヲ參考スル時ハ容易ニ右ノ問題ヲ斷定スルノ難キヲ覺ユ夫レ州長ハ宰相ニ隸屬スル行政官ニシテ普通行政務ヲ行フヲ本務トス



可キ者ナリ今州長ノ職務即チ普通行政務ト參事院ノ職務即チ行政訴訟務トナシテ混雜セサラシメント欲セハ宜ク州長ニ與フルニ行政訴訟判決ノ權ヲ以テス可カラサルニ似タリ但シ本項ニ於テハ州長ニ與フルニ司法上ノ判決權ヲ以テスルヲ得ルヤ否ヤノ問題ヲ決セントスルニ非スシテ唯或ル場合ニ於テ行政上ノ訴訟判決權ヲ以テ之ニ附ス可キヤ否ヤヲ判定スルニ在ルカ故ニ余ハ行政司法兩權區別ノ大則ニ從ヒ裁判官ノ職ト州長ノ職トニ兼テ任ス可カラサルノ謂ヲ茲ニ舉示セサル可シ

八十五百三千第

然リト雖モ州長ヨリ下セル文書ノ中ニ就キ行政訴訟判決書ノ性質ヲ有セリトセサル可カラサル者アリ即チ人民ノ利益ヲ害スルニ非スシテ其權利ヲ害スル所ノ文書是ナリ本書第二十項ヲ看ヨ又本書第二十七項ニ論セシ如ク此行政訴訟ヲ別テ二類ト爲スチ得人民ノ訴求スルニ因リテ

九十五百三千第

判決ヲ下セル時ヨリシテ已ニ存セル者一ナリ人民ノ權利ヲ害スル文書ナリトシテ出訴スルニ因リテ初テ生スル者二ナリ州長ハ此二箇ノ場合ニ於テ或ハ其判決ヲ獨行シ或ハ參事院ニ咨詢シテ之ヲ行フ余ハ州長一人ニテ行政訴訟ヲ判決スルノ例證トシテ左ノ數箇ノ場合ヲ徵引ス可シ

第一 千八百六年七月四日ノ詔書第二十八條ニ曰ク凡ソ競馬ノ褒

賞規則ニ關シ乘馬者ノ間ニ起レル爭訟ハ競馬場ヲ管轄スル邑長ニ於テ假リノ判決ヲ行ヒ州長ニ於テ其確定判決ヲ下ス可シ但シ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト是レ其二人以上ノ乘馬者ノ間ニ起レル爭訟ヲ判決スル者ナルヲ以テ其行政訴訟判決タルヲ固ヨリ疑ヲ容レヌ若シ此ノ如キノ職掌ヲ以テ州長ニ與ヘヌシテ之ヲ參議院ニ附セハ誰レカ爲メニ下セル判決ヲ以テ行政事件ニ



係ル判決書トセサル者アラシヤ故ニ該判決書ノ參事院ヨリ出テ  
スシテ州長ヨリ出ツルニ因リ其文書ノ性質ヲ變更シテ行政訴件  
ニ係ル判決書ニ非ストスルヲ得ス但シ該規則ハ千八百五十三年  
二月十七日ノ内務宰相ノ布達アリテヨリ以來廢止ニ屬スル者ノ如  
シ該布達第八條ニ曰ク凡ソ競馬ニ關スル爭訟ハ競馬委員ニ於テ  
判決ス但シ次キニ掲クル場合ヲ除ク外該判決ハ確定ノ者ニシテ  
控訴スルヲ得スト又其第十條ニ曰ク中央競馬委員ハ第八條ニ因  
リ出訴スル所ノ者ヲ判決ス可シト千八百五十三年内務宰相局地  
布達全書第百三十三號ヲ指ヨ  
方競馬委員并ニ中央競馬委員ノ組織方法ハ同上ノ布達書第三第  
四第五ノ三條ニ見ヘタリシヨフル氏ハ其著書第一卷第六百十  
四項ニ於テ先キニ千八百六年ノ詔書ニ因リ邑長并ニ州長ニ與ヘ  
タル判決權ヲ剝キ之ヲ以テ内務宰相ノ設置セシ委員ニ與ヘタル

右布達書ヲ不法ノ者トセリ余ハ此駁議ヲ以テ其當ヲ得タリト思  
惟ス何トナレハ僅ニ宰相ヨリ發スル布達書ヲ以テ大政府ノ布令  
ヲ取消スヲ得サレハナリ

第二 千八百十年四月二十一日ノ法律ニ據リ鐵坑開掘ノ事業ヲ以  
テ公共ノ利益ニ關係アル者ト見認メタリ故ニ其第五十九條ニ於テ  
凡ソ鐵坑アル土地ヲ有スル者ハ充分ニ之ヲ開掘シテ以テ近傍ニ設  
置セル製造所ノ需用ニ供ス可シト定メタリ若シ其所有主ニ於テ自  
カラ之ヲ執行セサル時ハ鑄工長ヲシテ法定ノ約款ニ從ヒ代リテ之  
ヲ開掘セシムルヲ得同上ノ法律  
第六十條 又同一ノ鑛山ニ於テ開掘スル鑄  
工長數名ノ間ニ爭訟ヲ生スル場合ニ於テ州長ハ鑛坑技師ノ意見  
ヲ問ヒ各鑄工長ノ開掘ス可キ區域ヲ定ム可シ但シ參議院ニ控訴  
スルハ此限ニ在ラス鑛坑所有主ノ自カラ之ヲ開掘スル場合ニ於



テ各鑄工長ノ購得ス可キ鐵鑛ノ斤量ヲ定ムルモ亦州長ノ權ニ屬  
第十四條此第六十四條ニ因リ州長ニ與ヘタル職掌ハ鑄工長ノ一  
 名ヲ以テ開掘ス可キ鑛坑ノ所有主トシ他ノ鑄工長ニ於テ該鑛坑  
 ヨリ得タル權利ニ因リテ其開掘ヲ行ヘル場合ニ適施ス千八百四  
 十二年四月九日破毀  
 法院判決千八百六十四年ニ於テ立法院ニ提出セル法案ハ鐵坑  
 所有主ニ其鑛物ヲ自由ニ處分スルノ權ヲ與ヘントセリ果シテ此  
 法案ヲ實行スルニ及ンテハ前ニ擧ケタル千八百十年ノ法律ノ諸  
 條規ヲシテ全ク無用ニ屬セシムルニ至ル可シ抑是等鑄工長及ヒ  
 鐵坑所有主ノ間ニ生スル爭訟ニ關シテ州長ノ判決スル所ノ者ハ  
 其行政訴訟判決書タルヲ得テ疑フ可カラズ故ニ行政訴訟ノ終審  
 判決ヲ行フ可キ參議院ヲシテ其控訴ヲ受理ス可シト定メタリ此  
 場合ニ於テハ參議院ヲ以テ始審裁判所ノ職ヲ行ヘル者トセサル

カ故ニ州長ヲ以テ時トシテハ人民ノ權利ヲ害スルヲ有ル可キ始  
 審判決ヲ行ヘル者トセサル可カラズ

第三 千八百十年十月十五日ノ詔書ニ因リ健康ニ害アル第二級建  
 物ヲ設置スル許可ヲ得ント欲スル願書ハ郡長ノ下調ヲ經テ州長  
 ニ呈出ス可シ該詔書第七條ニ曰フ州長ハ凡ソ該建物設置ニ關係  
 スル者ニ對シ判決ヲ下ス可シ但シ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在  
 ラスト是ニ因リテ之ヲ觀レハ州長ハ製造者ノ利益ト人民ノ利益  
 トヲシテ並ヒ行ハレシメ且ツ爲メニ生スル爭訟ヲ判決スルノ權  
 ナ有スル者ナリ然レモ此場合ニ於テハ州長ヨリ判決ヲ下セル後  
 製造者若シハ其隣傍ノ者等ノ間ニ爭訟ヲ生スルニ非サル外行政  
 訴訟ヲ開シ可キノ理アラサル可シ

千八百五十二年三月二十五日ノ詔書ニ附添スルB表第八項ニ因



リ第一級建物設置ノ許可ヲ與フルノ權ヲ以テ州長ニ屬セシ以來  
ハ危險若クハ健康ニ害アル一級建物ニ關シ余カ前説ニ論スル所  
ノ者ヲ適施スルヲ得但シ第一級建物設置ノ許可ニ關スル州長ノ  
決定書ヲ參議院ニ控訴スルヲ得ルヲ猶ホ第二級建物設置ノ許可  
ニ關スル場合ニ於ケルカコトシ

第四 州長ハ大路鑛坑其他之ニ類スル場合ニ關シ公利益ノ爲メ行  
政官ノ費用シタル金額若クハ其命令スル工事ノ費額ヲ規定ス可  
キ文書ヲ下スノ權ヲ有ス是レ實際上極メテ必要ノ件ニシテ左ニ  
徵引スル法令ノ明文ニ從ヒ州長ニ此權アルヲ知ル即チ共和曆第  
十年花月二十九日ノ法律第三條同第十二年菓月七日ノ布令第七  
十五條第三第四節千八百十年四月二十一日ノ法律第五十條千八  
百四十三年三月二十六日ノ王勅第四條及ヒ千八百四十五年七月

十五日ノ法律第十一條第二節及ヒ第十五條是ナリ余ハ是等法令  
各條ノ明文ヲ具載セス特ニ千八百四十三年三月二十六日ノ王勅  
第五條ヲ引證シ以テ諸法令ノ大旨ヲ約說ス可シ該王勅第五條ニ  
曰ク凡ソ行政官ノ命令ニ因リテ執行スル工事諸入費ハ州長ニ於  
テ規定ス可シ而シテ其費用徵收ハ記録稅及ヒ公領局ノ官吏ヲシ  
テ執行セシムルヲ猶ホ大路ニ關スル罰金并ニ諸費用ニ於ケルカ  
コトクヌ可シ州長ノ規定シタル該費用ニ關スル爭訟ハ參事院ニ  
對シテ起ス可シ但シ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラスト余案ス  
ルニ此王勅第五條ハ鑛坑ヲ開掘スルニ因リテ公衆ノ安全若クハ  
職工ノ安全ヲ危フス可キ時ニ臨ミ命ス可キ豫防ノ工事ニ關スル  
場合ノ爲メニ定メタル者ナレトモ畢竟前文ニ徵引シタル諸法令ノ  
基礎ト爲ス可キ通則ヲ適施スル者ナリ此通則ノ極メテ有益ナル



ヲ知ラント欲セハ假リニ身ヲ行政官ノ地位ニ置キテ考察ヲ下  
 サル可カラズ蓋シ行政官ハ大路其他是ニ類スル公領ニ關シ公  
 利益ニ必要トスル處分ヲ命令スルノ權ヲ有スレモ人民ニ於テ其  
 費用ヲ負擔ス可キ工事ヲ執行セシメンカ爲メニ使用スル者ノ給  
 料ニ充ツ可キ資金ヲ有セス故ニ此場合ニ際シ州長ハ該費用ノ徵  
 收ヲ命スル文書ヲ發シテ其徵收ヲ行フ前ノ王勅第五條ニ定ム  
 ル所ノ如クスルヲ要ス是レ所謂ル督促狀ヲ發スルノ權利ヲ適施  
 スル者ナリ以上余ノ立議スル所ノ者ハ參議院ノ公判ニ因リテ認定  
 セテレタリ千八百四十八年八月二日アッレ堤委員件千八百四  
 十九年十二月一日バラフレ堤委員件千八百五十年  
 十一月二十日ドローン件判決及ヒ  
 本書第八百八十六項以下ヲ看ヨ  
 右ノ場合ニ係ル州長決定書ニ關シ起レル爭訟ヲ判決スルノ權ハ  
 行政官ニ屬スト雖モ該判決書ヲ執行スルカ爲メニ記録稅局ヨリ

發セシ督促狀ニ關スル故障申述ヲ判決シ及ヒ本案ニ關セサル件  
 ニ係ル故障申述ヲ判決スルノ權ハ共和曆第七年霜月二十二日ノ  
 法律第六十四條ニ因リ普通裁判所ニ屬ス千八百五十年十一月  
 二十日ドローン件判決  
 第五 州長ハ州ニ屬スル貸與權ノ徵收ニ關シ政府ニ屬スル貸與權  
 ニ就キ大藏宰相ニ屬スル者ト同一ノ權ヲ有ス故ニ千八百三十八  
 年五月十日ノ法律第二十二條ニ曰ク州ノ收入簿ハ州長ニ於テ執  
 行ス可キ者トナシテ之ヲ主計吏ニ交附ス可シト此條規ハ久シク  
 政府ニ關シテ實行スル所ノ者ト千八百三十七年七月十八日ノ法  
 律第六十三條ニ因リ邑ノ爲メニ定メタル所ノ者トニ準擬シテ設  
 シル者ナリ是ニ因リ政府及ヒ州邑ハ其貸與權ニ屬スル金額ヲ徵  
 收スルニ必要トスル執行文書ヲ得ンカ爲メニ之ヲ普通裁判所ニ  
 請求スルヲ要セス但シ州貸與權ニ關シ州長ヨリ發スル督促狀ノ



性質及ヒ其効驗ニ關シテハ後ノ第二章ニ於テ邑長ヨリ發スル督促狀ヲ論スルノ條ニ就テ參看ス可シ

第六 政府ノ名ヲ以テ賣却シタル財産ノ金額ハ督促狀ヲ發シテ之ヲ徵收ス日ノ王勅第十七年六月十一而シテ右ノ金額ヲ辨償セサル場合ニ於テハ公領局官吏ノ請求ニ因リ州長ニ於テ其失權ニ屬スルヲ宣告ス然レハ大藏宰相ノ認可ヲ得ルノ後ニ非サレハ失權ヲ命スル該決定書ヲ執行スルヲ得ス勅同上ノ王蓋シ普通法ニ從ヘハ賣却品ノ金額ヲ辨償セサルニ因リテ其賣買契約ヲ解クハ司法官ノ權ニ屬シ普通裁判所ニ限リテ之ヲ宣告スルナリ獨リ政府ハ買主ニ於テ賣却品ノ價格ヲ償ハサル時ニ臨ミ自カラ其賣買契約ヲ解キ爲メニ普通裁判所ニ依頼スル所ノ特權ヲ有ス是ニ因リ買主ノ失權即チ解約ヲ命スル州長ノ決定書ハ普通裁判所ニ於テ踐守

ス可キ程式ニ從フヲ要セサル一種ノ裁判宣告書ニシテ此時州長ハ其行政訴訟判決ノ權ヲ行ヒタルナリ故ニ失權ヲ命スル州長ノ決定書ヲ以テ不當トスル時ハ之ヲ參議院ニ控訴スルヲ得尙ホ官有森林ノ伐木權ノ賣與ニ關スル森林法第二十四條ニ於テ之ト同一ノ一例ヲ見ル可シ

第七 共和曆第九年暖月十九日ノ布令第一條ニ因リ政府ノ爲メニスル供給品ノ金額支辨ニ關シ人民ト政府官吏トノ間ニ起レル爭訟ハ州長ノ判決權ニ屬ス該件ハ其行政事件ニ屬スルヲ明白ナリ之ヲ以テ參事院ノ判決權ニ屬スルヲ公ケノ工事請負契約ニ關シ其請負人ト行政官トノ間ニ起レル爭訟ノ如クセサル所以ノ者ハ特ニ其至急判決ヲ行フヲ要スレハナリ本書第千三百二十九項ヲ看ヨ

第八 千八百六年四月三十日ノ法律第七十六條ニ因リ國境ノ地ニ



設置スル水車ヲ以テ穀類等ヲ密賣買スルノ懼レアリトス可キ時  
 ハ州長ノ決定書ニ因リ行政處分ヲ以テ之ヲ禁止スルヲ得可シ但  
 シ參議院ニ咨詢決定ス可キ皇帝ニ控訴スルハ此限ニ在ラス凡ソ  
 海口稅局ニ關スル處罰ハ普通裁判所ニ於テ宣告スルヲ以テ通則  
 トスレトモ獨リ本項ニ掲クル場合ニ於テハ法律上其判決權ヲ行政  
 官ニ屬セリ然レトモ之ヲ禁止スル州長決定書ヲ以テ行政上ノ普通  
 ノ命令トセシテ裁判宣告書ノ性質ヲ有スル者トナス而シテ密  
 賣買ヲ行フヤ否ヤヲ判決センカ爲メニハ其豫審ヲ行フヲ要ス  
法第五十八條 此場合ニ係ル州長判決書ノ參議院ニ控訴スルヲ許ス  
 ハ之ヲ以テ行政訴訟ノ判決書ト看做ス以上論スル所ノ如クナ  
 レハナリ  
千八百三十八年一月二十一日  
 法第五十八條  
 第五十八條

第九 鑛坑開掘ノ許可ヲ數名ノ人民若クハ一會社ニ與フル場合ニ

於テ該受許與者若クハ會社ハ州長ノ求メニ應ジ特別ノ契約ニ從  
 テ掘鑛事務ヲ擔當スル者ヲ特定スルヲ辯解ス可シ且ツ本人ノ  
 代理者トシテ行政官ニ對シ原被告トナル可キ任ヲ受ケタル者ヲ  
 指定ス可シ以上ノ約束ヲ履行セサル場合ニ於テハ州長ノ決定書  
 ニ因リ掘鑛事務ノ全部若クハ一部ノ停止ヲ命スルヲ得但シ州長  
 ノ決定書ニ不服ナル者ハ之ヲ宰相ニ控訴シ猶ホ不服ナレハ行政  
 訴訟手續ニ因リテ更ニ參議院ニ申訴スルヲ得  
千八百三十八年四月  
 月二十七日ノ法律  
 第七條 是故ニ本項ノ場合モ亦前項ニ掲クル場合ト同視スルヲ得  
 鑛坑法令ニ違反シテ開キタル鑛井鑛道其他掘坑ニ關スル一切ノ工  
 事ハ前節ニ徵引セル千八百三十八年四月二十七日ノ法律第七條  
 ニ定メタル程式ニ從テ之ヲ禁止スルヲ得  
同上法律第八條及  
 百四十年三月七日  
 千八百四十年六月十七日ノ法律  
 二十條 且ツ州長ハ千八百四十年六月十七日ノ法律ニ定メタル



程式ヲ未タ履踐セスシテ着手スル開掘若クハ鹽製造ヲ禁止スル  
 ナ得此禁止決定書ハ控訴スル者アルニ拘ハラス假リニ執行スル  
 ナ得同七條法律以上ノ條規ハ海鹽ヲ製造スル製造所同上十一條及ヒ  
 蒸氣機關ニ適施ス可シ千八百四十四年五月二十  
 州長一人ニテ行政訴訟ニ關スル判決書ヲ下スヲ得ルトスル時ハ  
 該州長ニ於テ參事院ニ咨詢シテ以テ同上ノ判決書ヲ下スヲ得可  
 キ一固ヨリ論ナキナリ蓋シ州長ニ於テ參事院ニ咨詢シテ以テ判  
 決書ヲ下セル場合ニ於テ參事院ノ僚員ハ唯其意見ヲ述フルニ止  
 マリ之ヲ判決スルノ權ヲ以テ獨リ州長ニ屬スト雖モ本九十二項ヲ  
 看其訴訟事件ノ重要ナルニ因リ州長一人ニテ判決ス可キ者ヨリ  
 モ更ニ丁寧ニ熟議セシメテ要セリトシテ此規則ヲ立テタルヤ得  
 テ疑フ可カラズ昔時ハ往々直ニ參事院ヨリ下セル判決書ト參事

院ニ咨詢シテ州長ヨリ下セル判決書トナ混シテ同一物ト爲ス者  
 アリ本十三項ヲ看ヨ  
 參事院ニ咨詢シテ州長ノ判決ス可キ行政事件ノ數例ヲ左ニ開列ス可  
 シ

第一 千八百九年五月十七日ノ詔書第三百三十六條ニ曰ク入邑稅ノ  
 管理若クハ徵收ニ關シ邑ト入邑稅局官吏トノ間ニ起レル爭訟ハ  
 先ツ兩造ノ申述スル所ヲ聞キ參事院ニ咨詢シテ州長之ヲ判決ス  
 可シ但シ千八百六年七月二十二日ノ詔書ニ定ムル程式及ヒ期限  
 ニ從テ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラス收稅請負契約書ノ條款  
 ノ意義ニ關シ邑ト入邑稅徵收請負人トノ間ニ起レル爭訟モ亦同  
 シ然レ邑ト該請負人トノ間ニ起レル其他ノ爭訟ハ悉ク普通裁  
 判所ノ管轄ニ屬ス可シト右ノ事件ハ純然タル行政上ノ事件タル



「證據ヲ待タスシテ明ナリ現ニ同上ノ詔書ヲ起草スル者ハ所謂  
ル參事院ニ咨詢決定スル州長ナル者ト參事院ナル者トヲ混シテ  
同視スルニ至レリ是レ州長ニ於テ參事院ニ咨詢シテ決定スル所  
ノ訴件ヲ以テ直ニ參事院ニ於テ判決スル行政訴件ト異ナル所ア  
ラストセシカ故ナリ

第二 千八百十六年四月二十八日ノ法律第七十條ニ曰ク凡ソ飲料  
小賣税ニ相當スル税金ヲ前納セントスル飲料小賣商人ハ爲メニ  
租税局ノ許可ヲ得可シ右ノ租税額ニ關シ小賣商人ト租税局ト議  
相合ハサル時ハ州長ニ於テ參事院ニ咨詢シテ之ヲ判決ス可シ但  
シ參事院ニ咨詢スルハ此限ニ在ラスト  
同上ノ法律第七十八條ニ於テモ亦租税局ト一邑内ノ總小賣人ト  
ノ間ニ於テ全邑ノ飲料小賣税金ノ全納額ニ關シ議相合ハサル時

ハ州長ニ於テ參事院ニ咨詢シテ之ヲ判決スルヲ許ス但シ參事院  
ニ咨詢スルハ此限ニ在ラストセリ同上法律第四十九條ヲ看ヨ參事院ニ關スル  
千八百六十四年ノ法律議案第八條ニハ前ニ徵引セル法律第四十  
九條第七十第七十八ノ三條ニ掲ケタル職務ヲ以テ參事院ニ屬ス  
可シト定メタリ  
邑及ヒ貧院其他ノ救濟舍ノ計吏決算表ヲ判決スルノ權ハ參事院  
ニ咨詢決定ス可キ州長ニ屬ストスルコトド、コルムナン氏カ其著書  
第五版第一卷第百七十五葉第四第六項ニ掲論スルカ如クス可カ  
ラス右ノ職務ハ千八百三十七年七月十八日ノ法律第六十六條千  
八百三十八年五月三十一日ノ王勅第四百八十三條第五百十二條  
第五百十四條及ヒ千八百六十二年五月三十一日ノ詔書第五百二  
十八條第五百六十一條ニ因リ之ヲ參事院ト會計法院トニ分任セ



州長ハ參事院ニ咨詢シテ測地表ニ關スル二三ノ爭訟ヲ審理スル  
百七年九月十六日然レモ其審理ス可キ者ハ特ニ純然タル行政上  
 ノ事項ニ係ル故ニ此場合ニ於テスル州長ノ判決ヲ以テ參議院ニ  
 控訴スルヲ得サル可シ 本書第五百十  
 三項ヲ看ヨ 邑州及ヒ諸公舎ノ賣買交換  
 等ニ關シ千八百三十七年七月十八日ノ法律第四十六條第五十九  
 條千八百三十八年五月十日ノ法律第二十九條及ヒ千八百四十一  
 年五月三日ノ法律第十三條第四節ニ因リ參事院ニ咨詢シテ決定  
 ス可キ州長ニ屬スル職掌ハ皆ナ後見上ノ職務ニシテ行政訴訟判  
 決權ニ關スル者ニ非ス 本書第三十  
 二項ヲ看ヨ  
 入邑稅若クハ内國通航稅ノ收納ニ關スル爭訟モ亦共和曆第十一  
 年八月八日ノ布令第十五條ニ因リ州長ニ於テ參事院ニ咨詢シテ

之ヲ判決ス可シ但シ該布令書ニハ州長ト參事院トノ混雜シテ彼  
 此ノ區別ヲ明カコセス 本書第三百九  
 十三項ヲ看ヨ 爾後千八百三十六年七月九  
 日ノ法律第二十一條ニ因リ以上ノ職務ヲ以テ司法裁判所ニ移セ  
 リド、コルムナン氏カ千八百四十年ニ開板セル著書第一卷第百七  
 十五葉第八項ニ於テ同上ノ爭訟判決ノ權ヲ以テ參事院ニ咨詢決  
 定ス可キ州長ニ屬ス可シト論セシハ前ニ徵引セル共和曆第十一  
 年布令書ノ既ニ廢止ニ屬セシヲ知ラサルノ誤ナリ  
 以上論スル所ニ因リテ之ヲ推セハ州長ノ行ヒタル職權ノ性質ニ就  
 キ如何ナル判決ヲ下ス可キヤ或ル場合ニ於テハ行政訴訟裁判官ノ  
 性質ヲ有スル者ト看做シテ可ナル可キヤ其行政訴訟手續ニ因リ參  
 議院ニ控訴セラル可キ事項ヲ判決スル場合ニ於テハ州長ヲ以テ行  
 政訴訟判決權ヲ行ヒタリトス可キヤ之ニ反シ何レノ場合ヲ論セス



州長ハ常ニ純然タル行政官吏ニシテ行政訴訟裁判官ノ性質ヲ有ス  
 ル者ニ非スト爲ス可キヤ今是等ノ問題ヲ講究セントスルニ當リ  
 宜ク文字ノ末ニ拘泥スヘカラス且ツ司法裁判所ニ慣用スル裁判  
 官判決權裁判宣告等ノ語ト行政上ニ於テ假用スル是等ノ語トヲ  
 混シテ同一視セサルヲ要ス且ツ行政訴件ノ性質及ヒ純然タル行  
 政務ト行政訴訟務トヲ區別スルノ必要ニ就キ余カ卷首ニ論セシ  
 所ノ者ヲ遺忘ス可カラス本書第二十二項以下及ヒ何トナレハ行  
 政官ヨリ發出スル諸文書中何レノ者ヲ以テ參議院ニ控訴スルヲ  
 得可シトスルヤ否ヤヲ辨知スルハ極メテ本項ニ開列スル問題ヲ  
 斷定スルニ必要ナル者トスレハナリ  
 是ニ因テ之ヲ觀レハ州長ハ或ハ獨斷ヲ以テシ或ハ參事院ニ咨詢  
 シテ兩様ノ行政事務ヲ行フヲ猶ホ宰相ニ於ケルカコトシト云ハ

サル可カラス即チ參議院ニ控訴セラル可カラサル純然タル行政  
 務及ヒ同院ニ控訴セラル可キ行政訴訟務ノ二者是ナリ蓋シ州長  
 ノ決定書ヲ以テ參議院ニ控訴スルヲ得可キ者ト爲シテ前段ニ徵  
 引シタル諸場合ヲ細カニ解剖スル時ハ因テ以テ生スル眞ノ行政  
 訴件ニ非サル許多ノ場合ヲ引出スルヲ亦難キニ非ス是故ニ第一  
 級若クハ第二級ニ屬スル健康ニ害アル製造所設置願ヲ非拒シタ  
 ル州長決定書ヲ以テ行政訴件ニ關スル者トス可カラス此場合ニ  
 於テ州長ハ僅カニ純然タル行政事務ヲ行フノミ但シ該製造所設  
 置志願者ニ於テ其請ヒヲ却ケラレタルニ因リ更ニ訴求スルアル  
 ニ因テ始テ之ヲ認メテ行政訴件ト爲ス可キナリ密賣ノ爲メニス  
 ル水車ヲ禁止シ及ヒ千八百三十八年四月二十八日ノ法律第七條  
 ニ背クニ因テ掘坑ヲ停止スル州長決定書ニ關シテモ亦同一ノ觀



察ヲ下スヲ得可シ

前段ニ開列シタル州長決定書ノ中ニ就キ行政訴訟決定書ノ性質ヲ有セリトセサルヲ得サル者アリ故ニ州長ニ於テ競馬ノ褒賞ニ關スル争訟若クハ鑛工長數名ノ間ニ起レル争訟若クハ邑ト入邑税局員トノ間ニ起レル争訟ヲ判決スル時ハ該判決書ヲ以テ命令書ト裁判宣告書トノ性質ヲ併セ有スル者トス隨テ之ヲ以テ行政訴訟上ノ判決書ト看做ス可キ事猶ホ參事院ヨリ發出スル判決書ニ於ケルカコトクナル可シ抑夫レ州長ヨリ發スル文書ヲ區別シテ二類ト爲シ即チ其一ハ州長ニ於テ始テ之ヲ發セシ日ヨリシテ既ニ行政訴訟判決書ノ性質ヲ有スレトモ其他ハ之ヲ宰相若クハ參議院ニ出訴スルノ後ニ至ラサレハ行政訴訟ニ屬セストスルハ甚タ穩當ナラサルヲ覺ユ何トナレハ此ノ如キ區別ヲ立ツル時ハ參

議院ヲ以テ州長ノ決定書ニ對シ時トシテハ始審及ヒ終審ノ判決ヲ下ス可キ職ヲ行フ有ル可シト斷定セサル可カラサレハナリ故ニ寧ロ左ニ掲クル所ノ原則ニ從テ區別ヲ立ツルノ善キニ如カス即チ人民ノ利益ヲ害スルニ止マラスシテ其權利ヲ害スル所ノ州長決定書ニシテ法令ニ因リ參議院ニ控訴ス可シト定メタル者ハ悉ク皆テ行政訴訟上ノ判決書ト看做シテ之ヲ其部類ニ入ル可キナリ此ノ如クスレハ即チ論理上及ヒ實際上ニ於テ各其當ヲ得可シ

法律上未タ嘗テ州長ノ判決ス可キ訴件ノ豫審及ヒ其行政上若クハ行政訴訟上ノ判決ニ關スル程式ヲ定メタル有ラス現今實際上ニ於テハ州長ニ附屬スル諸局ニ於テ豫審ヲ行ヒ州長ハ該局員ノ申報ヲ受ケテ判決ヲ行フ例トス但シ法律ニ因リ豫メ參事院



ノ議決ヲ要シ若クハ該院ノ意見ヲ問フ可シトスル事項ニ係ル判  
 決書ハ參事院ニ咨詢決定ス可キ州長判決書ノ程式ニ準シテ編作  
 ス可シ夫レ州長ハ參事院多數ノ説ノ爲メニ拘束セラル、一無キ  
 ハ本書第三百九十二項ニ論セシカ如クナレモ若シ州長ニ於テ法  
 律ノ定ムル所ニ從ヒ豫メ參事院ノ決定若クハ意見ヲ求メスシテ  
 其獨斷セル判決書ヲ下セル時ハ之ヲ以テ法定ノ程式ヲ缺ク者ト  
 シテ上長行政官ノ爲メニ無効ト宣告セラル可シ蓋シ法律上ニ於  
 テ此ノ如ク判決ヲ以テ無効ニ屬ス可シトスル明文ナシト雖モ此  
 參事院ノ意見若クハ議決ヲ求ム可シトスルノ程式ハ訴者ノ權利  
 ヲ保護センカ爲メニ立テタル者ニシテ極メテ重緊ナリトス故ニ  
 之ヲ遺忘シテ行ハサル場合ニ於テ州長ハ人民ノ權利ヲ侵セル者  
 ト爲シテ弄權ノ訴ヲ受ク可シ本書第三十項ヲ看ヨ

純然タル行政務及ヒ行政訴訟務ニ關スル州長ノ決定書ニ向テ出  
 訴スルノ方法ハ該州長ノ行ヒタル職務ノ性質ニ因リテ定マル者  
 ナリ蓋シ行政官ナル者ハ國憲第六條ニ因リ皇帝ニ統屬ス之ヲ鍵  
 鎖ニ譬フルニ州長ハ猶ホ其第一環ノコトシ是故ニ州長ハ一ノ行  
 政官吏ニシテ其自カラ發スル決定書并ニ舊州長ノ發スル決定書  
 ヲ取消スノ權アル者ト云ハサル可カラス何トナレハ凡ソ行政官  
 ナル者ハ變遷不定ノ時機ニ立テ變遷不定ノ事務ヲ處スルニ因リ  
 其一タヒ發スル文書ノ爲メニ拘束セラレテ行爲ノ自由ヲ奪ハル  
 ルカ如キ一有ル可カラサレハナリ是ニ因テ之ヲ觀レハ立法官ト  
 皇帝トハ自カラ制定セル法律詔勅ヲ廢改スルヲ得州長ト邑長ト  
 ハ亦其發出スル文書ヲ廢改スルヲ得隨テ州長ヨリ發出スル文書  
 ヲ取消サシメント欲スル者ハ該州長ニ向テ之ヲ請求ス可キナリ



州長ハ其發出セシ文書ヲ廢改シ得ルコト前項ニ論スル如クナレドモ  
 前キニ自カラ發スル文書若クハ舊州長ノ發スル文書ニ因リ既ニ  
 人民ノ所得トナリタル權利ヲ損害ス可カラズ夫レ主權ヲ掌握セ  
 ル立法官スラモ既ニ其權力ヲ制限セラレタリ民法第二條ヲ看ヨ況ヤ行政  
 官ニ於テチヤ固ヨリ其權ヲ制限セラレタル所アラサル可カラズ  
 獨リ難シトスルハ州長ノ發セシ文書ノ中ニ就キ既ニ人民ノ所得  
 トナリタル權利ヲ與ヘタル者ト其與ヘサル者トヲ判別スル是ナ  
 リ余案スルニ凡ソ州長ノ所管ニ屬スル行政事件ニ關シ其發出セシ  
 對理判決書ハ其勝訟者若クハ其送達ヲ得タル者ニ對シテ已得ノ權  
 ヲ與ヘタル者ト看做ス可キカ如シ何トナレハ該判決書ハ所謂ル裁  
 判宣告書ノ體裁ヲ具有スレハナリ蓋シ裁判宣告書ナル者ハ之ヲ得  
 タル者ニ對シテ其得可キ權利ヲ與ヘタル者ナリ是故ニ入邑稅ニ關

シ邑ト入邑稅收徵請負人トノ間ニ生スル爭訟其他之ニ類似スル  
 爭訟ニハ司法官ノ判決書ヲ廢改ス可カラズトスル例則チ適施ス  
 可シ行政文書ヲ廢改ス可シトスル例則チ以テ之ニ擬ス可カラズ  
 行政事件ニ關セサル州長決定書ヨリシテ人民ニ已得ノ權利ヲ生  
 ス可キ場合アリ是故ニ千八百三十七年七月十八日ノ法律第四十  
 六條ニ因リ州長ニ於テ後見上ノ職務ヲ行ヒ賣買若クハ交換ノ契  
 約取結ヒチ邑ニ許可スルニ因テ之ヲ舉行シタル者ハ復タ廢改ス  
 可カラズ千八百三十八年五月二十八日コラン件判決控訴ス可カラサル判決ノ力ヲ有  
 スル普通裁判所裁判宣告書ノ基礎トナル可キ州長決定書モ亦同  
 シ千八百十三年一月十一日ルジユク件判決以上兩箇ノ場合ニ於テハ州長決定書ニ就  
 テ生スル契約及ヒ裁判宣告ノ爲メニ該州長決定ヲシテ廢改ス可カ  
 ラサル者ヲテシメ之ヲ以テ人民ノ權利ヲ生シタル所爲ト爲ス可



キナリ整路線ニ關スル州長決定書及ヒ整路線ニ關スル邑長決定書ヲ確認シタル州長決定書モ亦人民ノ權利ヲ生セシム可キ性質ヲ有スル者トス凡ソ成規ニ從テ邑長若クハ州長ノ許認シタル整路線ヲ守リテ建築ニ從事スル者ハ適法ノ者トス故ニ之ニ償金ヲ豫給スルニ非サレハ先キニ定メタル整路線決定書ヲ廢改スルヲ得ス然レモ行政官ハ建築着手ノ前ニ相當ノ損害補償ヲ給與シテ先キニ定メタル整路線ヲ廢改スルヲ得此時公益益ノ爲メニスル收没ノ程式ニ依準スルヲ要セス千八百三十六年六月十日但シ已ニ建築ヲ終リタル者ニ對シテハ右ノ如ク處分スルヲ得何トナレハ此場合ニ於テ人民ハ其建築ノ事務ヲ完終スルニ因テ既ニ其所有ノ權ヲ全有シタレハナリ千八百三十六年四月十六日破毀法院裁決書ヲ看ヨ

法律上現任州長若クハ舊州長ヨリ下セル判決書ニ對シ出訴スル

ノ期限ヲ定メシ者アラズ是レ特ニ事實ヲ經ルノ長短ノミヨ因テ出訴ノ權ヲ得失ス可キノ道理ナシトスルコ因ル千八百二十年七月二十八日ワシ

件  
既ニ州長ヲ以テ其發出スル文書ヲ廢改スルヲ得ルトスレハ其之ヲ解釋スルノ權ヲ併セ有スルコ固ヨリ論ヲ待タス故ニ司法官ニ於テ州長ニ就テ其發出セシ文書ノ説明ヲ求ム可シト宣告シ及ヒ其他ノ諸場合ニ際シ州長ヨリ發出セシ文書ノ解釋ヲ求メントスル者ハ常ニ之ヲ州長ニ請求ス可シ千八百四十五年八月二十七日凡ソ參議院ニ對シ直ニ州長決定書ノ解釋ヲ請求ス可カラス前ニ註記セルラベ件判決本書第七百二十九項及ヒ反對ノ見解ヲ下セル

然レモ余ハ右ニ掲ケタル通則ニ拘ラス參事院ニ對シ州長決定書



ノ解釋ヲ請求ス可キ場合アリト思惟ス即チ該院ニ判決ノ權ヲ屬シタル行政事件ノ部類ニ入ル可キ文書ニ關スル者ニシテ例セハ國有財産ノ販賣契約書若クハ公ケノ工事ニ關スル請負契約書ノ解釋ヲ求ムル場合は是ナリ是等ノ文書ハ皆チ州長ニ於テ自カラ解釋ヲ下シ若クハ其他ノ方法ニ因テ敢テ關與スルヲ得可カラサル者ナリ以上余ノ考案ハマルゲリー件ニ關シ政府ノ目代タルドラブチー氏ニ因テ確認セラレタリ參議院判決錄第八百十二葉ニ掲クル千八百五十七年十二月十日マルゲリー件判決ヲ看ヨ 氏ノ言ニ曰ク行政文書ヲ解釋スルノ權ハ之ヲ作ル者ハ之ヲ解釋ス可シト云ヘル原則ニ從テ定ム可シ而シテ參事院ハ特別ナル文書解釋ノ權ヲ有スル者ナリ故ニ法律ニ因リ特ニ其權アリト定メタル場合ヲ除ク外文書解釋ノ權ヲ行フ可カラスト先キニ原被告ニ對シテ下セル判決書ヲ解釋シタル州長判決書ハ

行政訴訟判決書ノ部類ニ屬ス故ニ其始ニ下セル判決書ヲ以テ純然タル行政務ニ關スル者トスル場合ト雖モ猶ホ參議院ニ對シ之ヲ解釋シタル判決書ヲ控訴スルヲ得何トナレハ該解釋書ニ因リ原被告ノ一方ニ特別ノ權利ヲ與ヘ而シテ該權利ハ司法官ニ於テ下ス可キ判決ノ基礎トナル可キ者ナレハナリ千八百六十四年三月三十一日クレスタン件

州長ハ其自カラ發スル文書若クハ舊州長ノ發スル文書ノ廢改ヲ

許サレタル場合ニ於テ又舊州知事若クハ州中央行政官ヨリ發出セシ文書ヲ廢改スルヲ得ルヤ今獨リ道理ヲ推シテ之ヲ觀察スル時ハ此ノ如キ文書モ亦州長ニ於テ廢改シテ妨クル所ナキカ如シ何トナレハ官府ノ職ニ任スル者ハ今古其人ヲ同シクセサレ且官府ノ權ナル者ハ終始同一ニシテ其人ヲ變スルカ爲メニ其權ヲ變







メニ人民ノ已得權ヲ害スルヲ無シ故ニ彼レハ廢改スルヲ得サレ  
此レハ則チ廢改ヲ行フヲ得

行政事務統一ノ制ヲ立テ且ツ宰相責任ノ法ヲ定ムルニ及ンテハ  
州長ヲシテ全ク宰相ニ隸屬セシメ隨テ州長ノ發スル文書モ亦宰  
相ニ屬セサル可カラス是故ニ州長ヨリ發スル文書ニ向テ出訴ス  
ル第二ノ方法ハ其上長官タル宰相ニ控訴スルニ在ルナリ是ニ因  
リ宰相ハ各其當該ノ事項ニ關シ州長ノ判決ニ服セスシテ控訴ス  
ル者ヲ受理ス千八百五十四年一月五日

凡ソ州長ノ判決ニ對スル控訴ハ宰相ニ於テ皆ナ之ヲ受理ス可シ故  
ニ州長ニ於テ參事院ニ咨詢シテ判決ス可キ成規ニ背テ獨斷スル  
判決書ノ如キ其程式ニ違ヘル者若クハ參事院ニ於テ判決ス可キ  
者ヲ却テ州長ニ於テ判決スルカ如キ其越權ニ屬スル者若クハ普

通裁判所ニ於テ判決ス可キ訴件ヲ州長ニ於テ判決スルカ如キ其  
弄權ニ關スル者ハ皆ナ宰相ニ控訴セラル可シ而シテ州長判決書  
ノ純然タル行政務ニ關シ若クハ行政訴訟務ニ關スルカ如キハ敢  
テ論スル所ニ非ス以上定ムル所ノ者ヲ以テ州長決定書ヲ宰相ニ  
控訴スルノ通則ト爲ス

エルマン氏曰ク余ハ千八百三十六年五月二十一日ノ法律第二十  
一條ヲ執行スルカ爲メ州長ノ定メタル規則書ハ其他ノ州長決定  
書ト均シク之ヲ内務宰相ニ控訴スルヲ得可キヤ否ヤノ問題ニ關シ  
大ニ疑フ所ナキ能ハス夫レ此規則書ハ同シク州長決定書ナレハ自  
カラ特別ノ性質ヲ有スル者ナリ故ニ内務宰相ヨリ其認可ヲ得ル  
ノ前ニ豫メ之ヲ州會ニ通照セサル可カラス而シテ内務宰相ノ認  
可アリタル後ハ州會ニ於テ再ヒ其通照アルニ因テ討論スルノ後



ニ非スシテ之ヲ變更スルヲ得ス且ツ該規則書ハ内務宰相ノ認可  
 アルニ因テ始テ執行ス可キ者ナルカ故ニ其中ノ條款ノ一二ヲ改正  
 センコト内務宰相ニ請求スルハ即チ州長ノ決定書ニ向テ控訴ス  
 ルニ非スシテ内務宰相ノ自カラ決定シタル者ヲ改正センコト該  
 宰相ニ請求スルナリ然ラハ則チ該規則書ヲ定メタル州長ヲ以テ  
 弄權者若クハ犯法者トス可キ場合ヲ除ク外之ヲ控訴スルヲ得サ  
 ルナリ蓋シ通常ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ニ於テ或ハ内務宰相  
 ニ控訴シ或ハ直ニ參議院ニ控訴スルヲ得レト今此ニ論スル規則  
 書ニ關スル場合ニ於テハ特ニ參議院ニ控訴スルヲ得ルノミ何ト  
 ナレハ内務宰相ハ先キニ該規則書ヲ認可スルニ因テ已ニ其法律  
 ニ適合セシコトヲ暗許シタレハナリト氏著郷路論第七百  
 四十五項ヲ見ヨ余ハエ  
 マン氏所論ノ第一版ヲ以テ未ダ正確ナラスト思惟ス夫レ千八百

三十六年五月二十一日ノ法律第二十一條ヲ執行スルカ爲メ州長  
 ノ定メタル規則書ハ内務宰相ノ認可ヲ要スト雖モ亦一ノ州長決  
 定書タルヲ得テ疑フ可カラス千八百六十四年二月二  
 十五日レバ一件判決若シエ  
 ヲ氏ノ説ヲ以テ適法ノ者トナセハ凡ソ邑警察上ノ布達ニシテ州  
 長ノ認可シタル所ノ者ハ皆チ州長決定書ノ性質ヲ有スル者ト斷  
 定セサル可カラス豈夫レ此ノ如キノ理アラシヤ  
 法律上亦宰相ニ控訴スル期限ヲ定メス故ニ州長決定書ヲ宰相ニ  
 控訴スル者ニ向ヒ該決定書ヲ得テヨリ時日ヲ經ルヲ甚タ久シキ  
 ノ一事ヲ以テ其起訴權ヲ失ヘリト命スルヲ得ス千八百三十九年  
 六月三十日コゴ  
 ルタン件千八百六十二年三月  
 二十八日トリノ鑛山件判決  
 八百五十二年五月五日内務宰相諭達書中同年五月二十五日ノ詔  
 書第六條ニ因テ行フ可キ州長決定書ニ對スル控訴ヲ論スルノ條



ニ於テ左ノ一段ヲ載セ以テ之ヲ確認セリ曰ク千八百五十二年三月二十五日ノ詔書第六條ニ因リ凡ソ政府ニ於テ州長ノ決定書ヲ以テ法例ニ違ヒ公益ニ背ケリト爲シ又ハ私利ヲ害セリトスル場合ニ於テハ何時ニモ之ニ向ヒテ控訴スルヲ得可シト千八百五十二年内務相局布達全書第百七十八葉ヲ看ヨ此一點ニ就テハ宰相ト州長トノ間ニ大ニ區別スル所アルヲ知ル可シ何トナレハ宰相ヨリ下セル判決書ハ其送達ノ日ヨリ三ヶ月ノ期限満盡スルニ因リ之ヲ控訴ス可カラサル判決書ノ力ヲ有スル者トスレハ州長ヨリ下セル判決書ハ即チ然ル能ハサレハナリ是ニ因テ之ヲ見レハ州長ハ假リニ執行ス可キ判決ヲ行フノ權アルノミニシテ確定ノ判決權ヲ有スル者ニ非サルヲ知ル

宰相ニ控訴スルカ爲メニ州長決定書ノ執行ヲ停止セス千八百五十八年一

月八日破毀法院裁決及ヒ千八百五十六年内務宰相局布達全書第百四十一葉ニ掲クル内務宰相判決等ヲ看ヨ  
内務宰相ニ控訴シタル州長判決書ヲ以テ行政訴訟ノ部類ニ屬スル者トスル時ハ該内務宰相ノ覆審判決書ヲ以テ更ニ參議院ニ申訴スルヲ得レ其純然タル行政務上ニ關スル者ハ之ヲ該院ニ申訴スルヲ許サス故ニ此ニ論スル場合ニ於テハ余カ宰相ヨリ發スル文書ニ就テ論辯シタル所ノ諸則ヲ適施ス可キナリ  
宰相ヲ經由セスシテ直ニ州長判決書ヲ參議院ニ控訴スルヲ得ス若シ直ニ之ヲ該院ニ控訴スル時ハ上下行政官相統屬スルノ法制ヲ破レル者ナリ且ツ宰相ニ對シテ控訴スル時ハ其手續甚タ簡易ニシテ駿速ニ判決ヲ得及ヒ費用スル所モ亦甚タ多カラサルノ便アリ故ニ直ニ參議院ニ控訴センヨリモ寧ロ先ツ宰相ニ控訴スルノ利益アルニ如カサルナリ千八百四十年八月二十七日カスチロ件千八百四十四年一月十九日カブ



トビル  
件判決

越權若クハ弄權ニ關スル州長決定書ヲ控訴スル時ハ前項ニ論ス  
ルノ例ニ非ス故ニ此場合ニ於テハ直ニ參議院ニ對シテ控訴スル  
ヲ得  
千八百三十五年三月二十五日クリブ件千八百三十六年二月  
四日ドサンダチユエー件千八百四十六年三月二十五日チル  
メル件同年四月七日ビエー件千八百五十五年一月四日ベ  
ルミソ一件及ヒオーレ一件千八百五十三年五月六日ベライシユ  
件同年八月二十二日コスヌ府件千八百五十四年六月六日ベ  
五月十八日カチリオン邑件判決等ヲ參照ス可シ  
是レ權限ヲ侵  
セル者ハ公ケノ秩序ヲ攪亂スルニ因リ之ヲ矯正スルヲ必要トス  
ルニ因ル然レモ宰相モ亦越權若クハ弄權ニ關スル州長決定書ヲ  
取消スノ權ヲ有セリ是ニ因リ該州長決定書ニ關シ宰相ニ訴フト  
參議院ニ訴フトハ訴者ノ意ニ一任スルナリ  
弄權ニ關スル州長決定書ヲ參議院ニ申訴スルハ千八百六十六年七月  
二十二日ノ詔書第十一條ニ定ムル通則ニ從ヒ其送達ヲ得タル日

ヨリ三ヶ月内ニ於テス可キヤノ問題ニ對シヤロン府件ニ係ル  
千八百六十二年三月二十日參議院公判ハ此通則ニ從フ可シトセ  
リ  
本書第二百九  
十六項ヲ看ヨ  
普通裁判所ノ裁判宣告書ニ因リ弄權ニ關スル州長決定書ノ執行  
ヲ命スルニ因テ控訴ス可カラサル判決ノ力ヲ有セシメタル時ハ  
復タ之ヲ參議院ニ申訴スルヲ許サス  
千八百六十三年五月二  
十七日アゾ子一件判決  
是レ  
控訴ス可カラサル力ヲ有スル判決ナル者ヲ貴重シテ敢テ侵害セ  
シメサラントスルカ爲メナリ  
弄權ニ關スル州長決定書ヲ取消シタル場合ト雖モ州長ヲシテ其  
訴訟入費ヲ支辨セシメス何トナレハ該州長ヲ以テ訴訟ニ關係ス  
ル者ト看做サ、レハナリ  
千八百五十一年五月二十四日右ノ規則ハ  
司法上ノ訴件并ニ行政上ノ訴件ニ適施ス可シ  
千八百五十四年三  
月二十一日破毀法



決院裁

訴者ノ撰フ所ニ從ヒ弄權若クハ越權ニ關スル州長決定書ヲ宰相  
 ニ訴ヘ或ハ之ヲ參議院ニ訴フヲ得ルトスルノ制規ハ法例ニ因リ  
 州長ノ獨斷スル決定書若クハ其參事院ニ咨詢シテ發出スル決定  
 書ヲ參議院ニ控訴スルヲ許セル場合ニ適施ス可キヤ余ハ州長決  
 定書ヲ參議院ニ控訴ス可シト定メタル諸法例ノ明文ヲ前ノ第千  
 三百五十九項以下ニ徵引シ其文中ニ「但シ宰相ニ控訴シ之ニ不服  
 ナレハ更ニ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラス」ト云ヘル一節ヲ舉  
 ケ以テ其訴訟手續ヲ示セリ千八百三十八年四月二日法律第七條抑、法律中此ノ  
 如キ明文ヲ掲クル場合ニ於テハ州長決定書ヲ先ツ宰相ニ控訴シ  
 之ニ不服ナルニ及ンテ始テ參議院ニ申訴ス可キヲ得テ疑フ可カ  
 ラス然レモ法例中惟「但シ參議院ニ控訴スルハ此限ニ在ラス」ト記

スル者ニ至リテハ左ノ疑團ヲ生セサルヲ得ス即チ第一ニ州長決  
 定書ヲ以テ參議院ニ申訴スルノ前ニ於テ豫メ之ヲ宰相ニ控訴ス  
 ルヲ得ルヤ第二ニ之ヲ宰相ニ控訴シ得ルトスル時ハ爲メニ參議  
 院ニ直訴スルノ權ヲ失フ可キヤ是レナリ  
 余ハ第一ノ問題ニ關シ答テ云ハ「參議院ニ申訴スルノ權アルカ  
 爲メニ宰相ニ控訴スルノ權ヲ失ハスト凡ソ法例ニ因リ州長決定  
 書ヲ以テ參議院ニ申訴スルヲ得可シト定ムル者ハ皆チ其行政上ノ  
 訴件ニシテ純然タル行政務ニ非サルヲ以テ爲メニ發スル州長決  
 定書廢改ノ權ヲ參議院ニ屬シ以テ訴者ノ權理ヲ保護セノヲ明  
 示スルナリ是ニ因テ宰相ニ屬スル州長決定書廢改ノ權ヲ非拒セ  
 ノトスルニ非サルナリ若シ夫レ法例中ニ參議院ニ申訴スルノ前  
 ニ宰相ニ控訴ス可シトスルノ明文ヲ掲ケサルハ唯「字句ヲ簡略ス



ルノミ別ニ深意アルニ非ス件千八百三十五年十月二十三日セリ  
 月二十八條及ヒ千八百五十二年三月  
 第二ノ問題ニ關シテハ左ニ辨スル所ノ者ヲ以テ通論トナス曰ク  
 州長決定書ヲ宰相ニ控訴シ得ルトスル時ト雖モ參議院ニ申訴ス  
 ルノ前ニ豫メ此手續ヲ踏ムヲ要セス故ニ越權若クハ弄權ニ關ス  
 ルト然ラサルトニ論ナク參議院ハ直ニ州長決定書ニ向テ申訴ス  
 ル者ヲ受理スルヲ得可シ余ハ此論ヲ以テ行政法ノ原則ニ反背ス  
 ルハ勿論且ツ實際上ニ大不便ヲ生ス可シト思惟ス夫レ法律ニ因  
 リ惟參議院ニ於テ州長決定書ニ關スル申訴ヲ受理スルニ止マル  
 トスル場合ニ於テハ之ヲ宰相ニ控訴シ得ルト定ムルヲ至當トス  
 レハ隨テ此宰相ニ控訴スルノ手續ヲ履マサルヲ得スト斷定セサ  
 ル可カラス故ニ此法律中ニ但シ宰相ニ控訴シ之ニ不服ナレハ更

ニ參議院ニ申訴スルハ此限ニ在ラスト云ヘル明文ヲ掲グル場合  
 ニ於テハ必ス先ツ宰相ニ控訴スルノ手續ヲ履ム可キハ勿論假令  
 ヒ此ノ如キノ明文アラサルモ亦其義ヲ含蓄スル者トセリ是ニ因リ  
 之ヲ觀レハ法律上右ニ掲グル如キ明文アルト然ラサルトニ論ナ  
 ク先ツ宰相ニ控訴スルノ手續ハ常ニ踐履セサルヲ得サル者ナリ  
 請フ更ニ余ト反對ノ說ヨリ生スル不便ヲ示サン蓋シ此說ノ如ク  
 ナル時ハ法律ノ錯雜不規ヲ致シ州長ヲシテ或ル場合ニ於テハ其  
 上長官タル宰相ノ監督ヲ受ケヌシテ事ヲ處スルヲ得セシムルニ  
 至ラン且ツ州長決定書ヲ參議院ニ申訴スルニハ法定ノ期限アレ  
 此該決定書ヲ宰相ニ控訴スルニハ其期限ヲ定メサルヲ前ノ第千  
 三百八十二項ニ辨スルカ如シ而シテ反對說ニ云フ所ノ如ク直ニ  
 參議院ニ申訴スル者トスル時ハ千八百六六年七月二十二日ノ詔書



第十一條ニ依準シ州長決定書ノ送達ヲ得タル日ヨリ三ヶ月後ニ  
 申訴スル者ハ參議院ニ於テ之ヲ受理ス可カラストセサルヲ得ス  
 然レモ此送達ヲ得タル日ヨリ三ヶ月ノ後ニ至リ參議院ニ申訴セ  
 スシテ之ヲ宰相ニ控訴スル時ハ該宰相ニ於テ此控訴ヲ非拒ス可  
 キヤ將テ受理ス可キヤ法律上州長決定書ニ向テ宰相ニ控訴スル  
 ノ期限ヲ定メタルノ明文ナシ又前ニ徵引シタル千八百六年ノ詔  
 書第十一條ハ宰相ニ對スル控訴ニ關係アル者ニ非ス然ラハ則チ  
 宰相ハ州長決定書ニ係ル該控訴ヲ非拒スルヲ得サル可シ其非拒  
 ス可カラサルヲ以テ宰相ニ於テ之ヲ受理スルヲ得ルトスル時ハ  
 已ニ參議院ニ於テ受理ス可カラサル確定ノ州長判決書ナルヲ以  
 テ控訴ス可カラサル判決ノ力アリト看做セル者ヲ以テ却テ宰相  
 ニ於テ改廢シ得ルニ至ル可シ而シテ凡ソ宰相ノ判決ハ之ヲ參議

院ニ控訴シ得ルヲ通則トセリ故ニ今前ニ論セシ如ク宰相ニ於テ  
 送達後三ヶ月ヲ經タル州長決定書ニ向テ控訴シタル者ヲ受理判  
 決シタル時ハ此宰相判決書ヲ參議院ニ控訴シ得ルハ固ヨリ當然  
 ノ理ナリ果シテ此ノ如クナル時ハ州長決定書ノ送達ヲ得タル日  
 ヨリ三ヶ月ノ期限滿盡スレハ直接ニ參議院ニ對シテ之ヲ控訴ス  
 ルヲ得サレモ一タヒ宰相ヲ經由シテ其判決ヲ受クレハ該院ニ於  
 テ間接ニ之ヲ受理セラル、ノ結果ヲ生ス可シ其錯雜不規豈ニ亦  
 甚シカラズヤ

之ニ反シ法律ヲ解釋スルコト余ノ前ニ陳述セシ如クスル時ハ全ク  
 反對說ニ因テ生スル錯雜不規ノ弊ヲ去リテ普通法ニ適合シ又法  
 律ノ統一ヲ保持スルノミナラス猶ホ且ツ上下行政官統屬ノ法規ニ  
 依準シ及ヒ多ク時日ト費用トヲ要スル裁判手續ヲ避ケテ其駿速



ニシテ且ツ費用少ナキ者ニ從フテ得可シ故ニ余斷シテ曰ハシ參議院ハ越權若クハ弄權ニ關スル者ヲ除キ其他一切ノ州長決定書ニ係ル控訴ヲ直ニ受理ス可カラスト宣告ス可キナリト蓋シ此說ハ未タ參議院ノ公判ニ因テ採用スル所トナラサレモ其近頃發行セシ諸法律ノ明文ト精神トニ適合スルヤ必セリ千八百三十七年四月二十七日ノ法律第七條 第三項ヲ看ヨ且ツ之ヲ實際上ニ徵スルニ凡ソ行政訴件ニ關スル州長決定書ハ之ヲ參議院ニ控訴スルノ前ニ宰相ノ豫許ヲ得ルヲ通例トセリ千八百三十五年十月二十三日セリ一案件 千八百四年四月七日エスーダン案件判決以上余ノ考案ハ諸學士ノ中ニ就キ尤モシフール氏ノ贊成スル所トナリタレモ不幸ニシテ未タ參議院ノ採用スル所トナラス該院ハ凡ソ州長決定書ノ送達ヲ得タル日ヨリ三ヶ月内ニ於テ直ニ之ヲ控訴スルヲ許シ此場合ニ於テハ唯、法例中ニ參議院ニ控訴スルハ此限ニ

在ラストスルノ制限ヲ立テ州長ニ判決權ヲ與ヘタルノ明文アルヲ以テ足レリトセリ千八百四十二年七月十五日デシヤン案件千八百四十六年三月十二日バケイ案件千八百五十年三月十日エスチエン案件判決ヲ看ヨ法律上州長決定書ヲ參事院ニ控訴シ之ニ不服ナレハ行政訴訟手續ニ因リ更ニ參議院ニ申訴スルヲ許セル場合アリ然レモ其特例ニ係ルノ故ヲ以テ法律若クハ條例ニ因リ之ヲ許セル明文アルヲ要ス蓋シ此控訴手續ハ訴者ノ爲メニ甚タ便ナル者トス何トナレハ遠キ宰相ニ訴ヘスシテ近キ參事院ニ致スヲ得且ツ宰相ニ出訴スル時ハ訟廷公行ヲ許サ、レモ參事院ニ於テハ却テ之ヲ行フヲ許セハナリ但シ州長決定書ヲ宰相ニ控訴スルモ之ヲ參事院ニ控訴スルモ共ニ皆ナ其確定判決ノ權ヲ以テ參議院ニ屬スルカ故ニ此參事院ニ控訴スルノ手續アルカ爲メニ中央政府ノ權ヲ減損ス



ルヲ無シ近時ノ立法者ニ於テ州長決定書ヲ參事院ニ控訴スルノ  
 說ヲ可認スルノ意蓋シ茲ニ在ルナリ且ツ此控訴方法ハ更ニ宰相  
 ニ控訴スルノ方法ニ勝レル者アリ蓋シ州長決定書ヲ參事院ニ控  
 訴スル者アル時ハ該州長自カラ該院ニ來リテ其決定書ノ主意ヲ辯  
 護スルヲ得ルカ故ニ州長ニ對シテ恭敬ノ意ヲ缺クノ之ヲ宰相ニ  
 控訴スルカ如ク甚クシカラス何トナレハ自カラ不當ノ決定書ヲ  
 改廢スルノ苦難ハ其上長官ニ因テ之ヲ改廢セラル、カ如クナラ  
 サレハナリ是故ニ司法裁判所ニ於テモ故障申述及ヒ敬慎ノ訴ノ  
 兩手續ハ裁判官ニ對シテ恭敬ノ意ヲ缺クノ控訴及ヒ破毀上告ヲ  
 ナセル場合ヨリモ少ナキ者トセリ請フ左ニ余カ認知スル所ニ從  
 ヒ州長決定書ヲ參事院ニ控訴スルヲ許セル法例ノ明文ヲ左ニ開  
 列セシ即チ大路犯罪ニ關スル共和曆第十年花月二十九日ノ法律

第三條四條該法律ヲ他ノ訴件ニ擴張シタル諸法律本第七百九危  
第七項ヲ看ヨ險ニシテ健康ニ害アル製造所ニ關スル千八百十年十月十五日ノ  
 詔書第七條本第七百五  
十二項ヲ看ヨ邑ノ組織ニ關スル千八百五十五年五月  
 五日ノ法律第十二條第二十條鑛泉ノ水源保存ニ關スル千八百五十  
 六年七月十四日ノ法律第四條第二節アン州内ノ沼池競賣ニ關ス  
 ル千八百五十六年七月二十一日ノ法律第三條第四節是レナリ夫  
 レ是等ノ法例ハ皆ナ近時ニ至リテ制定スル者ナリ余ハ我國ノ立  
 法官ニ向テ此至便至美ナル法制ノ範域ヲ擴張シテ漸ク大ナラシ  
 メンヲ企望ス  
 以上漸ク論スル所ニ因テ之ヲ推セハ州長ノ職トスル所ト宰相ノ  
 職トスル所ト殆ト異ナル所ナキヲ知ル蓋シ州長ハ純然タル行政  
 務ヲ行フヲ以テ常職トスルヲ猶ホ宰相ニ於ケルカコトシ而シテ



州長ハ又時トシテ行政訴訟上ノ判決ヲ行ヒ爲メニ人民ノ權理ヲ妨害スルコト有リ此場合ニ於テハ該判決書ヲ參議院ニ控訴セラルルコト有ル可シ州長ト宰相ト其職トスル所此ノ如ク相同シケレドモ其職權ノ及フ所ニ至リテハ則チ大小ノ別ナキ能ハス夫レ州長ハ宰相ニ隸屬シテ一州内ノ政務ヲ取ル者ナリ故ニ其發出スル文書ハ純然タル行政務ニ係ル者ト行政訴訟務ニ係ル者トニ論ナク常ニ其權域ヲ一州内ニ限ラレ其他ニ及ハサルナリ

第二章 郡長

(提要)第千三百九十三 郡長ハ普通行政務上ノ命令ヲ下シ且ツ判決ヲ下スノ權ナシ

第千三百九十四 郡長職務ノ性質ニ關スル原則

第千三百九十五 郡長ニ褫奪シタル職務

第千三百九十六 大路ニ關スル郡長ノ職務

第千三百九十七 健康ニ害アル第三級製造所ニ關スル郡長ノ職務

職務

第千三百九十八 郡長ハ官有森林伐木若クハ漁業税ノ入札ニ關スル爭訟ヲ判決ス

第千三百九十九 郡長職務ノ性質ヲ論決ス

第千三百九十九

郡長ハ純然タル行政務ニ關シ固有ノ權アル者ニ非ス況ヤ行政訴訟務ニ於テハ固ヨリ其判決ノ權ヲ有スル者ニ非ス故ニ郡長ハ唯、上長官ノ命令ヲ人民ニ移シ人民ノ請願ヲ上長官ニ通知スルノ機關タルニ過キス是ニ因テ之ヲ見レハ今ノ郡長ハ之ヲ古ノ知州ニ隸屬スル代理員ニ準擬スルヲ得可シ千七百二十四年四月ノ王勅及ヒ千七百三十八年六月二十八日ノ條例第八篇第三條ヲ看ヨ然レモ爾來漸ク郡長ニ與フルニ行政上ノ職務ヲ以テシ之ヲ稍、重



緊ノ官タラシメタリ即チ千八百六十一年四月二十三日ニ發行セシ分  
 權ニ關スル第二詔書第六條及ヒ第七條ニ徴シテ之ヲ知ル  
 郡長職務ノ性質ニ關スル原則ハ立憲議會ニ於テ千七百八十九年十二  
 月二十二日議決同九十年一月十日公布ノ法律第二款第二十八條ニ因  
 リ左ノ如ク定メタリ曰ク每區ノ行政官郡長ノハ全ク州ノ行政官州長ノ  
 隸屬ス可シト又該法律ニ次テ發セル論達書ニハ左ノ一節ヲ載セタリ  
 曰ク憲法ノ主意ハ千七百九十年一月十日ノ法律第二卷第二十八條ニ  
 因リ定ムル所ニ從ヒ郡長ヲシテ全ク州長ニ隸屬セシムルニ在リ若シ  
 彼此統屬ノ大則ヲ確守セサル時ハ毎州行政ノ統一ヲ失ヒ遂ニ公衆ノ  
 利益ヲ計ルヲ得サルニ至ル可シ何トナレハ則チ各郡縱マ、ニ獨立不  
 羈ノ政ヲ行ハ、州行政官アリト雖モ之レヲシテ其憲法ニ得タル所ノ  
 權ニ依テ統轄スルヲ能ハサラシムレハナリト

千七百九十年八月十二日議決同月二十日公布ノ法律ハ現今郡長ノ本  
 務トスル所ノ者ヲ明示セリ曰ク郡長ノ職ハ所管郡内ニ於テ知得スル  
 所ノ者ヲ蒐集シ所管郡ニ關係アル事項ヲ請願シ州長ノ指揮ヲ受テ其  
 命令スル所ノ諸則ヲ執行シ所管郡ニ關係アル事項ニ關シ州長ノ求ム  
 ル所ニ從テ調査ニ從事シ且ツ其意見ヲ述ヘ及ヒ部下人民ノ請願ヲ受  
 テ其意見書ヲ添ヘ之ヲ州長ニ上達スルニ在リト  
 是ニ因テ之ヲ推セハ郡長ハ特別緊急ノ場合ヲ除クノ外行政訴訟判決  
 ノ權并ニ普通行政務ニ關スル命令ヲ下ス可キ權アル者ニ非ス故ニ政  
 府ノ委員ニ於テ共和曆第八年兩月二十八日ノ法律ノ主意ヲ説明シテ  
 曰ク每郡ニハ參事院ヲ置クヲ要セス何トナレハ郡長ハ行政事件ニ關  
 シ陳議ノ權アル者ニシテ決議ノ權アル者ニ非サレハナリト共和曆第



是レニ因リ郡長ハ地方警察上ノ規則ヲ定ムルノ權ヲ有セス故ニ郡長ノ定メタル警察規則ハ州長ノ認可ヲ得タル者ト雖モ必須執行ノ効力ナキ者トス千八百五十四年一月二日破毀法院裁決

第五千九百五十九

然レモ郡長ハ特例ニ因リ時トシテ普通行政務ニ關スル命令ヲ下スノ職ヲ行フノミナラス尙ホ行政訴訟判決ノ權ヲ執行スルコト有リ余ハ郡長ニ於テ普通行政務ニ關スル命令ヲ下ス可キ場合ヲ茲ニ詳論セス唯、暫シ其重要ナル法律ノ二三ヲ徵引ス可シ即チ法定ノ場合ニ於テ兵士ノ助力ヲ求ムルノ權ヲ郡長ニ與ヘタル千七百九十一年七月二十七日議決八月三日公布ノ法律第六條第十二條兇徒嘯集ニ關スル千八百三十一年四月十日ノ法律及ヒ千八百四十八年六月七日ノ法律第三條憲兵ヲ招集スルノ權ヲ郡長ニ與ヘタル千八百五十四年三月一日ノ詔書第百十七條所管郡内ノ護郷兵ヲ指揮スルノ權ヲ郡長ニ與ヘタル千八

百五十二年六月十三日ノ法律第四條等是レナリ

千八百二十三年四月二十三日ノ王勅第六條ハ郡長ニ與フルニ歲入百フラン以下ノ邑ニ屬スル主計吏ノ決算表ヲ調査決定スルノ任ヲ以テセリ是レ所謂ル行政訴訟上ノ職務ナル者ナリ然レモ千八百三十七年七月十八日ノ法律第六十六條ニ因リ此權ヲ郡長ニ剝テ參事院ニ與ヘ該院ノ決定スル所ニ不服ナレハ之ヲ會計法院ニ控訴ス可シト改定セ

共和曆第十一年八月八日ノ布令第十五條ハ内國通航稅ノ收納ニ關スル爭訟ヲ以テ郡長ノ判決權ニ屬シ之ニ不服ナル者ハ參事院ニ咨詢決定スル州長ニ控訴ス可シトセリ但シ現今ハ是等ノ爭訟ヲ以テ普通裁判所ノ判決ニ附スルコト間稅徵收ニ關スル一切ノ爭訟ノ如クス可シト

改定セリ千八百三十六年七月九日法律第二十一條ヲ看ミ



某著者ハ大路事件ニ關シ郡長ニ屬シタル職掌ヲ以テ行政訴訟ノ部類ニ置ケリ抑共和曆第十年花月二十九日ノ法律第三條ニ因レハ郡長ハ大路犯罪ニ係ル調書ヲ作り且ツ假リニ因テ生スル損害ヲ消止セシムル處分ヲ命シ之ニ不服ナル者ハ州長ニ控訴ス可キナリ又千八百十一年十二月十六日ノ詔書第十三條ニハ右ノ法律第三條ノ規則ヲ再出スルヲ左ノ如シ曰ク郡長ハ大路犯罪ノ調書ヲ作り且ツ共和曆第十年花月二十九日ノ法律第三第四條ニ因リ即時犯罪者ニ向テ賠償ヲ命シ而シテ後該調書ヲ州長ニ遞送シテ其事由ヲ具陳ス可シト而シテ同上ノ詔書第百十四條ニ於テ又左ノ一節ヲ加ヘタリ曰ク大路犯罪者ノ起セル故障申述及ヒ損害補償ノ外ニ該犯罪者ニ蒙ラセタル罰金ハ參事院ニ於テ勉メテ至急ニ判決ス可シト

以上ノ數條ハ行政訴訟判決ノ權ヲ以テ郡長并ニ州長ニ與ヘント云フ

ヨリモ輩口所謂ル純然タル行政務ナル者ト行政訴訟務ナル者トヲ判然分チテ二ト爲ス者ト云フ可シ何トナレハ郡長及ヒ州長ハ右ノ數條ニ因リ假リニ大路ノ損害ヲ回復スルニ必要ナル處分ヲ命令シテ以テ純然タル行政上ノ職ヲ行フノミ之ヲ以テ行政訴訟判決ノ權ヲ行フトスルヲ得ス之ニ反シ參事院ハ大路犯罪人ニ於テ郡長若クハ州長ノ命令ニ不服ナルヲ以テ故障申述ヲ爲スニ因テ起レル爭訟ヲ判決シ以テ其行政訴訟判決ノ權ヲ行ヘハナリ論者或ハ曰ク郡長ハ此場合ニ於テ往々人民ノ權理ヲ害シ唯其利益ヲ害スルニ止マラス故ニ是等郡長ノ命令ハ行政訴訟ノ手續ヲ以テ參議院ニ申訴ス可キ者トス然ラハ則チ郡長ヲ以テ行政訴訟判決ノ權ヲ行フタル者トセサル可カラスト余ハドカツ件ニ係ル千八百五十年十一月十六日ノ參議院公判ヲ以テ其答辯ニ充テントス蓋シ該判決ニ因レハ大路ニ關スル郡長ノ命令書ハ之